

第5回
全国小学校キャリア教育研究協議会
京都市大会

なりたい自分につなげるキャリア教育の創造

～「学びの蓄積」を「なりたい自分」につなげるための

メタ認知能力の育成～



京都市小学校生き方探究・キャリア教育研究会

令和5年2月



はじめに

全国小学校キャリア教育研究協議会会長
京都市大会実行委員長
三浦 清孝
(京都市立岩倉北小学校 校長)

2年ぶりの京都市大会の開催となり、大会実行委員長として感謝の気持ちでいっぱいです。全国大会の開催を喜びつつ、これまでの経緯を思い起こす中、令和2年度開催の京都市大会を紙面開催とするメールを見つけました。

「平素は、研究会活動にご支援くださり誠にありがとうございます。令和2年度の第3回全国小学校キャリア教育研究協議会研究大会京都市大会の開催につきましては、紙面開催とさせていただくこととなり、現在、京都市小学校生き方探究・キャリア教育研究会が、実践研究をすすめており、来年2月を目途に、皆様のもとに研究成果をご報告させていただく予定をしております。」

今、思うと、令和2年6月の学校再開の頃は、あと数か月すれば日常が戻ってくるのではと期待しており、大会の準備をすすめていました。しかしながら、感染状況が落ち着くどころか、どんどんと悪化する中で、2月開催は難しいと考え、同年8月に上記のメールで皆様に周知しました。苦渋の決断という言葉を使いますが、その経験をした全国大会であったと思います。

そして、翌年の令和3年度も新型コロナウイルス感染症の感染継続は止まらず、まん延防止等重点措置と緊急事態宣言の繰り返しとなり学校教育にも大きな影響がでていました。そのような中で、全国小学校キャリア教育協議会においては、秋田県大館市大会と滋賀県大津市大会の分散大会として対面での全国大会を開催することができました。

その時の感謝の気持ちをお伝えしたメールも見つけました。

「コロナ禍の中、多くの全国大会は中止・延期、紙面開催、オンライン開催となり、対面での全国大会の開催はこの全国小学校キャリア教育研究協議会の全国大会が今年度初であると思います。

対面での全国大会を開催できない理由はいくらでもあげることができますが、開催をするための方法も両大会に参加して『いくらでもある』と確信することができました。これは、学校や子ども達の取組も同様であり、両大会の学びを止めない子ども達と教職員・大会関係の皆様との姿そのものであると思います。

キャリア教育は、これまでの自分の築き上げた『道』です。学びを止めることがなかったキャリア教育の実践が、なりたい自分へと続く確かな『道』をつくっているのだと感じる全国大会でした。」

まさに大会主題「なりたい自分につなげるキャリア教育の創造」に「つながる」メッセージであったと思っています。このようにして、全国小学校キャリア教育研究協議会の研究大会がつながり、小学校キャリア教育の実践がすすめられていることを皆様にお知らせする機会をつくることができましたこと改めて感謝申し上げます。

最後になりましたが、本大会を開催するにあたり、文部科学省初等中等教育局視学官 安部恭子様、日本体育大学児童スポーツ教育学部児童スポーツ教育学科教授 橋谷由紀様をはじめ多くの小学校キャリア教育研究者の方々、各都道府県の教育関係の皆様、京都市教育委員会の皆様、京都市立学校の皆様、多くのご支援、ご指導をいただきましたすべての方に心から感謝し、初めのご挨拶といたします。

来年度、東京都大会（東京都荒川区立峡田小学校 令和6年2月）で皆様とお会いできることを楽しみにしております。

祝 辞



京都市教育長
稲田 新吾

この度、日々熱意溢れる教育実践に取り組まれている先生方を京都市にお迎えし、「第5回全国小学校キャリア教育研究協議会 京都市大会」が盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。先生方におかれましては、長引くコロナ禍において、感染拡大防止と子どもたちの学びの保障の両立にご尽力されておられますことに、敬意を表します。

さて今日、情報技術の急速な発展や地政学的な課題等による国際情勢の不安定化等、将来の変化を予測することが困難な時代に直面するとともに、我が国においては、民法の140年ぶりの改正により、今年の4月から成人年齢が18歳に引き下げられるなど、大きな転換期を迎えています。

こうした中で、時代を生き抜く確かな力を児童生徒に育むためには、新学習指導要領で示されているとおり、児童生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、学校での教育活動全体を通して、キャリア教育の充実を図ることが重要です。全国小学校キャリア教育研究協議会の皆様が、「なりたい自分につなげるキャリア教育の創造」を本大会の研究主題とされ、講演会や公開授業等を通じて、研究・実践成果を共有し、研鑽を深められますことは、大変意義深いことと存じます。

本市におきましては、「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」という教育理念のもと、令和2年度から導入した「生き方探究パスポート」(京都市版「キャリア・パスポート」)も効果的に活用し、子どもたちが将来に夢と希望を持って成長できるよう小学校から高校まで継続的かつ系統的な生き方探究(キャリア)教育の推進に取り組んでいるところですが、本大会から大きな学びを得て、更に取り組を深化させていきたいと考えており、先生方におかれましても、本大会で得られたことを各校に持ち帰っていただき、児童生徒のキャリア形成の向上に向けた教育実践の充実に繋げていただきたくことを御期待申し上げます。

結びに、本大会の開催にあたり御尽力いただきました関係者の皆様に心から敬意と感謝の意を表しますとともに、本大会の御成功と御参加の皆様の一層の御活躍を祈念して、お祝いの言葉といたします。



祝 辞

京都市教育委員会京都まなびの街生き方探究館
事務局長 永田 和弘

第5回全国小学校キャリア教育研究協議会が、ここ京都の地で開催されますことを心からお慶び申し上げます。今年度は、平成30年度の第1回大会以来となる対面型で開催されるとお聞きしており、例年にも増して活発に協議が交わされ、研究を深められるものと大いに期待しております。

さて、現代社会は、人工知能（AI）やロボティクス等の先端技術の革新は留まることがなく、環境問題や自然災害、少子高齢化、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大など、かつて経験したことのない困難な課題に直面しています。今の子どもたちが生きていく未来社会では、変化のスピードは加速度を増し、5年先でさえどのような社会になるか予測できない時代になることは疑う余地もなく、答えのない課題に対し、創造性などの人間らしい力を発揮し、社会全体で協働しながら果敢に立ち向かっていかなければなりません。そうした状況を考えますと、今後、新しい時代に求められる資質・能力を明確にしながら時々の社会状況に応じたキャリア教育を実践し、人生100年時代と言われる生涯を自らキャリアデザインし、生き抜いていく力を培っていくことが重要であると認識しております。

そのため、京都市立小・中学校にキャリア教育の体験型の学習プログラムを提供している当館では、平成19年1月の開館時から実施してきたプログラムを取り止め、時代の変化を反映し、未来社会を見据えた、本市オリジナルの新たなプログラムを開発し、現在、モデル実施を進めております。新プログラムでは、未来を悲観的に捉えるのではなく、企業の皆様の参画を得て、子どもたちがわくわく感を持ちリアルに仕事等を模擬体験することを通して、未来社会に夢や希望を抱き、自ら未来を創造していく意欲が湧く体験学習の実現を目指して参ります。

今回の新プログラムの開発やモデル実施に際しては、京都市小学校生き方探究・キャリア教育研究会の先生方に多大な御協力を賜っているところであり、今後、貴協議会とも連携し、当館の取組内容を広く発信するとともに、全国の実践研究の成果を参考にさせていただきながら本市のキャリア教育の充実を図ってまいりたいと存じますので、温かい御支援をお願い申し上げます。

結びに、本大会が大きな成果を上げられ、キャリア教育を共に実践していく先生方の輪がさらに広がり、貴協議会がますます発展されますことを心から祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

目 次

■はじめに	1
■祝 辞	2
	3
■目 次	4
■大会要項	5
■校舎地図	7
■コロナ感染対策のお願い	8
■研究の概要	9
■4部会の取組	
・各教科ですすめるキャリア教育 キャリア教育の授業づくり	17
・生活科・総合的な学習の時間ですすめるキャリア教育	31
・特別活動を要としたキャリア教育 学級活動と学校行事	45
・キャリア・パスポートとポートフォリオを活用したキャリア教育	61
■分科会提案	69
・第1分科会「各教科ですすめるキャリア教育 キャリア教育の授業づくり」	70
・第2分科会「生活科・総合的な学習の時間ですすめるキャリア教育」	73
・第3分科会「特別活動を要としたキャリア教育 学級活動と学校行事」	80
・第4分科会「キャリア・パスポートとポートフォリオを活用したキャリア教育」	83
■記念講演	88
■メ モ	97
■京都市立音羽小学校の取組	101
■岩倉北小学校の取組	165
■研究会の歩み	182
■御礼	183

令和4年度 第5回全国小学校キャリア教育研究協議会 京都市大会 第2次案内

なりたい自分につなげるキャリア教育の創造

～「学びの蓄積」を「なりたい自分」につなげるためのメタ認知能力の育成～

- 1 日時 令和5年2月3日（金）11:00～17:00
- 2 会場 京都市立音羽小学校 （〒607-8066 京都市山科区音羽森廻り町32 Tel.075-592-0001）
- 3 主催 京都市大会実行委員会
 - ・全国小学校キャリア教育研究協議会
 - ・京都市小学校生き方探究・キャリア教育研究会
- 4 後援 京都市教育委員会 京都市小学校長会 公益財団法人日本進路指導協会
- 5 日程 11:30～17:00 ※11:00 受付

11:00	11:30	12:30	13:50	14:35	14:50	15:50	16:00	16:50	17:00
受付	全体会 挨拶・表彰 研究報告	昼食	公開 授業	移動	課題別 分科会	移動	安部恭子 視学官 記念講演	閉会	

(1) 全体会 11:30～12:30 司会 京都市小学校生き方探究・キャリア教育研究会

- 開催挨拶 全国小学校キャリア教育研究協議会 三浦 清孝 会長
京都市まなびの街生き方探究館 永田 和弘 事務局長 様

- 表彰 功労者表彰及び会場校表彰

- 研究報告 京都市型キャリア教育「生き方探究教育」の取組 京都市小学校生き方探究・キャリア教育研究会 研究部長 田野 早苗 教諭
音羽小学校のキャリア教育 京都市立音羽小学校 研究主任 宇都木 史 教諭

(2) 公開授業 13:50～14:35

学年・組	教科・領域	単元名	授業者
2年2組	学級活動（3）ア	「なれたかな？すてきな2年生！」	通 大介
4年2組	図画工作科	「つなぐんぐん」 ～丸めた紙で～	関崎 有輝
6年1組	総合的な学習 の時間	「わたしのすてきな生き方宣言」	上田 貴也

(3) 課題別分科会 14:50~15:50

	分科会	提案者	司会 記録	指導助言者
1	各教科ですすめるキャリア教育 キャリア教育の授業づくり	京都市立音羽小学校 宇都木 史	峰内琴美(葛野小) 西村 崇(新町小)	京都市教育委員会生涯学習部 稲葉弘和 統括首席社会指導主事
2	生活科・総合的な学習の時間 ですすめるキャリア教育	京都市立音羽小学校 小林 瑞生	辻川 孝一(音羽小) 大西裕樹(七条第三小)	京都まなびの街生き方探究館 葉山みどり 指導主事
3	特別活動を要としたキャリア教育 学級活動と学校行事	京都市立小栗栖宮山小学校 沖 一真	城谷裕司(伏見板橋小) 澤田尚吾(石田小)	日本体育大学 橋谷 由紀 教授
4	キャリア・パスポートとポートフォ リオを活用したキャリア教育	京都市立岩倉北小学校 大嶋 慧	井上拓哉(待鳳小) 義川智子(岩倉北小)	京都まなびの街生き方探究館 吉岡健志 指導主事

<時程> 60分(提案15分 研究協議30分 指導助言15分)

※会場設営の都合上、申し込み時に、参加する分科会を選んでください。

(4) 記念講演 16:00~16:50

「特別活動を要としたキャリア教育のすすめ」

講師 文部科学省初等中等教育局 視学官 安部 恭子 先生

(5) 閉会 16:50~17:00 司会 キャリア研役員

○ 閉会挨拶 京都市立音羽小学校 鍛治 真知子 校長

○ 次回開催地 東京都荒川区立峡田小学校 津田 利枝 校長

5 参加費 **3000円(資料・指導案)** ※参加申込をしていただいた学生は無料です。

○当日、受付でお支払いください。 ※銀行振込の対応はできません。

○所属とお名前をお申し出ください、受付で資料・指導案と領収書をお渡しします。

6 申し込み ※下記フォームよりお申込みください。

[https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=slaGoEcaf0aQ1HvCI7ONQz
aupLA3gIVNsyPrYOQVKSRUM0o3Vkg2TUhHTzNRVIBQQUc50FpSRzFUWS4u](https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=slaGoEcaf0aQ1HvCI7ONQz
aupLA3gIVNsyPrYOQVKSRUM0o3Vkg2TUhHTzNRVIBQQUc50FpSRzFUWS4u)



7 京都まなびの街生き方探究館の施設見学

令和5年2月2日(木)に同館の施設見学が可能です。希望される方は、

林 久徳 主任専門主事 (hi978-hayashi@edu.city.kyoto.jp) まで、ご連絡ください。

8 問合せ 京都市大会実行委員会 事務局

京都市立岩倉北小学校 校長 三浦 清孝(京都市大会事務局)

〒606-0021 京都市左京区岩倉忠在地町5 Tel 075-721-5618

E-mail vu849-miura@edu.city.kyoto.jp

9 会場アクセス

○JR「山科」駅・京阪「山科」駅・京都市営地下鉄「山科」駅から徒歩約14分(1.1km)

※山科駅前にタクシー乗り場もあります。タクシー約4分

○京阪京津線「四ノ宮」駅から徒歩9分(700m)

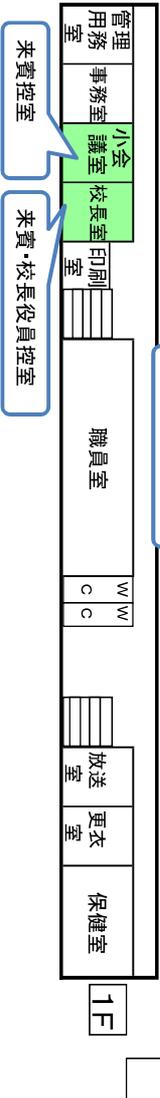
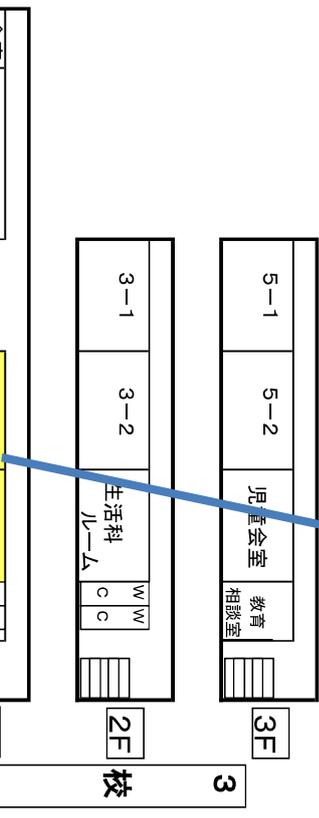
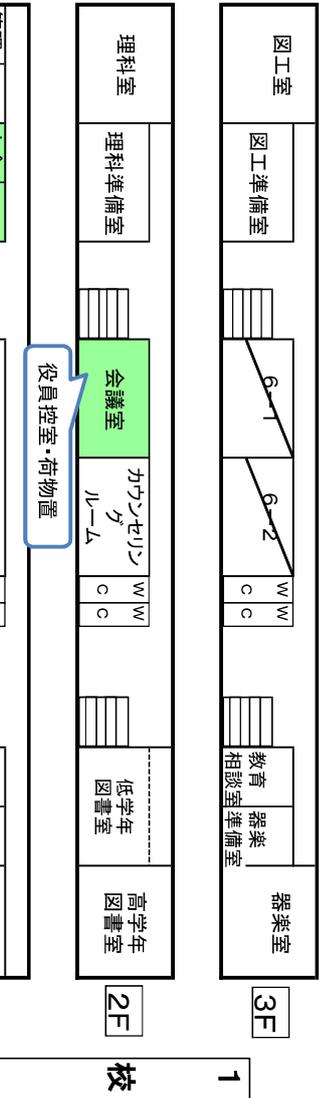
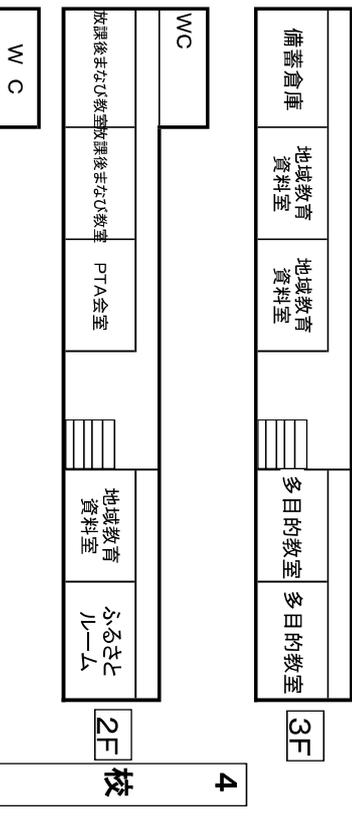
○お車でのご来校も可能です。

令和4年度 京都市立音羽小学校 (会場図)



研究授業会場
全体会場

分科会場
控室



来賓控室

来賓・校長役員控室

役員控室・荷物置

新型コロナウイルス感染症対策等のお願い

感染症対策のため、以下の内容にご協力いただきますようお願いいたします。
何かお困りの場合は近くの係の者にお声かけください。

- 1 マスクの持参、着用をお願いします。
- 2 個人でご使用になる上履きにつきましては、ご自身で管理をお願いします。また、会場では、外靴カバーを用意しております。ご活用ください。
- 3 大会の参加にあたりましては、大会当日の朝の検温をお願いします（※受付で非接触型の体温計での検温は可能です）。また、入校に際しましては、手指消毒へのご協力をお願いします。
- 4 体調管理には十分にお気をつけください。
- 5 研修中は、特に体育館、廊下等では、常時換気のため窓や扉を開放します。できる限りの暖房設備を活用しますが、防寒等には十分にご留意ください。なお教室は、ガスエアコンによる空調を使用しています。
- 6 昼食は、体育館でお取りください。人数によっては、他の教室も用意します。
- 7 大会参加中の、身体的距離の確保や会話を控えることなど、各自で感染症予防対策に心がけて行動されるようお願いいたします。
- 8 会場では、示された導線経路、教室以外の立ち入りはご遠慮ください。また、参加証（市外から参加される方は受付で名札をお渡しします。）を着用し、児童とは距離をとるようご配慮の上、長時間のインタビュー等はお控えください。
- 9 所属校等での研修活用など限定的に利用される場合を除き、児童の姿や個人が特定される作品等を撮影した画像や動画は、断り無くご利用になることは、ご遠慮ください。また、それらの画像や動画は SNS などには掲載しないようお願いいたします。

※京都市ではスマートフォン等の通信ができる機器での写真及び動画撮影は原則禁止としております。撮影をされる場合は、デジタルカメラやビデオカメラ等の通信のできない機器をご使用ください。

研究の概要

京都市小学校生き方探究・キャリア教育研究会

研究部長 田野 早苗

(京都市立池田小学校 主幹教諭)

1 令和4年度研究主題

なりたい自分につなげるキャリア教育の創造

～「学びの蓄積」を「なりたい自分」につなげるためのメタ認知能力の育成～

～カリキュラムマネジメントと生き方探究・パスポートの活用～

京都市では、キャリア教育を「生き方探究教育」として進めている。生き方探究教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」とであると定義されている。ここでいう、「必要な基盤となる能力」については、文部科学省より「基礎的・汎用的能力」として、4つの力が示されている。これを基に、平成27年度、京都市教育委員会は、「生き方探究教育で育てたい『4つの力』」を提示した。

<生き方探究教育で育てたい「4つの力」>

(H.28 京都市生き方探究（キャリア）教育スタンダードより) >

共生と自立	
人とともに 社会を生きる 力	意見の違いや立場の違いを理解し柔軟に対応する力 自分の考えを正確に伝える力 (人間関係形成能力)
	地域や家庭での役割を果たし、共に生きる力 社会に参画し、貢献する力 (社会形成能力)
自己を知り、 律する力	自分を理解し可能性を信じて主体的に行動する力 やりたいこと、できること、しなければならないことを理解する力 (自己理解能力)
	自分の考えを絶対視せず、感情をコントロールする力 現状に満足せず、達成感を次のステップの原動力として向上しようとする力 (自己管理能力)
課題を見つけ、 解決する力	様々なことに好奇心をもち視野を広げる力 身の回りや社会の事象から課題を見付ける力 課題を分析し、適切な計画を立て処理し、解決する力 よく考え意思決定をする力 (課題対応能力)

夢や希望をつくりあげる力	学校での学びと社会のつながりを意識し意欲的に学ぼうとする力 グローバルな視野をもち、自分の将来を世界と結び付ける力 働くことの意義を理解する力 生活設計をする力 (キャリアプランニング能力)
--------------	---

この「4つの力」を育むためには、児童が、自己を客観的に見つめ、人や社会との“つながり”を大切にしながら、主体的に、社会的・職業的自立に向けて能動的に自己を高めようとする態度を養うことが大切である。そのためには、「自己をよく理解し、自己のキャリア発達を客観的にとらえる視点(メタ認知の視点)をもたせることが重要である」と考え、ここ数年、本研究会の授業づくりのポイントとして取り組みを進めてきた。

“キャリア”とは、“轍(わだち)”を意味する言葉であり、轍とは、車輪が地面に残す跡を指す。轍は、馬車という主体が、道を通った後でしか確認できない。つまり轍とは、児童が様々な経験を通して形成していく成長の過程を示すものであると言える。児童は、なりたい自分になる(夢の実現の)ために、自分がたどってきた“キャリア”を客観的かつ俯瞰的に振り返り、未来へとつなげていく力を培う必要がある。

メタ的に自分を捉え、自分が様々な社会的要素とつながり合っていることを実感するとともに、将来、社会の一構成員として社会的・職業的自立を果たすという将来展望や目的意識をもたせることこそが、キャリア教育に課せられた使命であると考えている。

そこで、本研究会では、上記のねらいに応じた単元構想・授業実践をすすめる中で、意図的・計画的な振り返り活動を通して、「メタ認知能力」を培うカリキュラムマネジメントを積極的にすすめるとともに、生き方探究パスポートの等の活用を通して自らの「学びの蓄積」をすすめ、なりたい自分につなげる「キャリア教育」の創造を、今年度の研究主題として設定した。

2 令和4年度研究活動計画

今年度は、研究部、事務局を設置する。

(1) 研究部について

研究部を以下の4部会構成として、研究実践すすめる。

- ① 各教科ですすめるキャリア教育の授業づくり 部会
- ② 生活科・総合的な学習の時間ですすめるキャリア教育 部会
- ③ 特別活動を要としたキャリア教育 学級活動と学校行事 部会
- ④ キャリア・パスポートとポートフォリオを活用したキャリア教育 部会

(2) 事務局について

事務局は2つの部を設ける。

<事業部>

事業部の中心的な活動は、「第4回キャリア教育研究 京都大会」の準備・運営である。京都市立音羽小学校の研究発表会に関わり、ともに研究を進めていく。その際、担当する部会を決め、校内研究にも参加する。その中で実践を積み、キャリア教育の教科における実践の在り方を研究する。

<広報部>

広報部の中心的な活動は「生きキャリ通信」やホームページの作成・更新である。全市・全国に向けて広報することで、多くの教員がキャリア教育に取り組もうとする機運を高めたい。

(3) 令和4年度 研究会の取組計画

日時	活動内容・場所
6月2日(木)	令和4年度 前期総会 研究の概要 組織 事業計画等 第5回全国小学校キャリア教育研究協議会京都市大会について
9月～12月	4部会授業研究会(音羽小・小栗栖宮山小・岩倉北小) 音羽小学校校内授業研究会に参加
7月(夏休み)	第5回全国小学校キャリア教育研究協議会京都市大会に向けて 指導案検討・全国大会の運営等について
9月末頃	音羽小学校校内授業研究会に参加 第5回全国小学校キャリア教育研究協議会京都市大会に向けて 指導案検討・全国大会の運営等について
11月初旬頃	音羽小学校校内授業研究会に参加 第5回全国小学校キャリア教育研究協議会京都市大会に向けて 指導案検討・全国大会の運営等について
2月上旬	第5回全国小学校キャリア教育研究協議会京都市大会での京都市小学校生き方探究・キャリア教育研究会の実践発表(音羽小学校)
3月	令和4年度 後期総会 令和4年度 研究・事業の報告 研究実践報告 第5回全国小学校キャリア教育研究協議会京都大会の振り返り 令和5年度の組織・事業計画

3 令和4年度研究報告

研究部は、昨年度から4部会構成で研究を進めている。ここ数年コロナ禍で、集まった授業研究会や理論研修などができず、研究会として試行錯誤しながら進めてきた。そんな中でも、部長が中心に今でもできることを模索しながら、部会ごとに研究仮説を立て、授業研究を行ったり、研究実践を持ち寄り交流したりしてきた。授業研究会は授業の様子を映像に撮り、TeamsやZoomを活用して事後研究会を行ったり、TeamsやZoomを活用して部会を行ったりしてきた。

今年度はその規制も少し弱まり、各部会で集まった授業研究会も行うことができるようになり、従来とまではいかないが充実した研究を行うことができた。また、全国キャリア教育研究京都大会に向けて、音羽小学校の校内研究部と連携し、指導案検討や探究館の主事を招いて理論研修も行った。

以下、今年度の取組を紹介する。

(1) 各教科ですすめるキャリア教育キャリア教育の授業づくり 部会

教科部会では、研究仮説を『各教科におけるキャリア教育の展開について～キャリア教育の視点を大切にした教科指導の展開と評価について～』と立て、授業研究を中心に研究を進めている。

池田小学校で9月に行われた算数科の授業については、算数科における目標をよりよく達成するために指導者が意識しておくキャリアの視点として、「児童が具体的な場면을イメージしながら、あまりの処理について考えることができるようにする。

(キャリアプランニング能力)」「あまりの処理について、図や式を用いて話し合う中で試行錯誤しながら課題解決に向かう姿勢を育てる。(課題対応能力)」をもち、授業を行った。導入場面では、入学式の写真を示し、長椅子に4人ずつ座っていく場面を児童の体験とつなげた。問題との出会いを工夫することで、児童が意欲的に主体的に課題に取り組む雰囲気ができた。また、あまりの処理(1増やすのか、増やさないのか)について、どう考えたのかを話し合う場面を設定した。話し合う際には、2種類の考え方を表した式を板書しておき、余りを1増やすのか、そのままにしておくのかの論点が分かりやすくなるように工夫した。そうすることで、本時のねらいに迫る話し合いをすることができた。授業の最後には、学校生活の場면을示し、あまりの処理が活用されている場面(学習発表会など)をみんなで考え、共有した。



このように指導者がキャリアの視点をもって、どんな力をつけたいかを意識して授業を展開することで、児童が主体的に学びに向かい、算数科の目標にぐんと近づくことができた。(授業の詳細については、p.19～をご覧ください。)

今後も、教科の目標をよりよく達成するためのキャリア教育の視点を大切に、授業研究を進めていきたい。

(2) 生活科・総合的な学習の時間ですすめるキャリア教育 部会

生活科・総合的な学習の時間部会では、研究仮説を『生活科と総合的な学習の時間をつなげるキャリア教育～探究活動を通じてメタ認知能力を高め、能動的な学び手の育成を目指して～』と立て、京都市のオリジナルプログラムを活用した授業研究を進めている。

昨年度は、これまで京都市で取組を進めてきたスチューデントシティ学習の代替案として「わくわくワーク～なりたい私に向かって～」(以下、「わくわくワーク」)を中心に取組を進めた。

このプログラムでは、①社会には様々な職業があることを知ること、②働くことの意味や意義を考えること、③働く時に大切なことや必要な力があることに気付くこと、④社会の変化と未来の社会(Society5.0)について知ること、⑤学校の学びと自分の将来とのつながりに気付き、学びへの関心・意欲を高めることの5つをねらいとして、シミュレーションゲームにより仕事を体験できるプログラムになってい



る。（プログラムの詳細については、p.37～をご覧ください。）

児童は「わくわくワーク」の仕事体験を通して、働くことについて大切なこと・大変なことの両面に気付き、今の自分が将来に向けてどのような力をつけていく必要があるのか、気付くことができた。

今年度は、その「わくわくワーク」での学習をより充実させるために、京都まなびの街生き方探究館にある体験型施設を活用した本市オリジナルのプログラム、「わくわく WORK LAND」学習について研究を進めた。

昨年度までの学習にプラスして、体験型施設にある小さな社会で社会人として働いてみることで責任ややりがいを感じることができた。また、同じ会社で働くメンバーと「お客様に八ツ橋のよさを知ってもらう商品 POP を作ろう。」「町のホットステーションとなるコンビニとはどんな店か考えよう。」など答えのない問いに取り組むことで、自分一人では気付けなかったアイデアに気づいたり、友達とより良いものに練り上げていく楽しさに気づきたりし、たくさんの児童が充足感を得ることができた。これは、社会の一員として実際に体験したからこそ得られる充足感である。その後の学習として、体験型施設で「働くこと」について学んだことを生かして、「マイプラン」を作成した。自分の将来に向け、どのような力が必要なのか、そのために今できることは何か、どのような働き方をしていきたいのかをまとめた。さらに、社会人として働く人からもらったアドバイスを受けて、練り直し、保護者に自分の生き方についてプレゼンテーションを行った。



今後も、「わくわく WORK LAND」での体験活動が自己実現につながる充実した活動になるよう、プログラムをブラッシュアップしていきたい。

（3）特別活動を要としたキャリア教育 学級活動と学校行事 部会

特別活動部会では、研究仮説を『一人一人のキャリア形成と自己実現を支える、自信や自己有用感を高める授業 ～自己の役割を自覚し、主体的に考えて行動できる児童の姿 三年次～』と立て、授業研究を中心に研究を進めている。

児童が、自分のよさや価値を見つけ、自身の存在や将来に対して自信や希望が持てるように、そして、集団での自己の役割を見つけ主体的に考えて行動できるように、昨年度より、学級内での当番活動に着目し研究活動を行ってきた。1年次は、係活動について、2年次、3年次は、当番活動に着目して授業研究を進めた。授業を考える際には、「発達段階を強く考慮した授業づくり」「授業実践前後に道徳の学習において、価値が意識づけできるようなカリキュラムマネジメント」を意識して取り組んだ。

1年次は、5年生で「学級活動(3)イ」に取り組んだ。学級活動(1)で話し合った、学級目標に近づく集団になるためにあった方がよい係などを考え、一人ひとりが自分の好きなことややりたいことを考え係に所属した。その後の係活動では、「自分や係のメンバーで活動を行うことで学級目



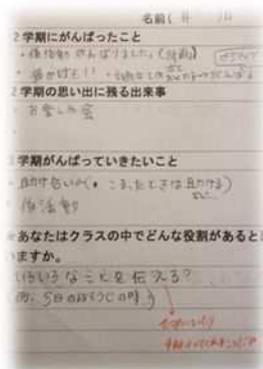
標に近づける」という想いを共有しながら、グループで創意工夫し自主的に取り組めるようにした。一人ひとりに役割があるため、誰一人かけても係が成り立たない。そのことで児童は、自己の存在意義を実感し、より学級目標に近づこうと意欲的に頑張る姿が見られた。すべての係活動が以前より活発に活動していた。

指導者の事後の課題として、内容項目「学級活動(1)イ学級内の組織づくりや役割の分担」と「学級活動(3)イ社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解」が混在しないように指導者が意識する必要があった。また、それぞれ事前に行った他教科の学習内容が、児童の思考に影響を及ぼすことが分かった。

2年次、3年次は、1年生で「学級活動(3)イ」に取り組んだ。1年児童ということもあり、学校生活においてまず、当番活動のみを1年間取り組ませることにした。当番は、学級生活をみんなが気持ちよく過ごすために学級の仕事を全員で分担して行うということを意識させ取り組ませた。一人一役ではなく三人一役にすることにより、助け合いながら活動する経験から学級目標に対しての達成感を持てるようにした。3年次には、2年次において課題であった、「つかむ」の実態把握を理想像ではなく実態に近づけるための手立てとして、集団でアンケートの検証を行った。その結果、2年次よりは適切に児童の実態をつかむことができた。また、「きめる」際の声掛けとして、2年次は心構えについて意識させすぎてしまい、具体的な行動に繋がらなかったことから、発達段階も考慮し、行動のみの意思決定もよいことを伝えた。そうすることで、どのように行動するかを書いている児童の姿も見られた。

3年次は、道徳科「はたらくところ おふろばそうじ」・生活科「にこにこだいさくせん」との関連を持たせ「学級活動(3)イ」に取り組んだ。「にこにこだいさくせん」では、自ら進んで家庭での仕事を考え、家族をにこにこさせるための活動ができた。それは学校での当番活動にも置き換えられることを児童に知らせることで、クラスみんなのにこにこにつながった。

3年間の実践を経て、成果としては、高学年は「係活動が活発化した」「年度当初に立てた計画を見直すきっかけになった」「係活動のメンバー同士のコミュニケーションが増えた」など前向きな事後の感想が聞こえてきた。低学年は、児童の姿より感じ取ったこととして、活動に対してさらに前向きな姿を目指そうというような言動が見られるようになった。今後は、特別活動の学級活動(3)の内容項目を取り扱う上で学級づくりが大きく学習に影響することから、児童本来の思いや素質を発揮する土壌をつくること、安心感のある学級環境を整えることを大切にしながら、特別活動の授業に取り組んでいきたい。



(4) キャリア・パスポートとポートフォリオを活用したキャリア教育 部会

キャリア・パスポート部会では、研究テーマを『児童のキャリア発達を可視化するポートフォリオの在り方と、「生き方探究パスポート」の作成、及び活用の可能性に

ついて研究を深める』と設定し、市内でも先進的に取組を進めている 2 校に焦点を当て、「いかに成長を可視化するか。」また、「各記録をいかに成長につなげるか。」ということに重点を置き、2 校の取組を通して考察している。今年度の取組については、午後からの分科会提案でお話させていただくので、ここでは昨年度の取組について紹介する。(キャリア・パスポート部会の取組は、年間を通して実践し検証しているため)

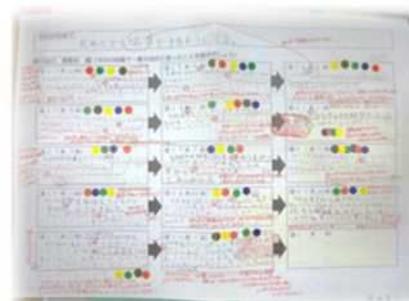
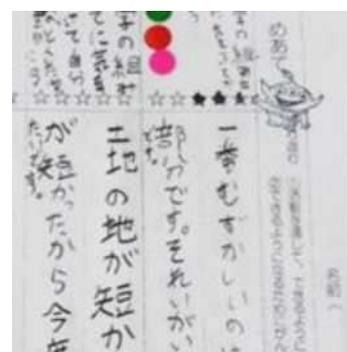
昨年の岩倉北小学校の 4 年 2 組では、児童が身に付けたい力を話し合い、キーワード化して子どもがどの場面でもキャリア教育で身につけさせたい力を意識して取り組めるように「キャリア・レンジャー」を作成して取組を進めた。そのようにすることで、成長の可視化をめざした。児童は自分の成長の足跡を、レンジャーの色と連動した色シールを活用してワークシートに残していく。書写の時間では、教科で付けたい力の振り返りとともに、キャリア・レンジャーの視点でもシールを使って振り返った。文章ではなく、シールを活用することで、児童は負担なく取り組むことができた。岩倉北小学校では、他にも体育や図工の時間などでこのような取組を行った。クラスみんなで負担なく自分たちの成長を可視化して残すことができる取組となった。

年度末に行った特別活動の時間には、友だちと様々な振り返りシートを共有することで、自分の成長や友だちの頑張りに気づくとともに、次学年に向けての目標設定を行っていた。自分たちの成長に気づくことで、自己肯定感や自信の高まりにつながり、意欲的に次の目標を考え、次々に発表する様子が見られた。

この取組のほかにも、岩倉北小では、学校行事で児童のキャリア発達を促す取組にも力を入れている。

「行事に臨む前の気持ち」→「練習中や話し合い後の気持ち」→「本番直前」→「行事が終わってからの振り返り」というように、行事を通して、自分の気持ちの変化や感じたことを記録していった。それは、時には友だちと交流したりグループでの話し合いに活用されたりすることで、大切な個人の成長記録となった。また、担任が目を通し、その児童の成長をコメントとして記録したり、赤線で強調したりすることや、キャリアカウンセリング的にかかわることで、それはただの記録ではなく、児童のキャリア形成に大きな影響を与えるポートフォリオとしての役割を持つことができた。このように全校行事は、ポートフォリオの作成がしやすいという利点がある。岩倉北小学校

では、ポートフォリオの作成については学校体制として取り組んでいるものの、その取り組み方や、各学年で行事を通してつけさせたい力については各学年に委ねている。そうすることで、指導者にとってもこの取組がより主体的なものとなり、「やら



されている取組」から脱却できる。日々成長する児童を見取り、キャリア発達を促す指導者自身が主体的に取り組まなければ、児童の主体性を育てることは難しい。取組自体を「主体的なもの」にしていく工夫が、そういうところにも垣間見えた。

今後は、昨年度よりバージョンアップした今年度の研究内容をより多くの学校に知らせていきたいと考えている。そうすることで、少しでもキャリア・パスポートの取組が浸透していくようにしていきたい。児童のキャリア発達の足跡を残し、自己理解を深め、これから先のキャリアプランニングを促す足場としてのキャリア・パスポートの在り方について、これからも研究を深めていきたいと考えている。

各教科ですすめるキャリア教育

キャリア教育の授業づくり

令和4年度 京都市小学校生き方探究・キャリア教育研究会 部会研究計画

部会名	各教科ですすめるキャリア教育 キャリア教育の授業づくり部会	部長	宇都木 史（音羽）
副部長	峰内 琴美（葛野）	庶務	宇都木 武（醍醐西）
部員	高田 栄美子（洛中） 関崎 有輝（音羽） 吉岡 悟（醍醐西） 河合 真利子（九条塔南） 中久保 崇志（鏡山） 船津 佳文（池田東）		
研究テーマ サブテーマ	各教科におけるキャリア教育の展開について ～キャリア教育の視点を大切にした教科指導の展開と評価について～		
設定理由	<p>キャリア教育は「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義されている。「必要な基盤となる能力」については、文部科学省より「基礎的・汎用的能力」として、「社会を生きる力」「自己を知り、律する力」「課題を見つけ解決する力」「夢や希望をつくりあげる力」の4つの力として示されている。</p> <p>本部会では、これらの「4つの能力」を育む取組を各教科においてどのように展開していくのかに重点を置いて研究を進めてきている。昨年度までのキャリアパスポートを活用した授業展開の工夫に加え、本年度は、キャリアの視点をもった教科指導の在り方、また、キャリアの視点をどう児童と共有するのかについても研究を進めたい。教科でつきたい力とキャリア教育でつきたい力のバランスや見取りについても研究を深められたらと考えている。</p>		
研究計画 ・内容 ・方法 ・場所 等	<p>5月 研究計画作成</p> <p>6月～12月 部会授業 算数科 池田小 田野 早苗先生 葛野小 峰内 琴美先生</p> <p>2月 全国キャリア教育研究協議会京都大会</p> <p>3月 まとめ</p>		

第3学年 算数科学習指導案

指導者 京都市立池田小学校 田野 早苗

1 日 時 令和4年9月9日(金) 第3校時

2 学年・組 3年1組(30名)

3 単元名 あまりのあるわり算

4 単元目標

- (1) 除法の余りの意味を理解し、余りのある除法の計算をするとともに、場面に応じて、適切に余りの処理ができるようにする。
- (2) 数量の関係に着目し、計算の意味や仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見出したりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたり、計算を日常生活に生かすことができるようにする。
- (3) 余りのある除法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。

5 単元の評価基準

(1) 知識・理解

余りのある除法の計算の仕方が分かり計算ができるとともに、場面に応じて余りを的確に処理することができる。

(2) 思考・判断・表現

除法の意味に基づいて、余りのある除法の求め方を考え、除数と余りの大きさの関係をとらえて、説明している。

(3) 主体的に取り組む態度

あまりのある除法に関心をもち、進んで生活や学習に活用しようとしている。

6 単元について

【育成を目指す資質・能力】

本単元の内容は、指導要領において次のように示されている。

第3学年 [A 数と計算]

(4) 除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア 次のような知識及び技能を身につけること。
 - ア 除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。また、余りについて知ること。
 - イ 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。
 - ウ 除法と乗法や減法との関係について理解すること。
 - エ 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできること。
 - オ 簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を知ること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - ア 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。
 - イ 数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かすこと。

これまでに児童は、除法の意味と乗法九九を1回適用してできる除法（あまりのない場合）について、第2単元で学習している。本単元ではさらに進んで、乗法九九を1回適用してできる除法で、あまりのある場合の計算の意味と計算方法について学習する。あまりのある除法を用いる場合についても、余りのない除法と同様に進んで問題解決に活用できるようにする。

第3学年で扱う除法の計算は、除数と商が1位数の場合、つまり、 $24 \div 2$ （あまりなし）や $24 \div 5$ （あまりあり）など、乗法九九を1回適用して商を求めることができる計算である。第3学年の除法の計算は、第4学年で学習する九九の範囲を超える計算につながっていくので、確実に技能を身に付けられるようにすることが大切である。

7 単元を通して培いたい力

時	○学習活動 及び ◆評価	数学的な見方・考え方を育む意図的な場の設定 ⇒「問題意識をもち、思いや考えを表現する」の実現
1	○おかしを分ける場面から、余りのあるわり算について調べ、計算の仕方や計算の意味を理解する。 ◆ $13 \div 3$ のようなわり算の答えを、数図ブロックを使わないで見つけよう。	・わり切れない場合の除法の計算の仕方について、既習のわり切れる場合をもとに考え、半具体物や図などを用いて考えられるようにする。【伝え合う②】
2	○わり算の意味に着目し、余りはいつもわる数より小さくなることを考え、説明する。 ◆わる数と余りの大きさについて調べよう。	・余りと除数の関係を、半具体物や図式などを用いて考えられるようにする。【話す②】
3	○等分除で余りのあるわり算の意味を理解し、余りのあるわり算の立式や計算をする。 ◆同じ数ずつ分けて余りのあるわり算について考えよう。	・わり切れない場合の等分除の計算の仕方を、わり切れる場合の等分除をもとに考えられるようにする。【伝え合う②】
4	○わり算の操作や計算の仕方をもとに、余りのあるわり算の答えの確かめ方を理解する。 ◆わり算の答えの確かめ方を考えよう。	・余りを求めた時の計算と逆の計算をすればよいことを、半具体物を操作しながら考えることで気付けるようにする。【話す②】
5	○余りのあるわり算の意味や表し方を理解し、式に表したり計算したりする。	・学習内容の定着及び学びなおしをする。

6 (本時)	○問題場面にあわせて余りの処理の仕方を考え、説明する。 ◆余りをどうすればよいのかを考えて、長いすの数を求めよう。	・問題場面の余りの意味に着目し、半具体物や図や式を用いながら考えることで、答えは商+1になることに気付けるようにする。【伝え合う④】
7	○問題場面にあわせて余りの処理の仕方を考え、余りを切り捨てて処理する。 ◆余りをどうすればよいのかを考えて、立てられる本の数を求めよう。	・問題場面の余りの意味に着目し、半具体物や図や式を用いながら考えることで、答えの余りは切り捨てることに気付けるようにする。【聞く④】
8 9	○「学びのまとめ」に取り組み、学習内容が定着しているかを確認する。 ○単元における学びを振り返る。	学習内容の定着及び学びなおしをする。

8 児童の実態から、学力向上・学力定着へつなげる指導支援

学習内容や資質・能力に関わる児童の実態 ○よさ ▲課題	◇「主体的・対話的な学び」を育むための具体的な手立てや支援
<p><知識及び技能></p> <p>○九九の定着は、7割の児童ができる。</p> <p>○既習のわり算の学習では、半具体物や図を使って考えると解くことができた。</p> <p>▲具体物を使わないとできない児童が2割ほどいる。</p> <p>▲わり算の計算をする時に、九九表で確認しながら商をたてる児童もいる。</p>	<p>◇問題文と合わせて半具体物を効果的に使って提示することで、課題を適切に把握できるようにする。</p> <p>◇自力解決の時に、絵や図を使って考えることを声かけし、できている子には、友達にどのように説明したらよいか自分の考えを言葉で書かせる。</p>
<p><思考・判断・表現力等></p> <p>○図や絵を使いながら、自分の考えを書けるようになってきた。</p> <p>○友達の意見のよさに気づき、積極的に取り入れようとする児童もいる。</p> <p>▲説明を書くことに苦手意識を持っている児童が数名いる。</p> <p>▲誰が見ても分かるノートづくりができていない児童がいる。</p> <p>▲等分除と包含除の区別がつきにくい児童がいる。</p>	<p>◇問題解決の過程を伝え合う場面では、半具体物を操作しながら説明することで理解できるようにする。</p> <p>◇言葉で説明することが難しい場合は、絵や図だけでもいいことを知らせ、少しずつ自分の考えを書けるようにする。</p> <p>◇友達に説明する時に、自分の考えと同じ、同じでも少し違う等、友達の考えも認めながらも、自分の言葉で説明できるようにする。</p> <p>◇図や絵を用いて、式や言葉と関連付けながら具体的イメージをもって理解できる</p>

	ようにする。(ICTの活用) ◇よいノートを紹介することで、良いノートのイメージが持てるようにする。
<学びに向かう力> ○問題把握の後、「見通し」を持つ時間を設定することで、それをヒントに立式できる児童が増えてきた。 ○できるようになりたいと自主学習で勉強をしたり、教えてほしいと聞きに来たりする児童は多くいる。 ▲問題を見ただけで、無理とあきらめ、手が止まってしまう児童が多くいる。 ▲自分の意見に自信がなく、発表に消極的な児童が多い。	◇問題解決の「見通し」を持つことで、主体的に活動できるようにする。 ◇「できた」「やればできる」を積み重ねることで、自己肯定感を持てるようにする。 ◇ペアで説明し合うことで、自信が持てるようにする。

9 この単元で児童が意識するキャリアの視点例

キャリア教育で育みたい基礎的・汎用的能力は、明確なカテゴリーや線引きがあるわけではなく、児童につけてほしい資質・能力を、指導者が共通理解するために言語化したものである。下記は、算数科の授業を通して身に付けさせるには、このようなことを指導者が意識して指導することで、身に付けさせることができるのではないという一例である。

生活場面からの導入

算数科で学習した内容や考え方は、日常生活のいろいろな場面で活用する。そこで、問題把握の場面では、自分の生活と関連付けて考えることができるように、半具体物を用意したり、大型ディスプレイに挿絵を提示したりしてイメージできるようにしている。また、学習したことが日常のどの場面で生かすことができるのか具体的に伝えるようにしている。そうした学習を繰り返すことで、子どもたちは算数で学習した内容や考え方が「自分の生活をよりよくしている！」と感じ、意欲的をもって学習に向かうことができるようになる。このような経験を繰り返し行い、深めることで基礎的・汎用的能力の1つである「キャリアプランニング能力」との関わりが深い学習活動である。

既習事項の活用

算数科では、既習事項を使って初めての問題を解決する。既習事項を使いこなすためには、既習事項を自分で認知する必要がある。そこで、毎時間の振り返り(学習の足跡)を『学びのふりかえりカード』に残し、自己の学びを振り返る手立てとしている。また、授業の中で、「前にどんなことを習ったかな?」「どうやって解決したらいいか、ヒント

を探してみよう！」と声をかけ、『学びのふりかえりカード』やノートを振り返る機会を意図的に作っている。そうすることで、ノートをとることの意義や毎時間の振り返りを書く意義を実感させるようにしている。このように、意義を実感しながら毎時間の振り返りを繰り返し行うことで、メタ認知能力を養い、基礎的・汎用的能の1つである「自己理解・自己管理能力」との関わりが深い学習活動である。

見通し

問題把握場面において、見通しを持つ時間を持つことで、主体的に粘り強く学習に向かうことができるようにしている。算数科においては、およその大きさや形を大局的にとらえて答えを予測したり、計算の答えをおよそで予測したりすることが、手際よく問題を解いたり、誤答を減らしたりするために必要になってくる。毎時間見通しを持つ中で、「答えは、大体〇〇くらいかな」「わり算で求められそう」など、おおよその答えを予測したり、問題の言葉を手掛かりに演算決定したりすることができるようにしていきたい。さらに、手が止まっている児童には、見通しを持つ時間を設けることで、他の児童の意見を手掛かりに、「解けそう！」と主体的に問題に向かうことができるようになればいいと考えている。このような取組を通して、基礎的・汎用的能力の1つである「課題対応能力」との関わりが深い学習活動である。

学び合い・高め合い

学び合い・高め合う授業を構築するために、「問題提示→見通し→ひとり学び→みんな学び→まとめ→適応題」という流れをルーティン化して、児童が見通しを持って授業に臨めるようにしている。また、既習事項を問題解決につなげるために、ノートの取り方も4月から指導している。学び合い・高め合うには、まず、自分の考えをもつことが必要である。そこで、ひとり学びの時間には、自分の考えを筋道立てて説明ができるように、図や表、絵や言葉で表すようにしている。そして、ペア学習や全体交流の際には、ノートに書かれた説明（図や表、絵）を指し示しながら、根拠を持って話したり、聞く人に伝わるように順序よく話したりすることを意識して発表するようにしている。このような取組を通して、基礎的・汎用的能力の1つである「人間関係形成・社会形成能力」との関わりが深い学習活動である。

10 指導計画

【指導のポイント ㊦手立て !配慮事項 他他教科等との関連 ㊦個別支援】

時	○学習活動 ◆主な発問 子どもの反応	指導のポイント	評価
1	<p>○おかしを分ける場面から、余りのあるわり算について調べ、計算の仕方や計算の意味を理解する。</p> <p>◆13÷3のようなわり算の答えを、数図ブロックを使わないで見付けよう。</p> <p>・余りのあるわり算もわる数のだんの九九を使って見付けられます。</p>	<p>㊦数図ブロックを3つずつ分ける活動をする。</p> <p>㊦余りのあるわり算は、$13 \div 3 = 4$あまり1と書くことを知らせる。</p> <p>㊦余りのないときわり切れるといい、余りのあるときをわり切れないということを知らせる。</p> <p>ICT タブレットや大型提示装置などを活用し、画像の拡大提示やかき込み、動画などで余りのあるわり算の場面を確認することもできる。</p>	<p>態① 知①</p>
2	<p>○わり算の意味に着目し、余りはいつもわる数より小さくなることを考え、説明する。</p> <p>◆わる数と余りの大きさについて調べよう。</p> <p>・わり算の余りは、いつもわる数より小さくなるようにします。 あまり<わる数</p>	<p>㊦余りとわる数が等しいときは割り切れることに気付けるようにする。</p>	<p>思①</p>
3	<p>○等分除で余りのあるわり算の意味を理解し、余りのあるわり算の立式や計算をする。</p> <p>◆同じ数ずつ分けて余りのあるわり算について考えよう。</p> <p>・同じ数ずつ分ける余りのあるわり算も、わる数の段の九九を使って見付けられます。</p>	<p>㊦数図ブロックを使って3つに分ける活動をする。</p> <p>㊦ブロックの操作を通して、答えが正しいか、余りは除数より小さいか確かめられるようにする。</p>	<p>知①</p>
4	<p>○わり算の操作や計算の仕方をもとに、余りのあるわり算の答えの確かめ方を理解する。</p> <p>◆わり算の答えの確かめ方を考えよう。</p>	<p>㊦あめの数はかけ算で求められることを想起できるようにする。</p>	<p>態① 知①</p>

	<p>・ $23 \div 5 = 4$ 余り 3 は、$5 \times 4 + 3 = 23$ のようにして確かめる。</p>		
5	<p>○余りのあるわり算の意味や表し方を理解し、式に表したり計算したりする。</p>	<p>㊦時間差、到達度の差などを考慮して、補充問題及び発展問題を用意しておく。</p>	知①
6 (本時)	<p>○問題場面にあわせて余りの処理の仕方を考え、説明する。</p> <p>◆余りをどうすればよいのかを考えて、長いすの数を求めよう。</p> <p>・ みんなが座るには、長いすがもう1脚いるので、余りを切り上げて考えます。</p>	<p>㊦絵や図にかいて考えられるようにする。</p> <p>㊦実際に長椅子に座ったり、数図ブロックを操作したりして、みんな座るには長椅子がもう1脚必要であることを理解できるようにする。</p>	思①
7	<p>○問題場面にあわせて余りの処理の仕方を考え、余りを切り捨てて処理する。</p> <p>◆余りをどうすればよいのかを考えて、立てられる本の数を求めよう。</p> <p>・ 余った2cmのところには本は入らないので、余りを切り捨てて考えます。</p>	<p>㊦絵や図にかいて考えられるようにする。</p> <p>㊦実際に本を並べたり、数図ブロックを操作したりして、理解できるようにする。</p>	知①
8 ・ 9	<p>○「学びのまとめ」に取り組み、学習内容が定着しているかを確認する。</p> <p>○単元における学びを振り返る。</p>	<p>㊦今までの学習を振り返れるようにする。</p> <p>㊦「やってみよう」は学習内容の定着状況や興味・関心に応じて取り組めるようにする。</p>	知①

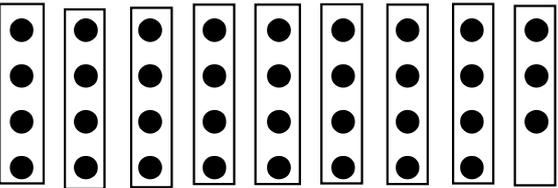
11 本時について (6/8)

(1) 目標

あまりを切り上げて処理すればよいわけを考えたり、説明したりできるようにする。【思①】

(2) 展開

	○学習活動 ◆発問 ・児童の反応	◇支援 *留意点 変個別支援 ㊦キャリアの視点
課題把握	<p>1 課題把握</p> <p>○挿絵を見て気付いたことを出し合い、 どのような問題かを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが長いすに座っている。 ・1つの長いすに4人すわっている。 ・今日もわり算で計算すると思う。 <p>○問題文を知り、問題解決の見通しを立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>問題</p> <p><u>35人の子どもが、長いす1きやくに4人ずつすわっていきます。</u> <u>みんながすわるには、長いすが何きやくいりますか。</u></p> </div> <p>◆分かっていることと尋ねていることは何ですか。線を引いてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かっていることは、子どもが35人。 ・分かっていることは、1きやくに4人ずつすわることです。 ・尋ねられていることは、みんながすわるには、長いすが何きやくいるかです。 ・わり算でもとめます。 <p>◆どんな式になりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・$35 \div 4 = 8$あまり3です。 <p>○めあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて あまりをどうすればよいかを考え、長いすの数をもとめよう。</p> </div>	<p>◇挿絵を見せることで、長いすについての理解を深め、問題場面を捉えやすくする。</p> <p>㊦挿絵だけでなく、数図ブロックを4こずつ並べていくことで、長いす1脚に4人ずつ座っていく様子をイメージできるようにするとともに、生活経験を想起させる。</p> <p>◇問題文を読み、分かっていることと求めることに線を引かせることで、問題解決に必要な情報を整理できるようにする。</p> <p>㊦見通しを持つことで、主体的に粘り強く学習に向かうことができるようにする。</p> <p>◇式を確認し、既習の問題との相違を考えることで、余りを処理する必要があることに気づくことができるようにする。</p>
自	<p>2 自力解決</p> <p>○長いすの数のもとめ方を考える。</p> <p>◆「みんながすわるために」余りをどうすればよいか考えて、自分の考え</p>	<p>めあてにつなげる</p>

<p>力 解 決</p> <p>集 団 解 決</p>	<p>と答えをノートに書きましょう。</p> <p>・ $35 \div 4 = 8$ あまり 3 <u>答え 8きやく</u> 【誤答】</p> <p>・ $35 \div 4 = 8$ あまり 3 残った3人をすわらせるためには、 もう1きやく必要だから <u>答え 9きやく</u></p> <p>・ 図を書く。</p>  <p>残りの3人もすわらないといけ ないので、いすは、全部で9きやくいる。</p> <p>3 集団解決</p> <p>○長いすの数のもとめ方を話し合う。</p> <p>◆必要な長いすの数は、8きやくとい う意見と9きやくという意見がある けど、どちらの答えが正しいのかな。</p> <p>・ 計算すると、8あまり3になるから 8きやくです。 【誤答】</p> <p>・ 尋ねていることに、「みんながすわ るには」と書いてあるから、9きやく必 要だと思います。</p> <p>$35 \div 4 = 8$ あまり 3 みんながすわるには、もう1きやく必 要だから 答え) 9きやく</p> <p>◆そうですね。みんなが座らないとい けないので、長いすは9きやくい りますね。これを式で表すことができ ます。</p> <p>$8 + 1 = 9$</p>	<p>◇これまでの学習の足あとを側面掲 示しておくことで、ひとり学びの際の思 考のヒントとなるようにする。</p> <p>◇前時までの学習とのちがいを確認す ることで、余りの数に着目できるよ うにする。</p> <p>㊦考えを書くことにつまずいている児 童には、まず図を書くように声をかけ る。必要に応じて、●図カードを渡し、 図に書きこみながら考えるように助 言する。</p> <p>◇8きやくと考えている児童には、●図 をもとに考えるように促し、あまりの 3人を視覚的に捉えられるようにす る。</p> <p>㊦問題を早く解き終えた児童には、自分 の考えをもっと分かりやすく友だち に伝えるためには、どのような工夫を したらよいか書き加えるようによ うに促す。</p> <p>*図を使いながら、自分の考えを説明で きるようにする。(タブレット端末の 活用)</p> <p>㊦自分の考えと友だちの考えを比べな がら聞くことで、考えを広げたり深め たりできるようにする。</p> <p>◇8きやくと考えている児童がいる場 合には、●図を丸で囲ませ、あまり の3人に着目させる。そして、その 3人が座るには、もう1きやく必要 だということに気づけるようにす る。</p> <p>◇児童の出した式や図の中に、言葉や数 字の意味を書き込みながら板書する ことで、思考が見えるようにする。</p> <p>*図を指し示しながら9きやく目は、3 人しか座らないけど、長いすは必要 であることをおさえるようにする。</p>
---	---	--

<p>は、生活のどんな場面で生かせそうですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題にあわせて、答えを1ふやすことがあることが分かった。 ・みんなで体育館に集まるときに長いが何きやくいるか、これからは計算で求められそうです。 ・自分は、上手な説明ができなかったけど、友達は、図を使って分かりやすく説明していました。 	<p>㊦児童の振り返りの中で、キャリア教育の視点に触れて書かれているものがあれば、全体で共有することで、学ぶ意義を感じることができるようにする。</p> <p>㊦生活のいろいろな場面で、算数で学習したことが生かされていることや、それを使うことで自分たちの生活がよりよくなることに触れるようにする。</p>
--	--

(3) 評価

【思①】	問題に応じた商の処理の仕方を考え、説明している。
「おおむね満足できる」状況と判断できる「発表・ノートへの記述」	
・あまりを切り上げて処理すればよいわけを図や絵で表し、説明することができている。	

(4) 板書計画

めあて あまりをどうすればよいかを考え、長いすの数をもと

まとめ 問題にあうように考えて、答えを1ふやすこと



35人の子どもが、長いす1きやくに4人ずつすわっていきます。
みんなすわるには、長いすが何きやくいらしますか。

1ふやす

もう1きやくいるか

8きやく

35 ÷ 4 = 8 あまり 3

人 人ずつ きやく のこる人

●●● 残り3人
もう1きやくふやして 9きやく

1きやくふやす

2

(式) 11 ÷ 2 = 5あまり1
全部運ぶにはもう1回運ぶので 6回
(答え)

6回

3

(式) 52 ÷ 8 = 6あまり4
全部よむにはもう1日ひつようなので

第3学年 算数科「あまりのあるわり算」

指導者 池田小学校 田野 早苗

算数科における本時の目標

- ・あまりを切り上げて処理すればいいわけを考えたり、説明したりできるようにする。(思考・判断・表現)

指導者がもっておくキャリアの視点

- ・児童が具体的な場面をイメージしながら、あまりの処理について考えることができるようにする。(キャリアプランニング能力)
- ・あまりの処理について、図や式を用いて話し合う中で試行錯誤しながら課題解決に向かう姿勢を育てる。(課題対応能力)



授業の様子 (キャリアの視点について)



- ・導入時に文章題のイメージがもてるよう、入学式の写真を示し、長椅子に4人ずつ座っていく場面を児童の体験とつなげた。問題との出会いを工夫することで、児童が意欲的に主体的に課題に取り組む雰囲気ができた。
- ・あまりの処理(1増やすのか、増やさないのか)について、どう考えたのかを話し合う場面を設定した。話し合う際には、2種類の考え方を表した式を板書しておき、余りを1増やすのか、そのままにしておくのかの論点が

分かりやすくなるように工夫した。そうすることで、本時のねらいに迫る話し合いをすることができていた。

- ・適応題の場面では、ボールを両手で運ぶ場面を演じ、1度に2つずつ運ぶ条件について理解できるようにした。
- ・学校生活の場面を示し、あまりの処理が活用されている場面(学習発表会など)をみんなで考え、共有した。本時の学びが日常生活でも活用されることを知り、児童の算数科への取組の意欲が高まることが期待される。



まとめ

指導者が、キャリア教育の視点を持ち、どんな力をつけたいかを意識して授業を展開することで、児童の姿が変わった。また、児童の実生活とつなぐことが大切だと感じた。

**生活科・総合的な学習の時間
ですすめるキャリア教育**

令和4年度 京都市小学校生き方探究・キャリア教育研究会 部会研究計画

部会名	生活科・総合的な学習の時間ですすめるキャリア教育部会	部長	通 大介（音羽）
副部長	辻川 孝一（音羽）	庶務	大西 裕樹 （七条第三）
部 員	安部 萌（音羽） 中村 幸祐（新町） 上田 貴也（音羽） 小林 瑞生（音羽） 近松 沙来（常磐野） 扇 拓也（常磐野） 村上 和純（大宮）		
研究テーマ サブテーマ	生活科と総合的な学習の時間をつなげるキャリア教育 ～探究活動を通じてメタ認知能力を高め、能動的な学び手の育成を目指して～		
設定理由	<p>今年度は、音羽小学校にて全国キャリア教育研究協議会の大会が行われる。音羽小学校では、「各教科」「学級活動（3）」「生活・総合的な学習の時間」の3つの柱で研究を行っている。その流れの中で、各学年部では、「生活科」・「総合的な学習の時間」の充実に取り組んでいるが、その2つのつながりについてはあまり考えられていない。今年度は、部長の私が2年生の担任ということもあり、生活科の充実に焦点を当てながら、3年生からの総合的な学習の時間へのスムーズなつながりができるようにしたい。そのために、3年生以上と連携しながら、2つの共通点を見出し、子どもたちの学びをつなげるキャリア教育の充実を研究テーマとしたい。</p> <p>順序としては、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①生活科と総合的な学習の時間の共通点と相違を明らかにする ②共通点に焦点を当ててキャリア教育の視点をもって2つをつなぐことをしていきたい。 <p>※サブテーマのメタ認知能力の育成が共通点と仮説を立てているが、よりよい共通点があればそちらに変えていく。</p>		
研究計画 ・内容 ・方法 ・場所 等	<p>6月 研究テーマ・年間計画決定、研究の進め方の検討 前期総会 部会研究計画の提案</p> <p>1月～2月 部会の実践のまとめ</p> <p>3月 後期総会での研究実践報告</p>		

生活科と総合的な学習の時間をつなげるキャリア教育
～2年生生活科「もっともっとまちたんけん」の単元を通して～

京都市立音羽小学校

教諭 通 大介

1 はじめに～「もっともっとまちたんけん」の単元について

本単元は、2年生の2学期から行う単元である。1学期に「まちをはっけん・だいはっけん」を学習しており、その時との違いを大切にしながら進めていく活動である。また、音羽小学校では、3年総合的な学習の時間「わたしたちのまちじまん～音羽ツアーガイドになろう～」という単元で、「音羽校区内を中心に、すてきなところを、歴史的な側面を踏まえて様々な観点から探し、地域について愛着をもつ。」という活動を行っている。そういった現状も踏まえ、3年生総合との関連を考えながら、学習を行っていく。

単元の目標とは、「地域と関わる活動を通して、これまでの活動の経験を生かしながら、地域の人や場所の存在についてより深く考えたり、他者に伝えたいことを考えたりし、地域での生活はさまざまな人や場所と関わっていることや、他者と関わることによさに気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身につけ、地域に親しみをもって生活したり、他者と進んで交流したりすることができるようにする。」となっている。今回は、特に、「地域の人や場所の存在についてより深く考えたり、他者に伝えたいことを考えたりし、地域での生活はさまざまな人や場所と関わっていることや、他者と関わることによさに気付く」ことに焦点を当て、キャリア教育で大切にしたい4つの力のうち「人間関係・社会関係形成能力」を中心に育てていきたいと思う。また、生活科では「地域の人に直接話を聞いたり、地域のお店で売っているものの変わり具合を感じたりするなど、「直接体験」が大切であること考えられる。それらを大切にしながら学習を進めていきたい。



2 学習について

(1) ホップ

町の人や場所について思い出し、秋の町探検への意欲を高める。

～前単元から学びをつないで、ものから人への興味を促す～

前単元「まちを たんけん 大はっけん」では、子どもたちは、「すずやには、いつも人気の四ノ宮コロッケがある。」「夢ひろばには、自分たちが学校に行っている間にも、小さい子供たちが楽しそうに遊具を使っている。」など、町にあるいろいろな「もの」に目を向けた。この単元で気付いたことを、本単元では、地域の人へとつなげていく。「どうして、四ノ宮コロッケは人気なのかな？いつからだれが作っているのかな」「花屋さんの花は季節が変わって花が変わっていたけど、誰が花を育ててお世話しているんだろう。」と、新たな疑問が出てくると、町にあるいろいろな「もの」から、それらにかかわる「人」に目が向いていく。本単元では、子どもたちがじっくり町の人と関わり、町への思いや考えをさらに深めることができるようにしていた。



キャリア教育の視点として大切にしたこと

キャリアの教育の視点として大切にすることは、まちたんけんを「商店街付近」と「公園付近」に分け、意図的に変化が分かるようなしかけをつくることである。商店街付近には、「肉屋」「花屋」「和菓子屋」「八百屋」など、春との違いが分かる場所がたくさんあり、売っているものや、並んでいるものに「秋限定」「今だけ」など、子どもたちが春に見つけた場所が変化していることに気付くことができていた。まちたんけん後のふりかえりでは、「商店街の変化」に注目している児童が多くおり、「だれが何をしているか」に興味をもっている様子だった。

(2) ステップ

ステップでは、自分たちの町の人や場所について関心を高め、インタビューなどを通して町のよさに気付き、町に親しみをもつことができるようにする。

前单元「まちをはっけん・大はっけん」では、クラス全体での探検が主な活動であったが、本单元では、子どもたちが主体的に活動できるように、小グループに分かれて探検できるように計画する。グループでの話し合いや実際の探検のことを考え、3～4人くらいのグループで活動する。子どもたちがもっと知りたいと思う場所の中で地域の方をお願いをし、「交番」「花屋」「肉屋」「和菓子屋」「八百屋」「喫茶店」の6か所行く予定を計画し、グループごとにインタビューをして自分たちの知りたいことを聞き取った。

その後、ポスターやリーフレットなどで表現をする時には、一から作るのではなく、町探検に行った時にカードなどに表現してためておいたものを使う。吹き出し型やギザギザ型、ハート型、罫線の入ったものや枠だけのものなど、様々な形のカードを用意しておき、日常的にまちたんけんのふりかえりを集められるようにしておく。

集めた情報を、いろいろな人に伝えるときには、そのかきためたカードを使い、自分の伝えたいおもいや考えに合わせて、順番に並べたり、ランキングにしたりした。また、後から感じること、思ったこと、気付きたことなど、付け足したいことは、直接台紙の画用紙や模造紙にかき加えていたり、新たにカードをかきたしたりしていった。

まとめた後には、「この発表を誰かに伝えたい」という思いを持つ児童がたくさんおり、1年生と連携して、自分たちがつくったポスターやパンフレットなどを見てもらう機会を設けた。



キャリア教育の視点として大切にしたこと

地域の方々にインタビューをお願いする中で、「交番」「花屋」「肉屋」「和菓子屋」「八百屋」「喫茶店」の6か所行く予定を計画することができた。その中で、子どもたちは「自分が育った街をよくするために花屋を作った」「父親が大切にしてきた町の和菓子屋続けていきたい」など、地域の方の地域を思う気持ちや、働く人々の思いを感じ、ふりかえることができていた。これらは、キャリア教育で大切にしたい、「生き方を学ぶ」ことにつながっているのではないかと感じる。

(3) ジャンプ

これまでの活動を振り返り、自分たちの生活が地域と深く関わっていることに気づき、これからも地域と関わろうとする気持ちをもつことができるようにする。

今後は、単元の学習が終わっても、子どもたちの日々の生活に町との関わりがあるようにしたい。「生活科の学びを生活化」できるようにするため、日記や作文を書く学習や宿題のテーマを「町」にするなど、今後も意識を「音羽の町」に向けられるようにしていきたい。

キャリア教育の視点として大切にしたこと

先述したように、3年生の「総合的な学習の時間」にも触れ、3年生の総合的な学習の時間のまとめの発表を聞く機会をつくる。そうすることで、「まだまだ町について知らないことがある」という意欲や、次学年での学習に、期待感をもつことができる。こういったつながりを意識しながら、ジャンプの活動をつくっていききたい。



3 まとめにかえて

今回、2年生生活科と総合的な学習の時間のつながりを意識しながら学習を進めてきたが、その中で大切だと思うことが2つあった。

1つ目は、「直接体験の大切さ」である。2年生でも、インターネットなどを使用しながら、街の情報収集などをしてみたが、子どもたちにはあまり効果的ではなかった。やはり発達段階も踏まえて、直接見る、聞く、感じるものが、より子ども達に興味・関心を持たせ、街への愛着などをもたせるきっかけになることを感じた。コロナ禍で難しい部分であったが、こういった「直接体験」をこれからも大切にしていきたい。

2つ目は、「振り返りの大切さ」である。特に2年生では、まだまだ友達同士でふりかえりを見合ったり、その振り返りで何かを気づき合ったりすることは難しかった。時間との相談になるが、「子どもたちの気づき」を教師がひろって広げ続けることで、より子どもたちの振り返りがよくなっていく。そういった地道な活動を、「生活科」では大切にしていけることが重要であると感じた。

職業観や勤労観の素地を培うためにプログラム

「わくわくワーク～なりたい私に向かって～」を

効果的に活用した実践のあり方

京都市立七条第三小学校

大西 裕樹

1 はじめに

令和3年度にスチューデントシティ学習の代替案として「わくわくワーク～なりたい私に向かって～」(以下、「わくわくワーク」)を総合的な学習の時間の単元の中で活用できるようにプログラムが提供された。

このプログラムでは、①社会には様々な職業があることを知ること、②働くことの意味や意義を考えること、③働く時に大切なことや必要な力があることに気付くこと、④社会の変化と未来の社会(Society5.0)について知ること、⑤学校の学びと自分の将来とのつながりに気付き、学びへの関心・意欲を高めることの5つをねらいとして、シミュレーションゲームにより仕事を体験できるようになっている。

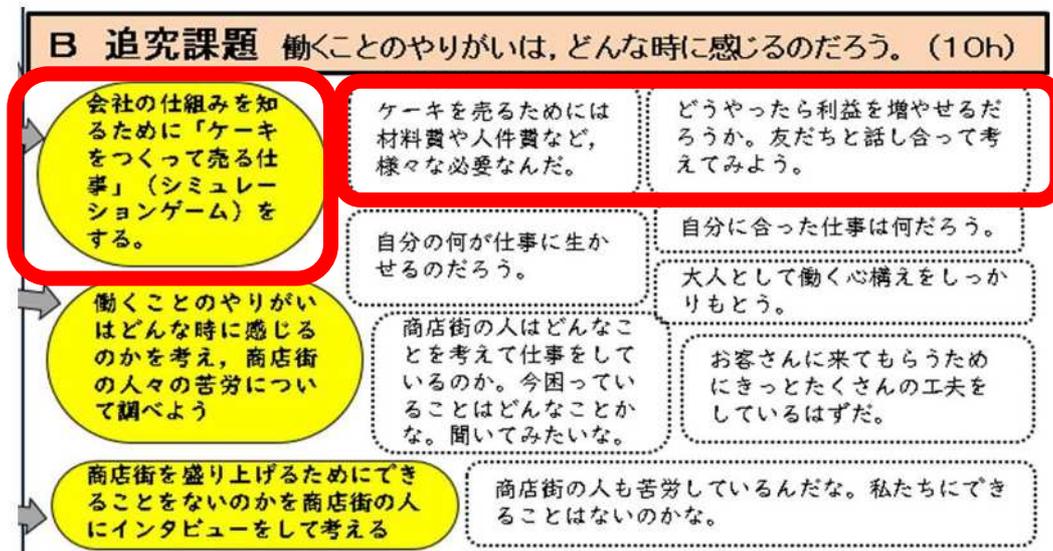
プログラムの内容は「働くことについて考える(8時間)」と「将来の自分をイメージし、「働く時に大切なことや必要な力」について考え、「マイプラン」をつくる(8時間)」、計16時間を基本として、児童が未来の社会や働くことへの興味関心をもち、将来のなりたい自分に向かって今何ができるかを考えられるように、各校の総合的な学習の時間の単元構想の中に位置づけ、実践することになっている。

2 実践の実際

(1) 単元構想の見直しと「わくわくワーク」の位置づけ

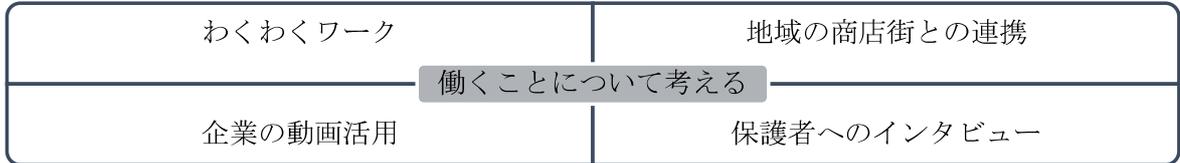
スチューデントシティ学習での体験活動を「わくわくワーク」に移行するにあたって、まず行ったことは「単元構想の見直し」である。単元のどの場面で「わくわくワーク」を位置付けるのかを検討して、体験活動のねらいを明らかにして、単元に位置付けた。(図1参照)

図1



また、「わくわくワーク」の体験活動を“つなぐ”ために大切にしたいのが、「外部人材の活用」である。シミュレーションゲームにより仕事を体験するということで、より実感を伴う活動となるように次の3つの外部人材を活用した。(図2参照)

図2



1つ目は、地域の商店街との連携である。事前に児童から、「わくわくワーク」の体験活動に向けて、実際に働いておられる方から聞きたいことを集約して、商店街の会長さんにインタビューをした。働くことへの思いやお客さんと接する時に大切にしていること、商店街全体で取り組んでいることなど、地域の様子を交えながらお話いただくことで、働くことへのイメージを膨らませることにつながった。

2つ目は、生き方探究館から発信されている企業の動画活用である。京都にゆかりのある企業から提供された動画を見て、働く人の思いに触れたり、調べたいことの答えを探ったりして、地域の商店街の方以外の思いや考えを知ることができた。

3つ目は保護者へのインタビューの実施である。保護者がどのような仕事に就き、どのようなことを考えて仕事をしているのか、インタビューしてたしかめ、また学級全体で交流することで、様々な職業について関心を広げることができた。

これら3つの外部人材と「わくわくワーク」を発見課題「人はなぜ働くのだろう。」と追究課題「働くことのやりがいは、どんな時に感じるのだろう。」の中で位置付けて実践を進めた。

(2)「わくわくワーク」とは

「わくわくワーク」では、ケーキをつくって売る仕事を製造に特化したシミュレーションゲーム(活動の流れの説明:別紙1)を通して、仕事体験をする。そして、仕事体験から「働くこと」について分かったことや思ったことから「働くこと」について情報を集める。材料の仕入数(材料費)や納品数(売上高)により利益が決まる。

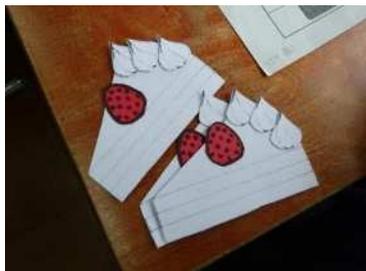
材料はいくつかまとめて販売されることからロスをなくすために作るケーキの種類や数を決める必要がある。たくさん仕入れすぎると、材料だけが残りに、早くたくさん作ろうとすると、納品の際に検品され、商品として受け取ってもらえないこともある。

これらシミュレーションゲームのきまりをふまえながら、限られた時間の中で同じ会社に働く仲間と協力して、ケーキを製造する。



活動は第1期と第2期に分かれ、第1期と第2期の間には中間振り返りの時間があり、良かったことや改善すべきことと改善方法など、第1期の仕事を振り返り、第2期につなげるようになっている。

第1期と第2期の間の中間振り返りの様子では、丁寧な製品づくりの大切さや材料料をできるだけ余らせないように仕入数を工夫すること、時間を管理すること（納品時刻を意識すること）、効率的な作業のために役割分担することなど、よりよい仕事のために必要なことはどんなことなのか、会社ごとに活発に意見交流をすることができていた。



中間振り返りを通じた気づきを全体でも交流することで、「さらに頑張ろう」と児童一人一人の意欲を引き出すことにつながり、第2期ではより児童の主体的に活動する様子が見られた。



（3）実践後の児童の振り返りから見えてきたこと

実践後に児童に対して、①「ケーキをつくって売る」をして大切だと感じたこと、②「ケーキをつくって売る」をして大変だと感じたこと、③学習の振り返りの3点について振り返りを行った。（別紙2-1・2-2参照）

また、それらを基礎的・汎用的能力で整理して、体験後の変容を分析した。（別紙2-3参照）

「わくわくワーク」の仕事体験を通して、児童一人一人が働くことについて大切なことと大変なことの両面に気づき、今の自分が将来に向けてどのような力をつけていく必要があるのか、気付くことができていた。その背後には、「わくわくワーク」を単発で扱うのではなく、それらをつなぐ“人との出会い”や“社会で働く大人の思いにふれたこと”が大きかったと考える。

3 おわりに

体験活動によって基礎的・汎用的能力につながる視点にも多くの児童が気付くことができしており、主体的に学びに向かう姿が見られたことは大きな成果としてあげられる。

また、複数学級の学校での実施であったため、商品の納品・検品は担任以外の教職員で行った。ある側面ではあるが、商品の納品・検品で厳しくチェックすることで、大人の厳しい目、社会の厳しさを教えることにつながったと考える。

目的は、利益を追い求めることではなかったが、利益が数字として見えることから、それを目的化している会社もあり、どこにゴールをもっていくのかは体験前に十分に理解できるように働きかけておく必要があると考える。



グループでケーキの製造会社を運営し、ケーキをつくって売る（納品する）。
利益（もうけ）が出るように働く。

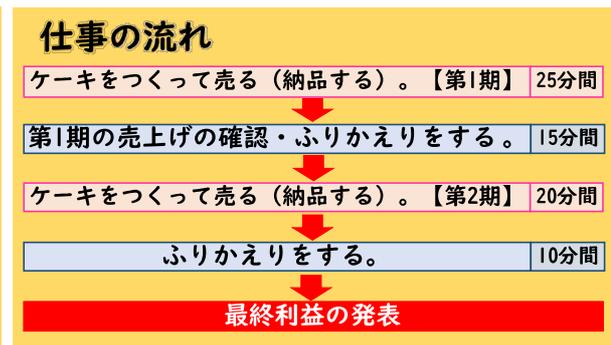


会社の利益（もうけ）
「売上額」－「会社を運営するために必要な費用」

電気代・ガス代・水道代・設備費・材料費
通信費・広告宣伝費・運送費・印刷費
事務用品費・新聞図書費・研究開発費
セキュリティシステム費・人件費・税金・
法律相談料・修繕費・・・など

「ケーキをつくって売る仕事」に必要な費用

・材料費	
・人件費	700円×人数分
・電気代	200円
・通信費	500円
・運送費	1000円
・事務用品費	200円

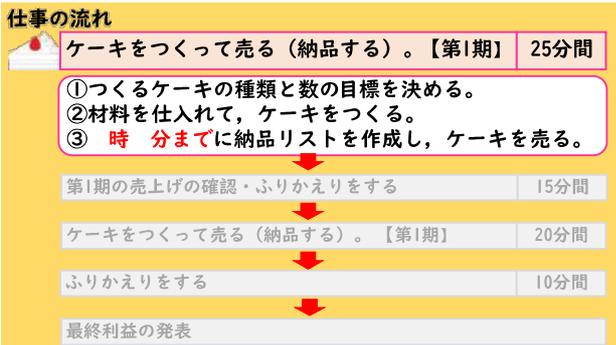


- ケーキをつくって売る（納品する）
- ① つくるケーキの種類と数の目標を決める。
 - ② 材料を仕入れて、ケーキをつくる。
 - ③ ケーキを売る（納品する）。

きまり

- ・ ケーキは、見本通りにつくる。
- ・ 第1期であまった材料は、第2期で使える。
- ・ 材料仕入表や納品リストは、正しく入力する。
- ・ 納品の時刻を守りましょう。
- ・ **必ず、全員が仕事をする。**

きまりにないことは、自分やグループで考えて活動する。



別紙 2 - 1

① 「ケーキをつくって売る」をして大切だと感じたこと

- ・ 役割分担・段取り・協力・すばやく丁寧に作ること・集中力
- ・ 見えないお客さんのことを考えて仕事をする事・敬語で話すこと
- ・ 相談や会議をすること・お客さんの気持ちを考えながら作ること
- ・ 助け合い・もうけや材料費のことなどお金のことを考える
- ・ コミュニケーション能力・相手のことを思いながら作ること
- ・ 工夫して仕事をする事・仲間意識・チームワーク（効率よく作るために）
- ・ 判断する力（考える力）・仕事を楽しむ・相手の喜ぶ姿を考える
- ・ あきらめないこと（少しでも売ろうと時間いっぱい商品を作り続ける）
- ・ 急がずあせらず正確に作ること・真剣さ

② 「ケーキをつくって売る」をして大変だと感じたこと

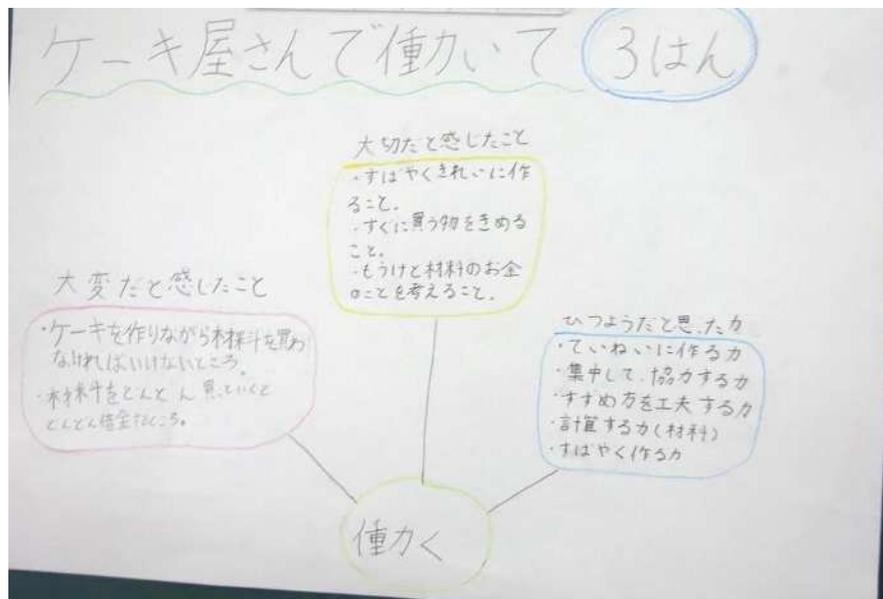
- ・ 細かい作業を無駄なくすばやく分担してやること
- ・ 時間に遅れないように作ること
- ・ 自分の仕事だけでなく周りのペースを考えて時間を合わせて作ること
- ・ 何をいつまでにいくつ作るのか計画して作業すること
- ・ 今どのように動けばよいのかを考えて仕事をする事
- ・ ケーキを作りながらケーキを作るための材料を買わなければいけないこと
（同時にやるのが難しかった）
- ・ 材料をどんどん買うと借金になるからそのバランスを考えること
- ・ ケーキを切ったり貼ったりすること（作ること）
- ・ 時間内に届けること
- ・ どうやったら利益が出るのかを考えて作らなければいけないこと
- ・ 相談してやらないと一人一人がやっていることがバラバラになってしまって逆に時間がかかること
- ・ 利益を出すこと
- ・ 考えるだけでは分からなかったこと
（実際にケーキを作ってみて、仕事の大変さを感じた）

③ 学習の振り返り

- ・ 体験をして未来の自分に必要な力が分かりました。
- ・ 時間を気にしたり、丁寧に作ったり、実際のケーキ屋さんはいろいろなことを考えながら仕事していることが分かり、思ったよりも大変で他の仕事でも同じだと思うので仕事の大変さが分かりました。仕事は協力するといいなと思いました。
- ・ 最初は「簡単だ」「余裕だ」と思っていたけれど、やってみると「難しい」「大変だな」と思いました。協力やチームワーク、役割分担が必要だとわかり、思っていたより難しかったです。実際の仕事も同じなのかと思いました。今回の経験を他のことや日常生活の中でも生かしていきたいです。

- ・仕事は思っていたより頭を使う大変なことだと思いました。すばやくきれいに正しく作ることが特に難しかったです。材料の値段を考えて、ケーキを作ることも大変でした。でも、みんなで協力するとうい結果が出るのが分かったので、仕事をするには協力することが大切だということに気が付きました。
- ・仕事の体験をして「コミュニケーション」が大切だと考えました。なぜなら、どんな仕事でもコミュニケーションをとることが大切で人との関わりで大切になってくるからです。すばやく正確にていねいにケーキを作ることも大切だと考えました。
- ・コミュニケーションをたくさんとることで、チームワークが生まれて、そこから新たなコミュニケーションが生まれてチームワークが高まっていくのでこの2つが大切だと思いました。

別紙 2-2 活動後の児童の振り返りの班ごとのまとめ



- ケーキ屋さんで働いて (6はん)
- | | |
|--|---|
| <p>☆ 大切だと感じたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やくわり ・だんじり ・チームワーク | <p>☆ 必要だと思った力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糸田かい作業をすばやくする力 ・チーム力 ・集中力 ・協力 ・計画する力 |
| <p>☆ 大変だと感じたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少しでもおくれないうようにすること ・きれいに作ること ・細いさぎょう作業のとき | |

別紙 2-3 児童の振り返りを基礎的・汎用的能力へ整理

人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・ 自己管理能力	課題対応能力	キャリア プランニ ング能力
<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担 ・協力 ・助け合い ・コミュニケーション能力 ・敬語で話すこと ・相談や会議をすること ・仲間意識・チームワーク（効率よく作るために） 	<ul style="list-style-type: none"> ・お客様の気持ちを考えながら作ること ・見えないお客様のことを考えて仕事をする こと ・あきらめないこと（少しでも売ろうと時間いっぱい商品を作り続ける） 	<ul style="list-style-type: none"> ・段取り ・すばやく丁寧に作ること ・もうけや材料費のことなどお金のことを考える ・相手のことを思いながら作ること ・工夫して仕事をする こと ・判断する力（考える力） ・急がずあせらず正確に作ること 	<ul style="list-style-type: none"> ・真剣さ ・集中力 ・仕事を楽しむ ・相手の喜ぶ姿を考える

※ 4つの能力については相互に関連・依存した関係であることから分類は一例である

特別活動を要としたキャリア教育

学級活動と学校行事

令和4年度 京都市小学校生き方探究・キャリア教育研究会 部会研究計画

部会名	キャリア教育の要としての特別活動 と特別の教科道徳部会	部長	沖 一真
副部長	城谷 裕司	庶務	澤田 尚吾
部 員	沖 一真 (小栗栖宮山) 青戸 直之(祥栄) 中川 ひなの(吉祥院) 城谷 裕司 (伏見板橋) 野間 大輔(音羽) 澤田 尚吾 (石田) 楠本 恵理(小栗栖)		
研究テーマ サブテーマ	一人一人のキャリア形成と自己実現を支える、自信や自己有用感を高める授業 ～自己の役割を自覚し、主体的に考えて行動できる児童の姿 二年次～		
設定理由	<p>学校での学習に自分の将来との関係が見出せずに、学習意欲の低下・学習習慣が身につかないといった児童が学校生活に困りを抱えている。そのような児童には、「自分のよいところがわからない」「将来の夢はない」などの発言がある。</p> <p>自分のよさや価値を見つけ、自身の存在や将来に対して自信や希望が持てるように、集団での自己の役割を見つけ主体的に考えて行動できる児童の育成を目指すための学校生活における、学級内での当番活動に着目し、研究活動を行っていきたい。</p> <p>主には、小学校学習指導要領(平成29年3月告示)第6章特別活動 2 内容(3)一人一人のキャリア形成と自己実現 ア現在や将来に希望や目標を持って生きる意欲や態度の形成・イ社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解、の内容を踏まえつつ、低・中・高学年の発達段階における児童の主体性のある姿を見つけながら、よりよい当番活動の在り方を研究していきたいと考える。</p> <p>今年度は三年次として、①発達段階を強く考慮した授業づくり、②授業実践前後に道徳の学習において、価値が意識づけできるようなカリキュラムマネジメントの二点を意識したい。</p>		
研究計画 ・内容 ・方法 ・場所 等	<p>○研究テーマ・年間計画決定、研究の進め方の検討 『学級活動(3)イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解』 【当番活動による教育効果】を取り扱った授業研究</p> <p>○月例部会(役職部会)</p> <p>○公開授業の指導案検討【3学期予定 小栗栖宮山小学校1年1組】</p> <p>○部員による各学年における、(3)イの指導案づくり・授業実践</p> <p>○音羽小学校との連携</p> <p>①小栗栖宮山小学校1年1組 ②石田小学校2年1組 ③伏見板橋小学校6年1組</p>		

キャリア教育の要としての、特別活動と特別の教科道徳部会の取組

R4年度 キャリア教育の要としての、特別活動と特別の教科道徳部会

京都市立小栗栖宮山小学校

沖 一真

<小栗栖宮山小の実践>

京都市立小栗栖宮山小学校の1年1組では、入学後から学校生活において豊かな読書活動の実践を目指し、毎日の登校後20分朝の読書時間を設け、児童の語彙力向上や文字との出会いを意識しながら、日々活動している。

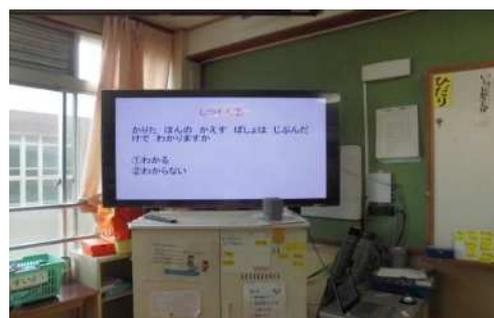
入学してひと月が経ったころには、ひらがなの活用能力も向上し、読書ノートへの記入や、家庭学習の内容も充実してきた。それまでは担任が読み聞かせを行い、本の題名の最初の5文字程度で全体指導を行い一斉に記入してきたが、徐々に児童が自分の力で本の題名を書ききることや、自由帳に自ら計算問題を書き行ったり、生活科での学習を真似て見つけたものや好きなものをカードに書いたりなど主体的な自主学習の姿が見られるようになってきた。

1年1組では、6月下旬の学級活動の時間に、学級活動(3)ウの内容項目で授業実践を行った。この実践では、今までの自分の活動を振り返り、自分と学校図書館の関係を見つめる体験を通して、今後の学校生活における図書や学校図書館との関わりを考える素地を養いたいと考えた。

右の写真は、児童が学級の学校図書館との関わりについての質問に答えている場面である。ここでは、これまでの研究実践の反省から振り返りを個人作業から集団で行うことを取り入れた。昨年度の低学年の研究実践では、正しく自己評価を行えず、理想の自分を想起した回答が多く、正しい実態把握ができなかったことがあったからである。

- ・本を大切にできている
- ・学校図書館の利用頻度
- ・本の見つけ方

の3点にフォーカスする。その結果、昨年度の実践よりは担任が見取っている状況と近い振り返りができ、現状や課題をつかむことに成功したと考えている。



【さぐる】場面

次にみんなが気持ちよく学校図書館を利用できるための約束、本の居場所についての紹介を司書教諭から聞く活動を行った。司書教諭からの学校図書館の約束事や、学校図書の説明を聞く活動を通して、自分が学校図書館との関わり方についてさぐる場面である。高学年児童が作った掲示物などにも注目し、「きもちよくつかうためのやくそく」を見つけることを意識させた。普段関わりが少ない司書教諭の話聞くことで、ひとつひとつの説明を聞き逃さずに聞こうとする姿を見せていた児童が多かった。また、本の分類表の存在や、読書ノートに分類をわかりやすく示すページなどを紹介された児童は手元に資料がある状態で活動することができ、深く考えられている児童も多かった。



【みつける】場面

これまでの学校図書館への関わり方を振り返り、自分が学校図書館でできることを考える活動の場面では、司書教諭の紹介に合った学校図書館の掲示物や分類表などを実際に確認し、これからの学校図書館との関わりについて考えたことを近くの座席の児童と伝え合う活動を行った。学級の友達と意見を交流する機会を設け、さらに全体でも発表の場を設けることで考えが広がるようにした。また、友達の見解を受けて、さらに自分で工夫した考えを出す児童の姿も見られた。なかなか自分の考えが持てない児童の支援にもつなげることができた。



【きめる】場面

最後に、図書館の使い方や読書の目標などを考え、自分のめあてを「がんばりカード」に書く場面である。【みつける】場面において交流を行ったことで、児童全員が自分の考えを書くことができた。しかし、ワークシートからは本を大切にしていきたいといった内容や、学校図書館のきまりを守りたいといった内容が多かった。学級活動(3)の主体的な学習態度の形成を目指した内容としては、学校図書館に来る回数を増やしていこうと記した児童の振り返りをさらに多く考えてくれればと反省した。



【活動後の実践の姿】



授業以降、自ら学校図書館の本の場所
がわかり、自分の力で返却することや
友達へのアドバイスを送ること、本を
探することができるようになった児童の
姿。



授業以降、学級の図書に対しても大切
に扱おうとしている、本棚の整理整頓
を自ら進んで行っている児童の姿。



授業以降、読み進めることが楽しくな
り、200冊読書を達成した児童の
読書ノート。

【児童のワークシート】

学校図書館や図書を通じて主体的な学習態度の形成につながると考えられるワークシート

たのしいな

がっこう としょかん

めあて

なまえ()

がっこうとしょかんとながはくなる

きめる!

これからがんばりたい

「どくしょのめあて」をかこう。

もじととしょかんにくる

たのしいな

がっこう としょかん

めあて

なまえ()

がっこうとしょかんとがよくなる。

きめる!

これからがんばりたい

「どくしょのめあて」をかこう。

ほんをこねねいにする

【児童のワークシート】

学校図書館や図書を通じて主体的な学習態度の形成につながりが弱いと考えられるワークシート

たのしいな
がっこう としょかん
めあて なまえ()

がっこうとしょかんをたのしくよくなる

きめる！
これからがんばりたい
「どくしょのめあて」をかこう。

ほんをだれにせよつかう

たのしいな

がっこう としょかん

めあて ⇒ なまえ ()

がっこう としょかん と なかよく なろう

きめる!

これから がんばりたい

「どくしょのめあて」をかこう。

ほんをきれいにしよう

たのしいな

がっこう としょかん

めあて

なまえ()

がっこうとはかんとながはくがらう。

きめる!

これからがんばりたい

「どくしょのめあて」をかこう。

じふんでちせんとしまう。

たのしいな

がっこう としょかん

めあて

なまえ()

がっこう としょかんとなかよくなるう

きめる!

これから がんばりたい

「どくしょのめあて」をかこう。

きもちよくつかいたい

第1学年 学級活動（3）指導案

指導者 京都市立小栗栖宮山小学校 沖 一真

1 日 時 令和4年7月19日（火） 第5校時（14:00～14:45）

2 学年・組 第1学年 1組（29名）

3 題 材 「たのしいな 学校としょかん」
（ウ）主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用）

4 題材について

（1）児童の実態

本学級の児童は、明るく素直な児童が多い。休み時間になると元気よく外へ飛び出し、仲よく遊ぶ姿や学校図書館や中庭で虫取りをするなど、自分のしたいことをする姿が多く見られる。交友関係を見ると、最初は同じ保育園の児童同士が遊ぶことなどを目にする機会が多かったが、今はしたい遊びを通してグループができつつある。男女の仲もよく、グループをつくる際にも男女の垣根を越えて組むことができる。

学級活動については、4月に児童、保護者、担任の願いを盛り込んだ学級目標を設定し、その上で1学期の学級目標を決定した。また学級会オリエンテーションを行い、学級会の進め方や話合いの約束などについて共通理解を図った。その後、「雨の日あそびを考えよう」「1学期がんばったね会をしよう」などの議題で話し合い、実践を積み重ねてきた。これらの活動を通して、児童はみんなで協力して実践する楽しさを味わい、学級会の進め方も副司会や書記を担当するなど少しずつ身に付けてきた。

学級帰属意識を持つことができるようになった児童が多くなってきた結果から、教室環境についても意識できる児童が増えてきた。反面、物の扱いが雑な児童の姿も見られる。特に、朝の読書活動の後の学級本棚への本の返却の場面では、顕著に教室環境への意識の違いが表れる。本のサイズに合わせて本棚を選ぶ児童や、本の分類などを自分なりに解釈し整頓する児童もいる。また、違う向きで返却する児童や、本の上に積み重ねる児童、本に落書きをする児童も見られる。

以上から、今回の題材を設定し、児童と学校図書館、図書への関わりを考えられる時間として取り組みたい。

（2）題材選定の理由

本題材は、主体的な学習態度の形成と学校図書館等に関わる内容である。これまで子どもたちは、4月に入学してから学校での学習を人生初めての体験として意欲的に取り組む姿がある。さらに、「しゅくだい」という言葉に対して、興味を持ち家庭学習に取り組んでいる。しかし、体を動かし、教室外での活動が好きで、教室での学習に対してあまり意欲的ではない児童や、家庭学習に対して後ろ向きな姿勢の児童も見受けられる。そこで本題材では、4月からの学校生活において自分が読書活動や図書に対してどのように取り組んできたかを振り返り、さらに読書活動や学校図書館との他者の関わり方を共有し、学校図書館との好ましい関わり方を考えさせたい。また、友達の読書活動の状況などを知り自らの新しい目標を考えるきっかけを作ってほしい。活動を通して、主体的に

読書活動に取り組む姿や、言葉に対して興味を持つ「主体的な学習態度」を身につけてほしい。

5 第1学年および第2学年の評価規準

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	希望や目標を持つこと、働くことや学ぶことの意義を理解し、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸課題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分合った解決方法を意思決定して実践している。	現在及び将来にわたってよりよく生活するために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを生かし、他者と協働して、自己実現に向けて進んで行動しようとしている。

6 事前の指導

児童の活動	・指導上の留意点	◎目指す児童の姿 (観点) 【評価方法】
事前アンケートに記入する。 ① 学校図書館への利用状況。 ② 本の返却方法の状況。 ③ 本の見つけ方	写真などで場面を想起させ、自らの行動を振り返り易くする。	自らの活動を振り返り、自己の課題について考え話し合っている。(集団や社会の形成者としての思考・判断・表現) 【様相観察】

7 本時のねらい

学校図書館には、いろいろな本があることを知り、みんなが気持ちよく楽しく学校図書館を利用できるように、約束や決まりを守って活用する。

8 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点	資料	目指す児童の姿と評価方法
導入 (つかむ)	1 1学期を思い出し、自分と図書館の関わりについて話し合い、問題意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1学期で図書にかかわる様々な経験や努力したことを振り返り、一人一人が関わってきたことを気づくことができるようにする。 ・ 本を大切にできている ・ 学校図書館の利用頻度 ・ 本の見つけ方 の3点にフォーカスする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート結果 ・ 読書ノート 	
展開 (さぐる)	2 みんなが気持ちよく学校図書館を利用できるための約束や、本の居場所についての紹介を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料を見たり、司書教諭の話を聞いたりし、これからの本の扱いや、選び方を考えることができるようにする。 ・ ラベルや分類表の意味を知り、ラベルに従って本を戻せるように実践することで、今後も活用しようとする意欲をもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校図書館内にある掲示物 ・ 読書ノート 	
(見付ける)	3 これまでの学校図書館への関わり方を振り返り、自分が学校図書館でできることを考える	<ul style="list-style-type: none"> ・ 抽象的な話合いに終始しないよう、「さぐる」で共有した意見から、改善策を考えられるようにする。 		
きめる	これからがんばりたい「読書のめあて」を決める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館の使い方や読書の目標などを考え、自分のめあてを「がんばりカード」に書く。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館の使い方や読書の目標など、自分のめあてを書いている。(タブレット<カード>)

たのしいな がっこうとしょかん ーめざせとしょかんマスターー

めあて がっこうとしょかんと なかよくなるう

つかむ

がっこうとしょかんとみんな

アンケート結果

- ・休み時間に行っていない人は、本もあまり読めていない。
- ・自分で返せる人が少ない。

さぐる

きもちよくつかうためのやくそく

- ・本は決まった場所に置く
- ・本の向きを揃える
- ・本を大切に扱う
- ・ラベルでわかれている

きめる

- ・ほかの人が気持ちよく使えるために、ていねいに使う。
- ・自分の読みやすい本を選ぶようにする。

みつける

これからのつかいかた

- ・返す前に向きを確認する。
- ・わからない時は、わかる人に聞く。
- ・一度本を開いて、読みやすいものかを見る。

↓

10 事後の指導

児童の活動	・指導上の留意点	◎目指す児童の姿 (観点) 【評価方法】
がんばったシートに記入する。 ① 学校図書館に訪れた回数 ② 自分の力で本棚に本を返却できた ③ 本をていねいに扱うことができた	毎日の朝読書の際の本の返却の際も本を大切にできているかを意識させる。	自ら進んで学校図書館を訪れることや、学級文庫に親しむことができている。(主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度) 【様相観察】

キャリア・パスポートとポートフォリオ を活用したキャリア教育

令和4年度 京都市小学校生き方探究・キャリア教育研究会 部会研究計画

部会名	生き方探究パスポートと ポートフォリオ部会	部長	井上 拓哉（待鳳）
副部長	大嶋 慧（岩倉北）	庶務	義川 智子（岩倉北）
部員	熊谷 さやか（岩倉北） 中川 ひなの（吉祥院） 藤戸 梨子（岩倉北） 西山 大輝（第四錦林） 守野 あかり（室町） 西村 剛（九条弘道）		
研究テーマ サブテーマ	児童のキャリア発達を可視化するポートフォリオの在り方と、「生き方探究パスポート」の作成、及び活用の可能性について研究を深める。		
設定理由	<p>生き方探究パスポートの取組は3年目を迎える。数年、年度当初の休校措置が行われたり、学校間の教員の会議や児童同士の交流が制限されたりする中で、満足に研究活動を進められなかった。今年度は、4月の学級開きから、各校でパスポートを活用して目標設定を行うことができている。年間の見通しも立てやすいため、「どのタイミングで『ポートフォリオ』を作成するか。」という年間計画も立てやすいだろう。そこで今年度は、どのような形でポートフォリオをストックし、それらを、パスポート作成の際に生かすことができるかということ、具体的な形で記録し、考察を加えていきたいと考える。</p> <p>今年度、2校の京都市立小学校（岩倉北小学校、音羽小学校）に、研究協力をお願いしている。市内でも学校体制として先進的に取組を進めている2校に焦点を当てることで、これからの「キャリアパスポート」の在り方、及び有効な活用について模索したい。</p> <p>「いかに成長を可視化するか。」また、「各記録をいかに成長につなげるか。」ということ、2校の取組を通して考察していきたい。そして、研究の成果を全市・全国に発信することで、パスポートの可能性を広げ、取組をより深めたいと考える。研究テーマにもあるように、児童の残したポートフォリオやパスポートは、キャリア発達を可視化したものといえる。児童本人だけでなく、指導者や保護者も、その児童のキャリア発達をとらえ、よりよい成長を促すことができるように、キャリアパスポートを大切な成長の足跡として引き継がせていきたいと考える。</p>		
研究計画 ・内容 ・方法 ・場所 等	<p>4月 協力校の決定（各校においてパスポートに取り組む） 6月 生き方探究・キャリア教育研究会 総会 7・8月 第1回生き方探究キャリアパスポート部会の実施（実践交流） 9月 第2回生き方探究キャリアパスポート部会の実施（進捗状況の確認） 11月 第3回生き方探究キャリアパスポート部会の実施（進捗状況の確認） 12月 第4回生き方探究キャリアパスポート部会の実施（原稿作成に向けて） 1月 第5回生き方探究キャリアパスポート部会の実施（全国大会に向けて） 2月 キャリア教育研究会全国大会（音羽小学校） 3月 生き方探究・キャリア教育研究会 総会（まとめ）</p>		

生き方探究パスポートとポートフォリオ部会の取組

R4年度 生き方探究パスポートとポートフォリオ部会
部長 井上 拓哉

京都市では、キャリア・パスポートの名称を生き方探究パスポートとして年間2枚を蓄積している。生き方探究パスポートの中身については、基本例が示されており、各学校の取組にあったものにするためにカスタムすることが可能になっている。しかしながら、この2枚のみを蓄積するのみだけでは、不十分と考えた。このキャリア・パスポートの取組を充実させるためには、2枚のパスポートをつなぐ間の取組が重要である。

本部会では、パスポートに加え、児童の成長を、その児童に関わる教師、友達、家族、そして自分自身が目で見て分かる形で表せるポートフォリオの作成をめざした。そのときに大切に視点は、「成長の可視化」である。

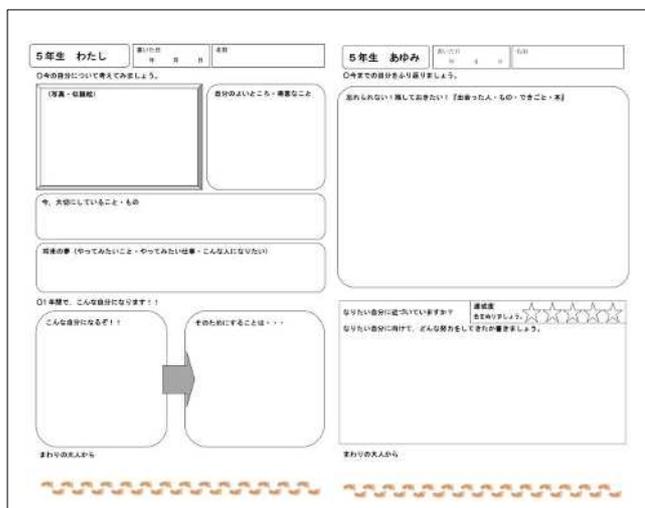
児童の成長や変容が可視化されることで、振り返りを行う際に、児童は自分の成長を実感することができるであろう。

そこで、児童の成長や変容が一目で分かるポートフォリオについて各協力校に実践を依頼し、取組の結果を年度末に共有することで、より有意義な振り返りの資料について考察しようと考えた。

児童の成長は、日々の連続性の中で緩やかに起こる現象である。もしくは、ある体験を通して、飛躍的に起こるものの、児童の内部で起こるためとらえにくい。メタ認知力が十分に身につけていない児童にとって、成長の過程を説明したり、成長の瞬間を文章で表現したりすることは難しいであろう。そこで、成長を可視化できるポートフォリオを成長の足跡として残すことで、後で振り返ったときに、自分の成長を実感することが可能になると考えた。

<R3、4年度の岩倉北小学校の実践>

京都市立岩倉北小学校の4年2組では、児童が身に付けたい力を話し合い、キーワード化して子どもがどの場面でも意識して取り組めるように「キャリア・レンジャー」を作成した(右写真)。そのようにすることで成長の可視化をめざした。児童は、自分の成長の足跡を、レンジャーの色と連動した色シールを活用してワークシートに残していく。年間計画に位置付けられ



研究テーマ「成長」の可視化

研究仮説

「可視化することで…

メタ的に、自分の成長を俯瞰しやすくなる
様々なつながりに気付くことができる」



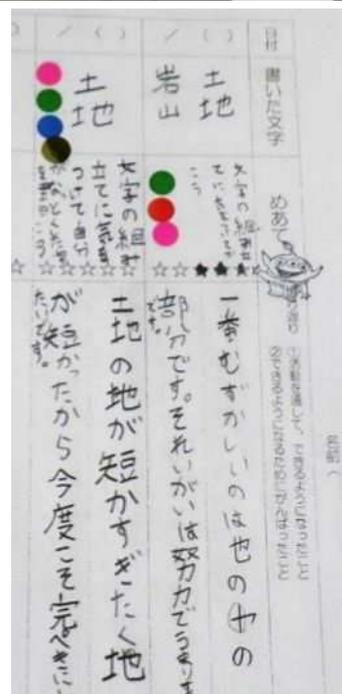
た振り返りの時間になると、そのワークシートを確認しながら、自分の成長をメタ的にとらえる姿が見られた。

これらの取組は、各教科等で実践を行った。ここでは書写の時間の実践について報告する。書写の時間では、教科で付けた力の振り返りとともに、キャリア・レンジャーの視点について意識して取り組む児童の姿が見られた。このように、どの教科や取組で成長をみとるかについては、各担任にゆだねられている。クラスの特性や担任の思いを大切に、クラスのみならず自分たちの成長を残すことができる取り組みこそ、優れた実践といえるだろう。

右の写真は、児童がワークシートに、自分が身についたと思う力の色シールを貼っているところである。シールを貼る活動を楽しみつつも、色を選択する過程で、身に付けるべき力を意識することになる。そのことが、次のステップ、次の目標を考える際に役立つ。これらは、書写の時間だけではなく、様々な場面でも行った。

年度末に行った特別活動の時間には、友だちと様々な振り返りシートを共有することで、自分の成長や友だちの頑張りに気づくとともに、次学年に向けての目標設定を行っていた。自分たちの成長に気づくことで、自己肯定感や自信の高まりにつながり、意欲的に次の目標を考え、次々に発表する様子が見られた。

この取組のほかにも、岩倉北小では、学校行事で児童のキャリア発達を促す取組にも力を入れている。下は、学習発表会と運動会の振り返りファイル（ポートフォリオ）である。



運動会ノート

運動会当日の振り返りシート
うんどうかい スタート
あしたは うんどうかい
うんどうかいを 終えて

令和4年
岩倉北小学校 6年

振り返りファイル

今日の活動で一番大切に思ったことを書きましょう

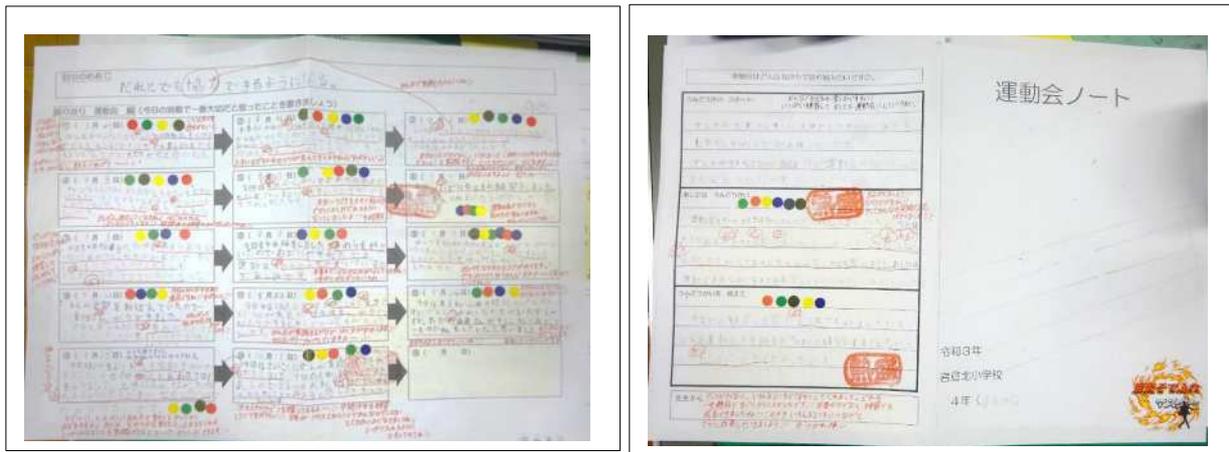
① (月 日)	② (月 日)	③ (月 日)
④ (月 日)	⑤ (月 日)	⑥ (月 日)
⑦ (月 日)	⑧ (月 日)	⑨ (月 日)
⑩ (月 日)	⑪ (月 日)	⑫ (月 日)

振り返り スタンプに貼る 画

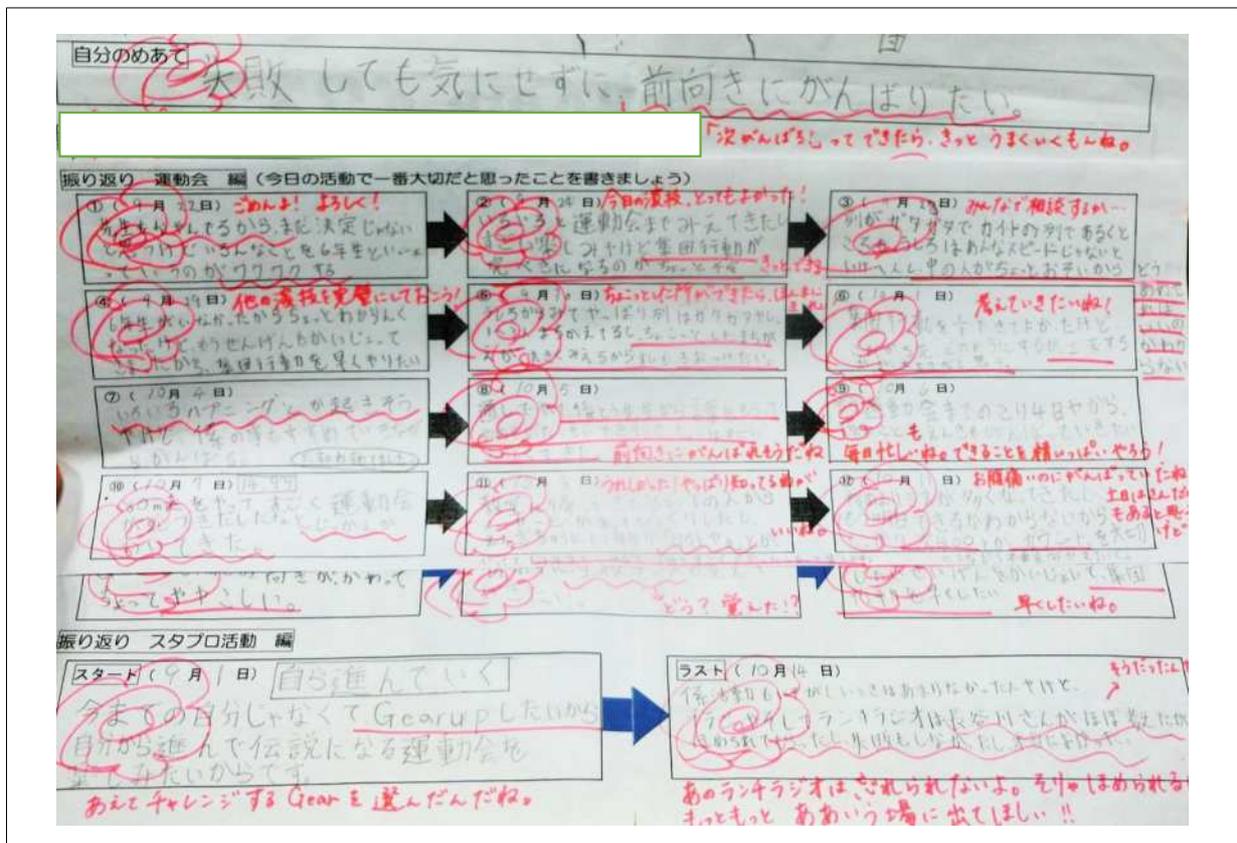
⑬ (月 日)	⑭ (月 日)
---------	---------

①「行事に臨む前の気持ち」→②「練習中や話し合い後の気持ち」→③「本番直前」→④「行事が終わってからの振り返り」というように、行事を通して、自分の気持ちの変化や感じたことを記録していく。それは、時には友だちと交流したりグループでの話し合いに活用されたりすることで、大切な個人の成長記録となる。また、担任が目を通し、その児童の成長をコメントとして記録したり、赤線で強調したりすることや、キャリアカウンセリング的にかかわることで、それはただの記録ではなく、児童のキャリア形成に大きな影響を与えるポートフォリオとしての役割を持つようになる。

<児童が記入したポートフォリオに、担任が価値づけをしたもの（運動会）>

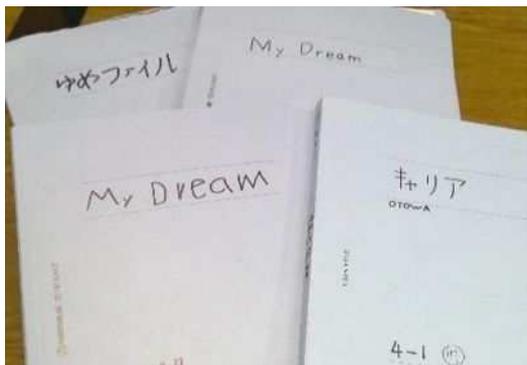


<児童が記入したポートフォリオに、担任が価値づけをしたもの（学習発表会）>



全校行事は、学校体制として取り組むため、児童の成長をたくさんの教職員がとらえることができる。さらに、学校全体の取組としてポートフォリオの作成がしやすいという利点がある。岩倉北小学校では、ポートフォリオの作成については学校体制として取り組んでいるものの、その取り組み方や、各学年で行事を通してつけさせたい力については、各学年に委ねている。そうすることで、指導者にとってもこの取り組みがより主体的なものとなり、「やらされている取組」から脱却できる。日々成長する児童を見取り、キャリア発達を促す指導者自身が主体的に取り組まなければ、児童の主体性を育てることは難しい。取組自体を「主体的なもの」にしていく工夫が、そういうところにも垣間見えた。

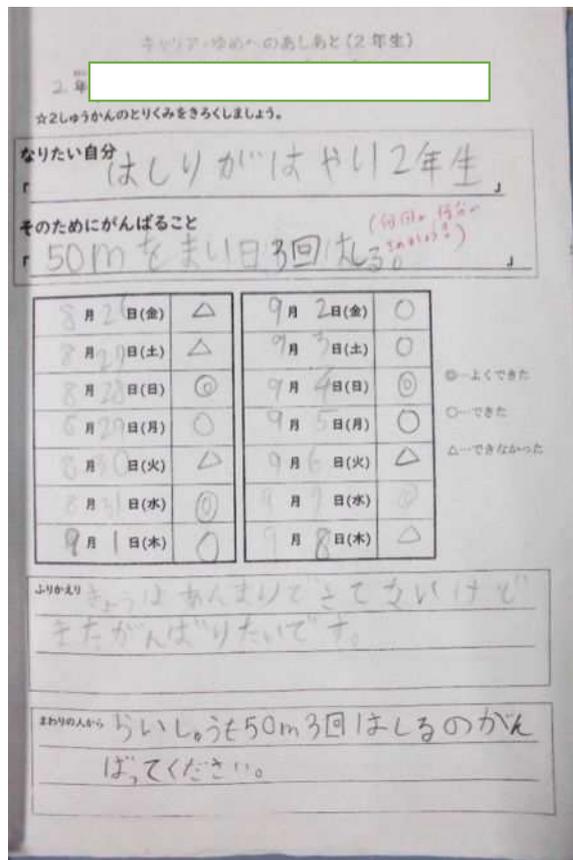
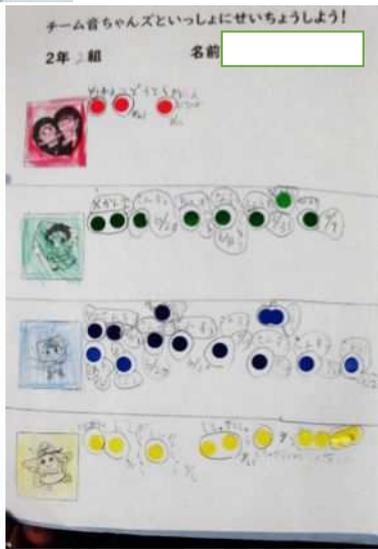
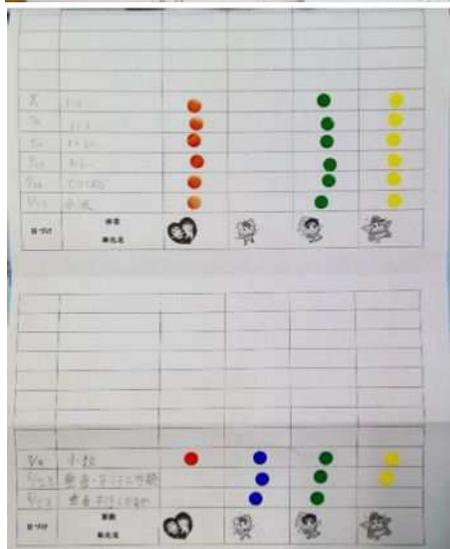
<R4年度の音羽小学校の取組>



音羽小学校では、全国大会の会場校として、各教科でもキャリア教育の視点で授業展開や学習活動に工夫を加えるなどして、取組を進めている。ポートフォリオ(『ゆめファイル』写真参照)やキャリア・パスポートの作成についても学校体制で進めている。テーマの「可視化」については、岩倉北小学校とも実践を交流し、シールの活用や児童同士の話し合いを取り入れるなどして、研究を深めている。

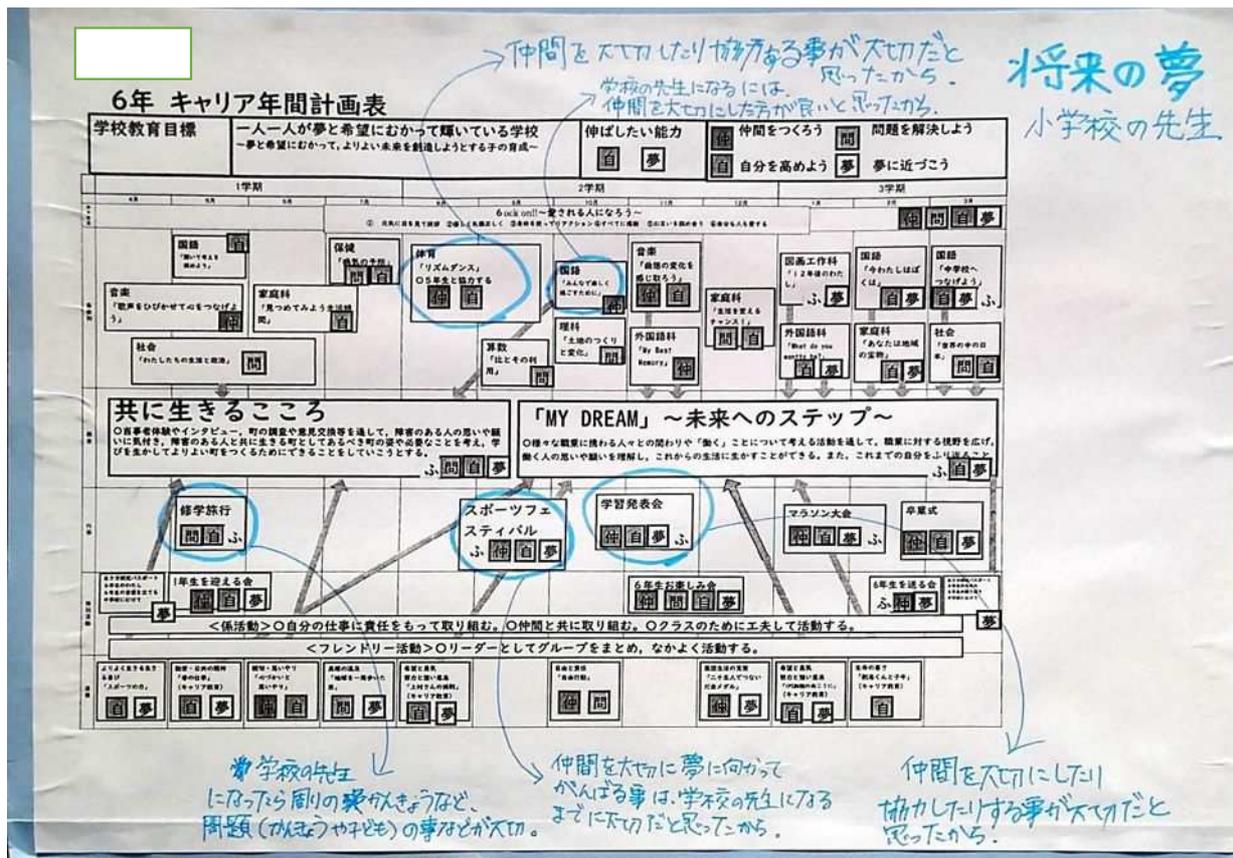
<成長の可視化をめざして>

成長を可視化するために、音羽小学校でもシールを活用している。音羽小学校では、学校体制として5つの力(基礎的・汎用的力をもとに独自で設定した力)を身に付けていくことを研究の柱として取組を進めている。それぞれの力をキャラクター化することで、児童や保護者にも分かりやすく親しみやすい目当てになるように工夫している(キャラクターデザインは、自校教員が作成)。



キャラクターは色分けされているので、岩倉北小のレンジャーの取組と同じように、色シールを活用して、児童の成長を可視化している。例えば、ある教科等の中で、その力が身に付いたと感じた児童は、その力の色のシールを振り返りシートに貼るようになっている。そのシートをポートフォリオとして保存することで、あとで見返したときに、成長の足跡として捉えやすくしている。その工夫は、それを見る友だちや指導者、保護者にとっても役立つ。

音羽小学校では、毎週1回、2週間ごとに用紙を配布して、帯時間を使って振り返り活動を行っている(左写真)。目標設定は各児童によって様々である。内容についても、学校のことだけにこだわらない。2週間ごとの取組とすることで、担任の負担を減らす工夫をしている。担任の負担を軽減することは、担任の主体性を生むことになる。『ゆめファイル』に綴じるプリントなどは、あくまで学年裁量にしている。学年によっては、児童の自主学習のノートや、生活科のワー

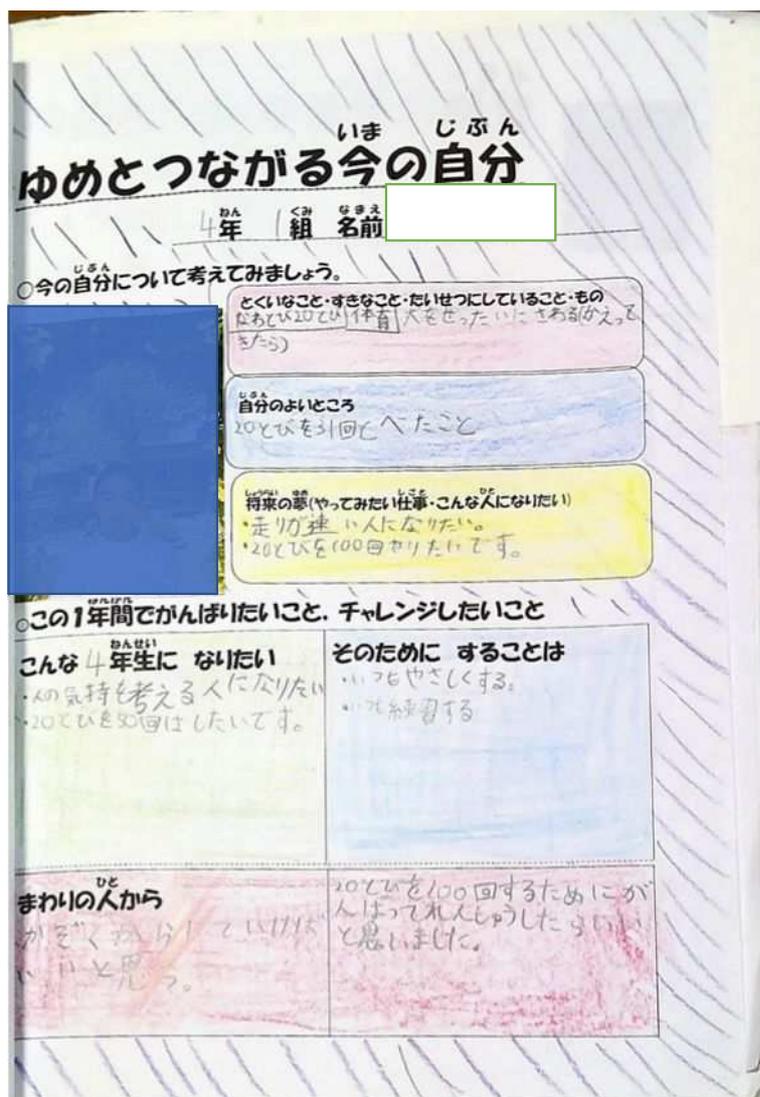


クシートを綴じているところもある。自由な取組とすることで、各学年の実態に合わせた取組にできるとともに、教員の主体性、さらには児童の主体的な活動につながると考えている。

また、キャリア年間計画を、ゆめファイルの裏表紙に貼っている（写真上）。キャリア年間計画は、4月当初に各学年で作成したもので、いつ、どの学習で「キャリア教育」を意識した活動を行うかが示されている。それを児童も共有することで、児童のキャリアプランニングにも役立ち、見通しをもつことができるようになる。次頁の写真のように、高学年にもなると、その計画表に自分の考えを加筆することができる。子の児童は、右端に自分の将来の夢として、「小学校の先生」と記載している。前学年の記録を見ると、「ピアニスト」という夢をもっていた。1年間の学習を通して、自己理解を深め、将来の夢も変遷していることが分かる。そういった「考えの変容」が見えるのも、こういう取組の面白さであり、貴重な成長の記録と言える。

11月9日（水）に、校内で行われた2年生の授業「学級活動（3）『なれるよ！すてきな2年生！』」





では、12月までにがんばりたいことを、児童一人一人が考える展開だった。その際、これからの学校生活を見通す資料として、キャリア年間計画を参考にした(前頁写真)。時間軸上の自分の「今」を見つめ、これからの見通すうえで、年間計画表は大きな資料となることが、授業を通して感じられた。

左の写真は、4年生「ゆめとつながる今の自分」という学期ごとの振り返りシートである。標題は学年によって違うが、どの学年でも、同じ取組をしている。

こういった「目標設定シート」は、他校でもよく取り組ませていることだろう。こういった既存の取組を「キャリア教育」の目でとらえ直し、ファイリングしていくことが、この教育の実践として大変重要であるといえる。また、このような資料は、ただ書かせただけでは児童のその時の記録の域を出ない。これを、キャリア発達を見取るための資料にするためには、担任や友

だち、保護者などが目を通して、その児童の成長を強調してとらえさせる作業が必要となってくる。この資料の下部にあるように、「まわりの人から」という項目が大切になってくるのである。さらに言えば、定期的に自分でも何度かシートを見返すことも重要となってくる。見返す中で、目標設定をし直したり、現状が変化していないことを知ったりすることは、児童のキャリア発達をより促すことになる。
 <来年度に向けて>

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大のあおりを受け、部会もリモートで数回しか行えなかった。実践例を集めることも十分にできず、研究を深めることが難しかったと感じている。それでも、実践協力校を2校に絞ることで、キャリア・パスポートの可能性や活用方法をより見出すことができたと思っている。

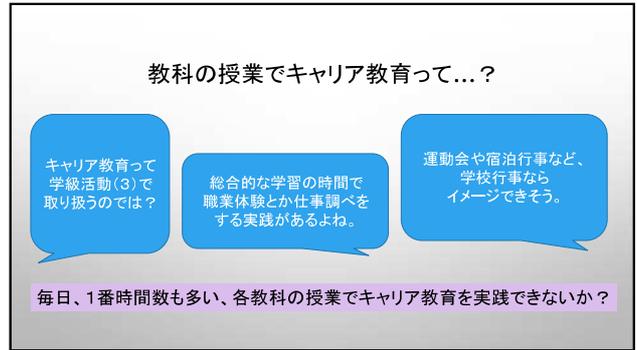
来年度は、今年度の研究内容をより多くの学校に知らせていきたいと考えている。また、各校に年間計画の作成を進めることの大切さを伝え、計画的に児童のキャリア発達を促す仕組みを年間通して組み込んでもらえるようにしたい。ただ、どのように取組を広め、推進していくのかということについては、大きな壁がある。全国大会で、他府県の取組にも目を向け、参考にさせていただくことで、より京都市の取組を高めていきたい。そして、できるだけ具体的で魅力的な実践を集め、分析し、生き方探究・キャリア教育研究会として発信を繰り返すことで、少しでも取組が浸透していくようにしていきたい。児童のキャリア発達の足跡を残し、自己理解を深め、これから先のキャリアプランニングを促す足場としてのキャリア・パスポートの在り方について、これからも研究を深めていきたいと考える。

課題別分科会

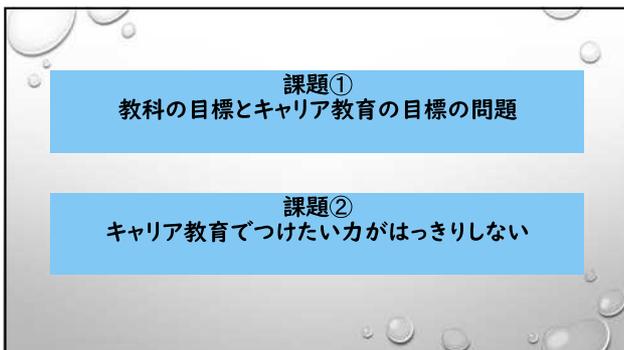
	分科会	提案者	助言
1	各教科ですすめるキャリア教育 キャリア教育の授業づくり	京都市立音羽小学校 宇都木 史 教諭	京都市教育委員会生涯学習部 稲葉弘和 統括首席社会指導主事
2	生活科・総合的な学習の時間 ですすめるキャリア教育	京都市立音羽小学校 小林 瑞生 教諭	京都まなびの街生き方探究館 葉山 みどり 指導主事
3	特別活動を要としたキャリア教育 学級活動と学校行事	京都市立小栗栖宮山小学校 沖 一真 教諭	日本体育大学 橋谷 由紀 教授
4	キャリア・パスポートとポートフォリオを 活用したキャリア教育	京都市立岩倉北小学校 大嶋 慧 教諭	京都まなびの街生き方探究館 吉岡 健志 指導主事



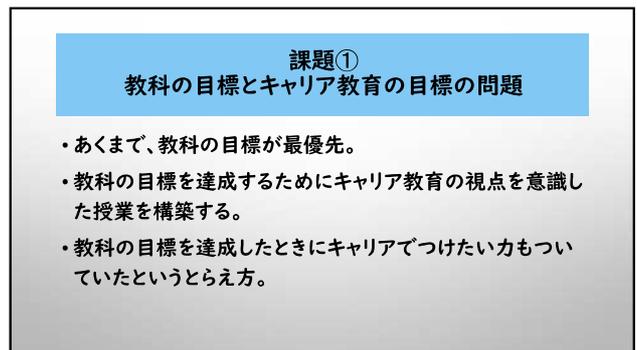
1



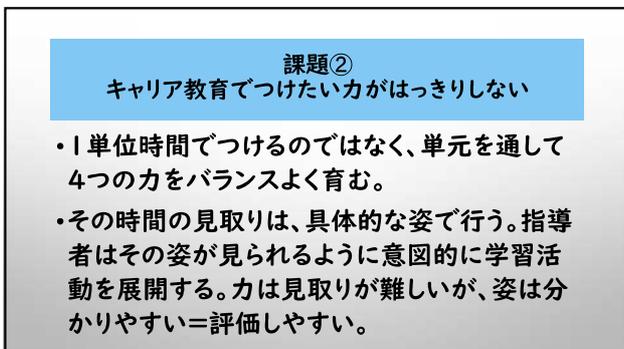
2



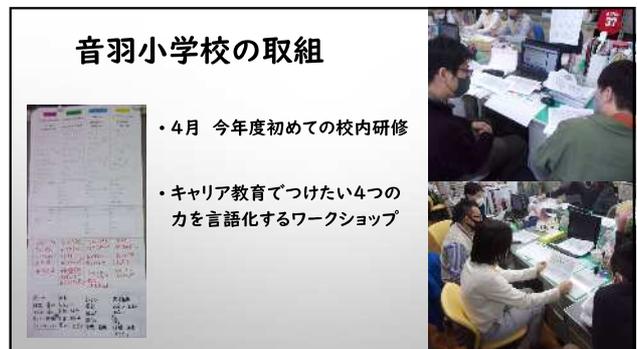
3



4



5



6



7



8

校内研究での取組 6月 5年 国語科「日常を十七音で」

- ・児童と4つの力を共有した後の授業
- ・ふり返りの場面で4つの力を示し、どんな力がついたかを児童がふり返った。
- ・キャリア教育の視点でのふり返りが多く、教科の目標に近づいたかどうかを振り返る児童が少なかった。

↓

教科の目標とキャリアの目標のバランスが難しい…

9

7月 さくら学級 生活単元学習「協力してお弁当さんをひらこう」

- ・授業の最初に「今日は赤(人間関係形成能力)の力がつくといいね」と提示。
- ・児童同士が協力してお店を開き、相談や助け合う時間にはぴったりだが、どの時間にも当てはまるわけではない…

↓

めあてを提示する段階で、キャリアの目標は出さないほうがよい。指導者側はもっておく必要がある。

10

本日の授業 4年 図画工作科 「つなぐんぐん」

キャリア教育のポイント

- ・どんな力がついたのか、児童と指導者が対話する中で意識づける。
- ・友達の作品を鑑賞した後、作者の思いを知ることで多面的な見方をすることの良さを感じる。
- ・児童の生活場面・経験・将来とつなぐ。(日常に生かされている場面を想起する。)

11

教科でつけた力のポートフォリオ

1年生の例

自分で力がついたなど感じた時にシールを貼る。

「こ」は国語、「た」は体育の教科を表す。

自己のメタ認知なので、

12

教科でつけた力のポートフォリオ



4年の例
教科ごとにシートを準備する。
横に単元を書き、ついたと思う力の色シールを貼る。
小さくメモを入れることもできる。

13

すぐに取り組めるアイデア

- 児童の経験・実生活・将来とつなぐことを意識する。
- この単元でつけた力(が具現化された姿)を指導者が意識しておき、意図的に学習形態を工夫したり、活動を設定したりする。
- 児童がつけた力をメタ認知でき、自己肯定感につながるようなしかけを準備する。(シールをあげる・シールをためるなど)

14

令和4年度の取組

総合的な学習の時間「わくわくワークランド～働くことについて考えよう～」

単元について

本プログラムでは、児童が一人の大人として **WORK LAND** にある会社や市役所の新規採用の社員・職員となり、各職場（ブース）において新規採用研修を受け業務内容を理解し、定常業務を体験した後、配属部署で指示された業務に取り組む活動を行う。また、商品の通信販売での購入や公益団体への寄付の体験も行う。



各校においては、**WORK LAND** での活動の前・後で、働くことに関連する学習を行い、「変化の激しい未来社会の中で、自分の役割を果たしながら、自分らしい心豊かな生き方を実現し、持続可能な社会の創り手となることのできる子どもの育成」を目指していく。

単元の流れ（音羽小学校の例）

発見課題

働くことについてのイメージマップを作成し、グループで働くことのシミュレーション課題（ケーキ作り）に取り組む。



材料の仕入れ、光熱費、人件費などの支出と売上の収入を考えながら活動し、その中で、間違いなく効率よくケーキを作るために、協力や分担、助け合い、話し合いが大切なことを体感することができた。

追究課題

実際に働いている人をゲストティーチャーとして招き、インタビュー活動を行う。

様々な職種のゲストティーチャーから話を聞くことで、「働くことは大変だけれど、やりがいや楽しさがある」「だれかのためになることが仕事」など、素敵な働き方に関する大事なキーワードに出会うことができた。



提案課題

働くことについての理解を深めた後、実際に自分の興味・関心や特性に応じた仕事を調べる。「はたらきメダル」「適職診断」など) この中で、興味のある分野について調べる中で、スポーツ関係でも、プロスポーツ選手だけでなく、スポーツドクターや用具作り、スポーツインストラクター、競技場設計など、スポーツに関する様々な仕事があることを知り、夢を広げている児童がたくさんいた。

さらに、未来の社会を知り、その社会で働く自分を想像し、必要な力とは何かについて話し合う。(Society 5.0に関するコンセプト・ムービー「20XX in Society 5.0 ～デジタルで創る、私たちの未来～」 「Theater 5.0」一般社団法人 日本経済団体連合会)



熟成課題



「町のホットステーションとなるコンビニとはどんな店か考えよう。」など答えのない問いに取り組



むことで、真剣に考え、議論する中で生まれる新しいアイデアや知識との出会いに充足感を覚えた児童が多かった。受け取った給料で、通信販売で商品を購入したり、寄付団体を選んで寄付をしたりする体験をすることもできた。



※商品 POP は、実店舗での採用が決定した



表現課題

働くことについて学んだことを生かして、「マイプラン」を作成する。自分の将来に向け、どのような力が必要なのか、そのために今できることは何か、どのような働き方をしていきたいのかをまとめて、周りの大人に提案する。さらに、社会人として働く人からもらったアドバイスを受けて、さらに練り直す。最後は保護者に自分の生き方についてプレゼンテーションを行い、感想をもらう活動を行った。

生活科・総合的な学習の時間で 進めるキャリア教育

京都市立音羽小学校 小林 瑞生

1

はじめに

- ・学習の流れ
- ・学習活動
- ・まとめ

2

学習プログラムの構成

学校での事前学習

- ・働くことについて考える
- ・社会にある仕事について考える
- ・自分自身について考える
- ・未来の社会について考える
- ・WORK LAND（探究館）で働く準備をする

探究館での 体験学習（終日）

- ・WORK LANDで社員・職員となり研修を受け、仕事体験等に取り組む

学校での事後学習

- ・体験活動を振り返り、働くときに大切なことを考える
- ・自分の未来を考え、「わくわく 私の夢プラン」としてまとめる

3

学習の流れ

発見

・働くとはどういうことだろう。

追究

・私たちの周りの人たちはどのような思いで働いているのだろう。

提案

・未来の仕事について考えよう。

熟成

・WORK LANDでの体験を振り返り、働くことについての考えを整理しよう。

表現

・わくわく私の夢プランを提案しよう。

4

探究課題

すてきな働き方を
考えよう。

5

学習活動 発見課題

発見

・働くとはどういうことだろう。

- ・「ケーキをつくって売る仕事」を体験し、働くことや仕事のイメージを持つ。
- ・体験したことを振り返り、探究課題を設定する。



6

学習活動 発見課題

探究課題 **すてきな働き方を考えよう。**

黒：活動前の「働くこと」のイメージ

青：活動後の「働くこと」のイメージ

7

ケーキ作り体験の振り返り

感じたこと、思ったこと (働き方)

- ・**チームワーク**が大事
- ・**協力**が必要
- ・**連携**して作るのが大事
- ・**分担**してやる
- ・**考えて働く**ことが大事
- ・**効率よく働く**、はやくできるようにする
- ・大人がしている「働く」は**アレンジを加えている**

8

ケーキ作り体験の振り返り

感じたこと、思ったこと (気持ち)

- ・仕事は楽しいことばかりではない→**大変**→**でも楽しい**こともある
- ・現実で働く方が**大変**→本当に働くときはもっと長い時間働くはず
- ・**働く=大変** だが **働く=やりがい** でもある

9

ケーキ作り体験の振り返り

疑問

- ・本当のパティシエは何が大変なのか？
- ・他の職業について
- ・仕事のやり方
- ・お金について

10

学習活動 追究課題

追究

・私たちの周りの人たちはどのような思いで働いているのだろう。

- ・お家の人など身近な働く人たちにインタビューする。
- ・インタビューをして分かったことを整理・分析する。

11

学習活動 追究課題

井筒ハフ橋で働く方

飲食店で働く方

看護師さん

漢字検定協会働く方

学校で働く校長先生

アイリストさん

12

学習活動 追究課題

- 共通すること：仕事が楽しい、人のためにやっている、やりがいがある
- 異なること：仕事内容

緑：インタビュー後の「働くこと」のイメージ

13

学習活動 提案課題

緑
・未来の仕事について考えよう。

- 身の回りから様々な仕事を見つけ、それが社会を支えていることに気付く。
- 自分が将来してみたいことを考え、その興味に合った仕事について調べる。

14

学習活動 提案課題

- 未来の仕事について考える。
- AIが発展することでできること：接客の無人化、機械で生産量を上げる、人が考えたことを機械が読み取る
- 人にしかできないこと：機械を操作する、人の気持ちを考える

15

学習活動 熟成課題

赤
・WORK LANDでの体験を振り返り、働くことについての考えを整理しよう。

- WORK LANDで仕事体験をする。

16

学習活動 熟成課題

・公益団体への寄付
・もらった給料で通販で商品購入

ブース名	定期業務の体験内容	任務内容
京都銀行	●札勤の練習 ●銀行での窓口業務	●融資の計画を考える
京都新聞社	●取材	●新聞を作成する
井筒八つ橋本舗	●商品の販売・接客 ●商品の陳列	●ポップを考える
西利	●商品の販売・接客	●新商品を考える
ローソン	●商品の販売・接客	●“ほっ”で溢れる店舗を考える
市役所	●区民への住民票の発行	●新たな公園の計画を考える

17

活動の様子 熟成課題

18



19



20

学習活動 体験の振り返り

- ・仕事では責任が大事であることが分かった
- ・会議でまとめるのが難しい
- ・自分の意見を言うことが大切
- ・お客さんのことを考えて働く
- ・助け合うことが必要
- ・挨拶や返事は基本
- ・1つの仕事でもいろいろな役割がある

21

働くことの考えについて

- ・黒：学習前
- ・青：ケーキ作り体験後
- ・緑：働く人へのインタビュー後
- ・赤：WORK LAND での体験後

22

働くことの考えについて

- ・大変、仕事の種類
- ・働くときに大切なこと
- ・働くときの思い
- ・働くときに必要なこと

23

学習活動 表現課題

表現

- ・わくわく私の夢プランを提案しよう。
- ・自分の未来を思い描き、「わくわく私の夢プラン」にまとめる。
- ・アドバイスをもらい再提案する。

24

まとめ

- ・成果
 - ・働くことについて考えを深めることができた
 - 将来の自分と今の自分との距離が近づいた
 - ・学習が進む中で「働く」ことへの考えの変化
 - ・将来の自分について具体的に考えることができた
 - ・どんな思いで働いているのかを知ることができた
 - ・実際に働くことで社会人としての責任を感じられた
 - ・人のために働く

25

まとめ

- ・課題
 - ・「働く」についての考えの整理をする必要がある
 - ・自分の考えを言語化し表現する力が必要
 - ・体験で一日の集中力が続かない子がいた
 - ・答えのない課題に向かって考え続ける力が必要

26

キャリア教育の要としての特別活動と
特別の教科道徳 部会

京都市立小栗栖宮山小学校
沖 一真

1

研究テーマ設定の理由

学校での学習に自分の将来との関係が見出せずに、学習意欲の低下・学習習慣が身につかないといった児童が学校生活に困りを抱えている。そのような児童に、「自分のよところがわからない」「将来の夢はわからない」などの発言があり、自己有用感や自己存在感が著しく低い児童の増加を感じていた。

本研究のねらい
自分のよさや価値を見つけ、自身の存在や将来に対して自信や希望が持てるように、集団での自己役割を見つけ主体的に考えて行動できる児童の育成を目指すための学校生活における、学級内での係活動・当番活動に着眼し、研究活動を行った。

主には、小学校学習指導要領(平成29年3月告示)第6章特別活動 2内容 (3)一人一人のキャリア形成と自己実現
A現在や将来に希望や目標を持って生きる意欲や態度の形成・イ社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解・ウ主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用の内容を踏まえつつ、低・中・高学年の発達段階における児童の主体性のある姿を見つながら、よりよい当番活動の在り方を研究していきたいと考えた。人とともに社会を生きる力である、地域や家庭での役割を果たし、共に生きる力や社会に参画し、貢献する力の礎を築いていきたいと考えた。

2

研究の取組内容

1年次
学級活動(3)イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解』の授業実践
【係活動による教育効果について】

2年次
学級活動(3)イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解』の授業実践
【当番活動による教育効果について】

・3年次
学級活動(3)イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解』の授業実践
【当番活動による教育効果についてⅡ】

① 発達段階を強く考慮した授業づくり
② 授業実践前後に道徳の学習において、価値が意識づけできるようなカリキュラムマネジメント

3

「学級内係活動に着目した実践」(1年次)

小栗栖宮山小学校 5年1組
学級活動(3)イの授業の様子

4

「学級内係活動に着目した実践」(1年次)

- 5年生の係活動は、学級活動(1)で話し合った学級目標に近づく集団になるためにあった方がよい係などを考え、出し合った。自分の好きなことややりたいことを考え、係に所属した。
- 係活動では、「自分や係のメンバーで活動を行うことで学級目標に近づける」という想いを共有し、グループで創意工夫し、自主的に取り組む。自分には役割があり、ひとつひとつの役割や存在が必要であることから、自己存在感を感じられる場面となるように進めてきた。

内容項目 学級活動(1)イ学級内の組織づくりや役割の分担と、学級活動(3)イ社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解 が混在しないように指導者が意識する必要があった。

5

- 『学級活動(3)イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解』を取り扱った授業研究と他教科との関連
- ①小栗栖宮山小学校5年1組
 - 道徳との関連
「真由、班長になる」
- ②小栗栖宮山小学校6年1組
 - 社会科との関連を回った。
「勤労の義務」

6

実践授業後の学級の係活動の状況

○すべての係活動が以前より活発に活動していた。

～事前に行った関連する他教科の学習の取り扱いの反省～

- ・5年生では、社会参画の醸成は強く、働くことの意義は弱かった。
- ・6年生では、社会参画の醸成は弱く、働くことの意義が強かった。

それぞれ事前に行った他教科の学習内容が児童の思考に影響を及ぼすと考えた。

7

授業実践の成果物

★あなたはクラスの中でどんな役割があると思いますか。

自らの役割を理解できている。学級内での自分の存在意義を持っている。

★あなたはクラスの中でどんな役割があると思いますか。

具体的な役割を意識できている。学級内での自分の存在意義を持っている。

8

「学級内当番活動に着目した実践」(2年次)
小栗栖宮山小学校1年1組

- ・1年児童ということもあり、まず当番活動のみを1年間取り組んだ。学期に一度当番を三人1組で担い全員で分担することを意識させた。
- 一人一役ではなく三人一役にする

ことにより、助け合いながら活動する経験を通して、学級目標に対しての達成感を持たせることをねらいとした。

9

「学級内当番活動に着目した実践」(2・3年次)

- ・1年生の当番活動は、日直・給食当番・掃除当番・学級内の当番が主なものであった。学級内に必要なものであることから、人数も一定決まっており、自分の希望ではない役割を担わなければいけない児童も存在した。
- ・当番活動では、学級生活が円滑に運営されていくために、学級の仕事を全員で分担し、担当する活動であることから「みんなで協力することで、教室での困りごとなどが少なくなる」という想いを共有し、自分には役割があり、ひとつひとつの役割や存在が必要であることから、自己存在感を感じられる場面となるように進めてきた。

10

「学級内当番活動に着目した実践」(2年次)
小栗栖宮山小学校1年1組 学級活動(3)イの授業の様子

成果として、自らが活動することが学級をよりよくすることにつながっていることがわかり、当番活動に対して、意欲的に活動できる児童が増えた。

課題として、1年生による自身のふりかえりは難しかった。「よい姿の自分」でいたい児童が多く、アンケートをとっても、回答が実態とかけ離れていた児童が多く正しく【つかむ】ことができていなかった。

11

「学級内当番活動に着目した実践」(3年次)

2年次において課題であった、つかむの実態把握を理想像ではなく実態に近づけるための手立てとして、集団でアンケートの検証を行った。その結果、2年次よりは適切に【つかむ】ことができたと考え。

12

「学級内当番活動に着目した実践」(3年次)

きめる際の声掛けとして、2年次は心構えについて意識させすぎたしまい、具体的な行動に繋がらなかったことから、発達段階も考慮し、行動のみの意思決定もよいことを伝えた。どのように行動するかを書いている児童の姿も見られた。



13

「学級内当番活動に着目した実践」(3年次)
道徳科・生活科との**関連を強く考慮した**実践活動

道徳科 はたらくころ
「おふるぼそうじ」

学級活動(3)イ 授業実践前に実施



がんばることについて考えた学習を事前に行い、家庭での仕事について考え、教室にも置き換えられることを児童に考えさせた。

14

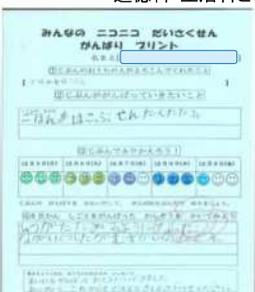
「学級内当番活動に着目した実践」(3年次)
道徳科・生活科との**関連を強く考慮した**実践活動

**学級活動(3)イ
授業実践後に実施**

生活科
にここに だいさくせん

自ら進んで家庭での仕事を考え、家族をニコニコさせるための活動ができていたことが、保護者からの文章でわかる。

まいにち、がんばっておてついでできました。ありがとうございます。これからもできるときは、つづけてください。(保護者より)



15

「学級内当番活動に着目した実践」(3年次)
道徳科・生活科との**関連を強く考慮した**実践活動

授業後の実践活動



自らがきめたためを意識し当番活動を行い、帰りの会の前に自ら活動をふりかえる。そして、自分でシールをとり、ワークシートにシールを貼りためていった。

16

まとめ

・成果

今回係活動・当番活動を取り扱った授業実践を行い、高学年からは「係活動が活発化した」「年度当初に立てた計画を見直すきっかけになった」「係活動のメンバー同士のコミュニケーションが増えた」など前向きな事後の感想が聞こえてきた。

低学年からは、児童の姿より感じ取ったこととして、活動に対してさらに前向きな姿を目指そうというような言動が表れた。

17

まとめ

課題

特別活動の学級活動(3)の内容項目を取り扱う上で学級づくりが大きく学習に影響する。児童本来の思いや素質を発揮する土壌をつくること、安心感のある学級環境が重要である。以上のことから、同じ指導案で授業を進めても成果に差があることがわかった。検証した結果、学級経営状況を見極めながらの実施が必要であると考えた。学級経営が不安定な状態や、共感的な人間関係などが築けていない場合は、成果を得られにくいと考えた。

しかし、経験の積み上げを続けることが重要であり、4月の学級開きから日常的に教師が教育効果のイメージを持ちながら設定し実践していくことがとても大切であると考えた。また、さらに効果を得るために各教科との関連を図りカリキュラムマネジメントを行うことも有効であると考えた。

18



1

本日の流れ

- ・研究テーマについて
- ・取組について
- ・実践について
- ・成果と課題
- ・まとめ

2

研究テーマについて

令和4年度 京都市生き方探究（キャリア）教育研究会の研究

なりたい自分につなげるキャリア教育の創造
 ～「学びの蓄積」をなりたい自分につなげるためのメタ認知能力の育成～
 ～カリキュラムマネジメントと生き方探究/パスポートの活用～

本研究でのメタ認知とは
 「自己をよく理解し、自己のキャリア発達を客観的にとらえる視点
 （メタ認知の視点）をもたらせることが重要である」

→本研究会では、特に「メタ認知能力の育成」に注目して研究をすすめた

3

研究テーマについて

どのようにメタ認知能力を高めることができるだろう？

小学校段階では、何の手立てなく自分の成長を俯瞰してみることは難しいと考えられる

4

研究テーマについて

メタ認知能力を育成するには

可視化 意識化 振り返り

子どもの成長を実感させるためには特に成長の「可視化」をすることが大切であると考えた

中山秀一「激進、学校、職場でまかせる！自分と相手の非認知能力を伸ばすコツ」2020年

5

研究テーマについて

そこで、本部会では

ポートフォリオ部会 研究仮説

可視化することでメタ的に、自分の成長を俯瞰しやすくなる様々なつながりに気付くことができる

成長を可視化してメタ的にみられるようにする
 →「キャリア教育の充実」が大切である
 →→「キャリア・パスポート」の取組に注目！！

可視化

6

研究テーマについて

なぜ、キャリア・パスポートの取組なのか

キャリア・パスポートとは

「児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、**自身の変容や成長**を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのことである。」

文部科学省「キャリア・パスポート」例示資料等について2019年

→「キャリア・パスポート」の取組を生かして
メタ認知能力の育成を目指す！！

7

研究テーマについて

キャリア・パスポートの取組を取り入れることで

次も挑戦してみよう！

もっと成長したい！

もしかしたら
次も成長できるかも・・・



成長を実感

振り返り

成長 失敗

やってみる

成長を俯瞰してみることが
できるようになっていき
より成長を実感できる

8

取組について

取組を生かして「メタ認知能力」を育成するために工夫したことは

- ①成長の視点のキーワード化
- ②意識化
- ③振り返りシート
- ④他者評価

9

実践について

京都市のキャリア・パスポートの取組

年度初めの
抱負・目標
の記録

学期初めの
抱負や目標
の記録

学校行事に
関する記録
(運動会・
文化祭等)

総合的な学
習の時間・
学級活動等
に関する記
録

各種体験活動
に関する記
録
(宿泊学
習・伝統文
化体験・職
場体験等)

学期末の振
り返りの記
録

年度末の振
り返りの記
録

学びの蓄積
(各校の実態に合わせて)

「生き方探究パスポート」

10

実践について

1年間の流れ（3年生）

生き方探究パスポート「わたし」

間の取組を充実

生き方探究パスポート「あゆみ」

1学期（習得期）

特別活動
学活（3）「なりたい自分」
学活（1）「クラスのめざす姿を考えよう」
学活（3）「1学期を振り返ろう」
たてわり対話

学校行事
【卒業記念大会
（たてわりグループ）

各教科
保育、探究工作 国語書写（筆習字）

2学期（活用期）

特別活動
学活（3）「2学期を振り返ろう」
たてわり対話

学校行事
運動会

学校行事
学級発表会

各教科
全教科で「読書対決」

3学期（汎用期）

特別活動
学活（3）ア「3学期を振り返ろう」
学活（3）イ「1年の成長を振り返ろう」
たてわり対話

学校行事
合唱発表会

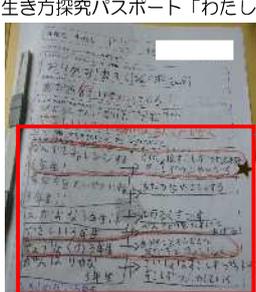
学校行事
発表式

各教科
全教科で「読書対決」

11

実践について

生き方探究パスポート「わたし」



学活（3）「なりたい自分」
どんな3年生になりたいか
そのためにやってみたいことを考えた

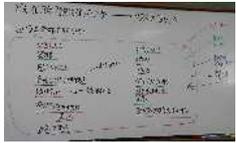
- ・前向きに行動できる ・挑戦できる
- ・努力できる ・自分のよさに気づける
- ・自分で決められる 考えられる
- ・友だちとなかよくできる
- ・相手を思いやれる
- ・計画して行動できる

12

実践について

学活(1)「クラスのめあて」

みんなのなりたい自分(姿)を集めた



キーワード化



それをキーワードにして「キャリアレンジャー」にした

- ・前向きに行動できる
- ・努力できる
- ・自分で決められる
- ・友だちとなかよくできる
- ・計画して行動できる
- ・挑戦できる
- ・自分のよさに気づける
- ・考えられる
- ・相手を思いやれる

13

実践について

各教科で「意識化」させる

→→習得期では、体育・書写・図画工作を中心に



→→成長の場面が多い

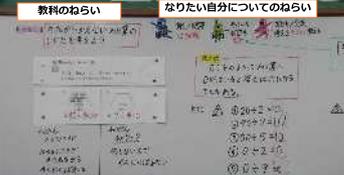
14

実践について

教科の中で「意識化」する



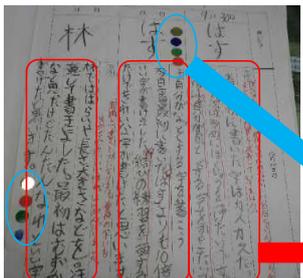
今日の1時間でつきそうな場面ある？



15

実践について

振り返り




なりたい自分に対する振り返り

教科のねらいに対する振り返り

16

実践について

「他者評価」で成長を実感させる



友だちからの評価

めっちゃ練習してるやん！すごいやん！



指導者からの評価

初めに書いた字よりもうまくなっているね！苦手な「はね」もできるようになっているね！

→→姿とレンジャーをつなげる

17

実践について

学校行事

→基礎的・汎用的能力を発揮する場面が多く設定されやすい

習得期(1学期)でつけた力を学校行事で生かす



学校行事(運動会)でつけた力をさらに次の学校行事(学習発表会)でも生かす

18

実践について

振り返りシート →ただ活動だけでなく、成長を記録する

運動会ノート

19

実践について

○運動会スタート
学年集会（中学年）を終えて
その時の気持ちや思いを書く

20

実践について

○○を
がんばりたい
ね!

21

実践について

活動の成長の記録（振り返りシート）

○自分のめあて
なりたい自分の姿を考えて書く

22

実践について

活動する

23

実践について

活動の成長の記録（振り返りシート）

○自分のめあて
なりたい自分の姿を考えて書く

○振り返り
活動で一番大切だと思ったことを書く

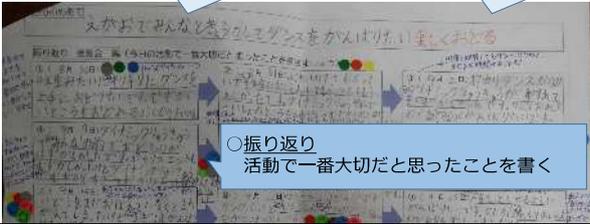
24

実践について

活動の成長の記録（振り返りシート） 指導者からのメッセージ

○**自分のめあて**
なりたい自分の姿を考えて書く

なりたい自分の変更や修正は
赤で追記する



○**振り返り**
活動で一番大切だと思ったことを書く

25

実践について



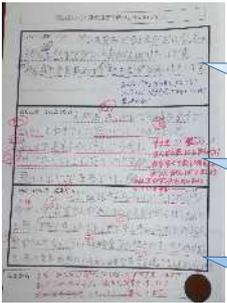
エール交換（他者評価）
友だちの成長の軌を共有し
友だちへの頑張ろう！の
応援メッセージ





26

実践について



○**運動会スタート**
学年集会（中学年）を終えて
その時の気持ちや思いを書く

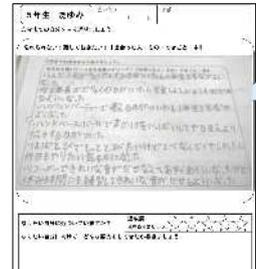
○**あしたは運動会**
運動会の前日に、当日どんなことを
頑張りたいかを書く

○**運動会を終えて**
運動会を終えて、その時の気持ち
を書く

27

実践について

生き方探究パスポート「あゆみ」



常時間
「ねえねえ聞いて！3年生成長ストーリー」
「どんな力がついたか考えよう」
→今までの自分を振り返る
→成長を書きためる

- ・運動会で挑戦する力がついた
- ・4年生と仲良くなった
- ・学習発表会で努力する力がついた
- ・ハロウィンパーティで考える力がついた
- ・ハンドベースボールで声かけをいっぱいしてやる前より協力する力がついた
- など

28

成果・課題

- 子ども
 - ・たくさんの成長を見つけられるようになった
- 指導者
 - ・児童理解が深まった
 - ・成長のつながりが見えた
 - ・前の成長を生かすことができた

29



これからの社会に立ち向かう子どもたち
どんなことにも負けずに自立して
立ち向かってほしい
そしていつまでも可能性を秘めた
幅の広い人間になってほしい

自分の成長が見える力を付けてほしい

30

令和4年度
第5回全国小学校キャリア教育研究協議会
京都市大会 【京都市立音羽小学校】

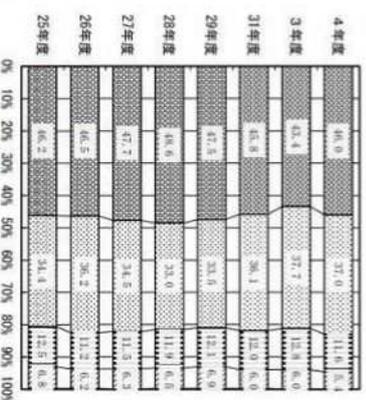
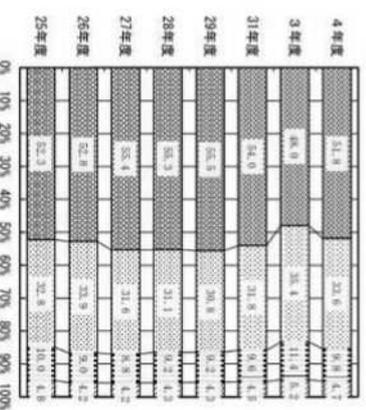
特別活動を要とした キャリア教育のすすめ ～なりたい自分に向けて努力し、 自分らしい生き方の実現につなげる～

令和5年2月3日（金）
文部科学省初等中等教育局 視学官
安部 恭子

令和4年度全国学力・学習状況調査質問紙調査 報告書から

児童生徒質問紙

質問事項	
小	1 6 学校に行くのは楽しいと思いますか
中	1 6

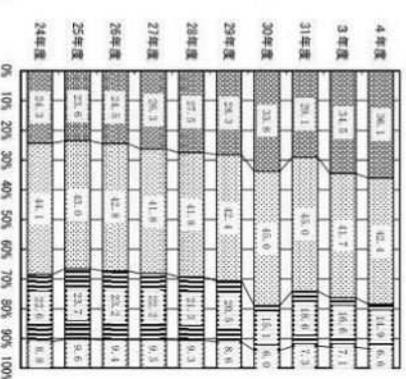
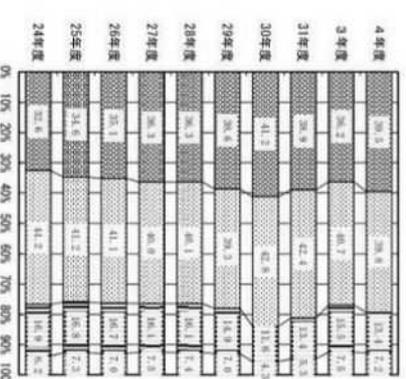


学習指導要領 前文

(前略) これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童(生徒)が、**自分のよさや可能性を認識する**とともに、あらゆる他者を価値のある存在として**尊重**し、**多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き**、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するの**が**、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。(後略)

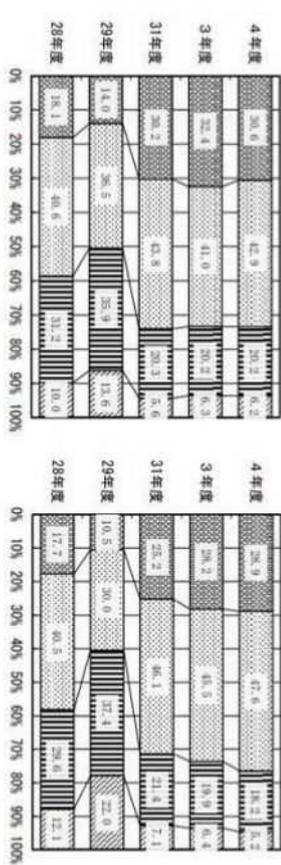
児童生徒質問紙

質問事項	
小	7 自分には、よいところがあると思いますか
中	7



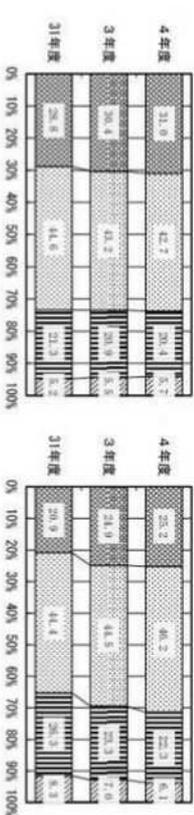
児童生徒質問紙

質問番号		質問事項
小	4 6	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会（学級活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか
中	4 6	



児童生徒質問紙

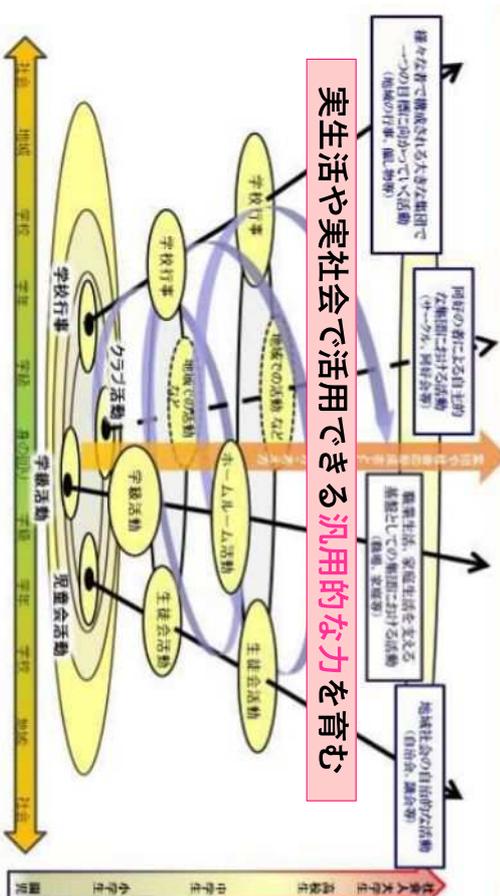
質問番号		質問事項
小	4 7	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか
中	4 7	



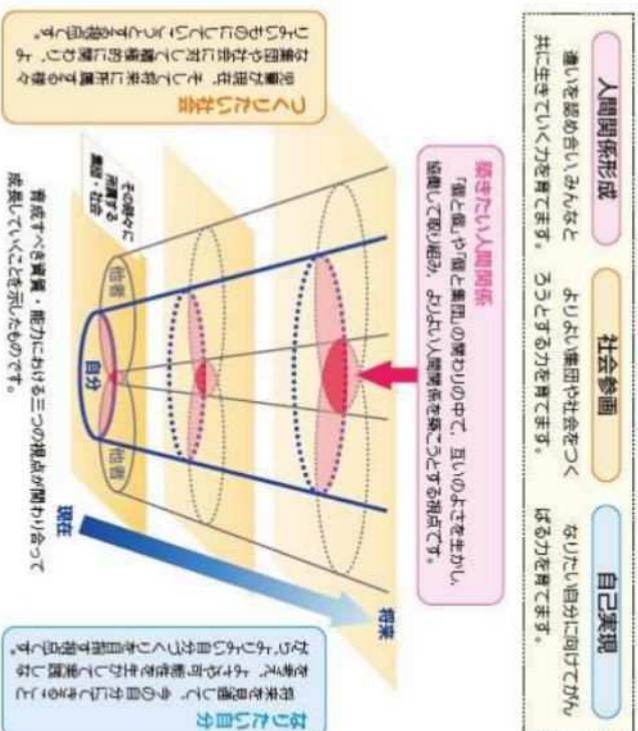
特別活動において育成を目指す資質・能力

特別活動における各活動の整理と「見方・考え方」(イメージ)

《集団や社会の形成としての「見方・考え方」》
 教科材料における見方・考え方を基盤的に活用して、集団や社会における問題を捉え、
 よいよき人間関係の形成、よきよい人間生活の構築や社会への参画及び自己の実現に導くこと



特別活動において育成すべき資質・能力の重要な視点



特別活動で育成を目指す資質・能力

知識や技能を教授するのではなく、**各教科等において学習したことも含めて、特別活動の実践活動や体験活動を通して体得させていく**ようにすることが必要である。

(小学校学習指導要領解説特別活動編 P18)

特別活動の目標

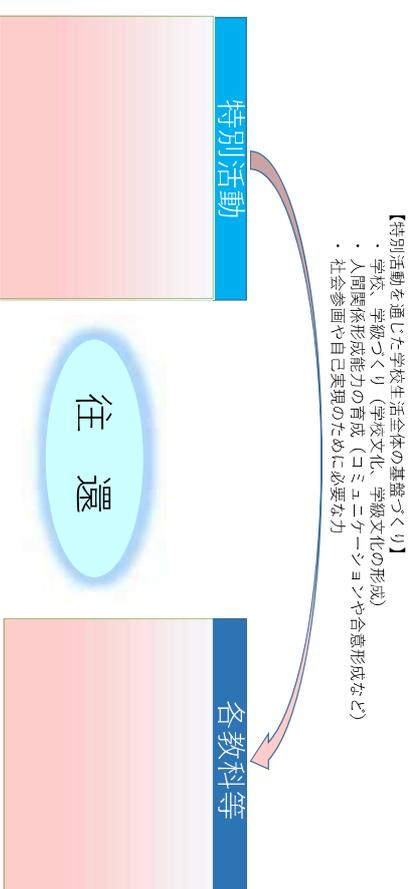
集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な**集団活動に自主的、実践的に**取り組み、**互いのよさや可能性を發揮しながら**集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり**資質・能力**を育成することを旨とする。

- 多様な他者と協働する様々な**集団活動の意義や活動を行う上で必要となること**について理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。 【知識及び技能】
- 集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、**解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり**することができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】
- 自主的、実践的な**集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の(人間としての)生き方についての考えを深め、自己実現を図る**うとする態度を養う。 【学びに向かう力、人間性等】

【学びに向かう力、人間性等】

特別活動で育成を目指す資質・能力の視点：「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」

特別活動と各教科との往還について



【各教科等の学びを生かした特別活動の実践】

- 各教科等で身に付けた資質・能力を特別活動の各活動の中で生かす
- 自己の生活や進路、キャリアに学校での学びをどう生かすのかという振り返りを行う

学級活動の内容

- (1) 学級や学校における生活づくりへの
参画
- (2) 日常生活や学習への適応と自己の
成長及び健康安全
- (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

「キャリア形成」とは

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を
実現していくための働きかけ、その連なりや積み重ね

各活動の特質の違いを踏まえた指導の充実

●学級活動(1)

議題：児童生徒が問題を発見、「共同の問題」を**選定**。
解決方法等について話し合い、**折り合いを**
つけて、集団として「合意形成」を図る。

☆キーワード 『自分もよく、みんなもよい』
ことを決める

●学級活動(2) (3)

題材：教師が「共通の問題」として、**課題を設定**。
教師の指導に従って、解決方法を話し合いを
通して考え、自己の課題に対する解決方法や
努力目標を**一人一人が「意思決定」**する。

【学級活動】

1 目標

学級活動(1)： **自治的能力**を育む

学級や学校での生活をよりよくするため
の課題を見だし、解決するために話し合
い、**合意形成**し、役割を分担して協力して
実践したり、学級での話し合いを生かして自
己の課題の解決及び将来の生き方を描くた
めに**意思決定**したり、実践したりすること
に、**自主的、実践的に取り組む**ことを通し
て、第1の目標に掲げる資質・能力を育成
することを目指す。

学級活動(2) (3)： **自己指導能力**や**自己実現**に
つながる力を育む

学級活動(1)

自発的、自治的な活動

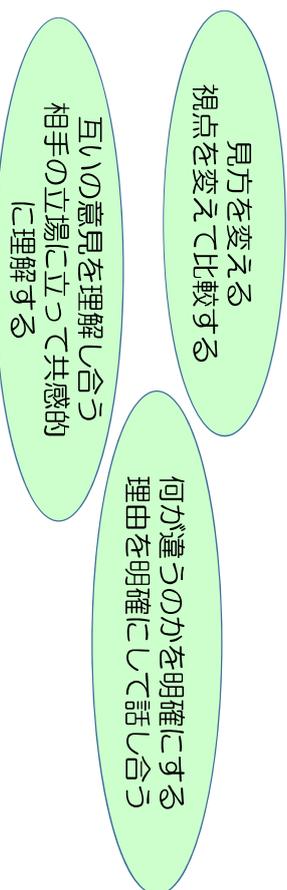
教師の適切な指導の下

集団としてよりよく**合意形成**
を図って実践する

適切な議題選定・話し合うことの設定

よりよい合意形成

- * 安易な多数決で結論を出さない。
- * 多数意見でまとめていくことが基本だが、**少数意見も尊重し**、生かす工夫はないか考える。
- * それぞれの意見をくらべ合いながら、「折の合い」をつけて**合意形成を図る**。



児童生徒は、他者との関わりや他者からの評価によって**自分が仲間から必要とされていることや役に立っていることを実感し、自己有用感が高まっていく**。

振り返りにおいても、自分や友達のがんばったことなどを認め合ったり、教師から成長を称賛されたりするようにする。



様々な集団での活動を通して、**自治的能力**や**主権者として積極的に社会参画する力を**育む。

自己有用感を高める

特別活動では、特に学級活動(1)を中心とした**自発的、自治的な活動**を通して、**児童生徒が互いに協力し合い認め合う中で、自分が他者の役に立つ存在であることを実感し**、自分のよさや可能性を発揮して自信をもつようになる。

児童生徒の「自発的、自治的な活動」は特別活動固有の活動。**自分たちでよりよい生活をつくっていく**「自治的能力」は、特別活動において高めることができる力の一つ

小・中学校向け主権者教育指導資料
「主権者として求められる力」を子供たちに育むために



児童生徒による自発的、自治的な活動の充実

よりよい学級や学校の生活を築くための問題を発見したり、**集団としての意見をまとめたりするなどの話し合い活動や、話し合いで決まったことを友達と協力して実践したりする活動**



多様な集団活動を通して、互いのよさを見付け合い、違いを尊重し合い、仲よくしたり、信頼し合ったりする関係を築く

一朝一夕には
できない

学校としての
積み重ね

なりたい自分に向けて努力し、

自分らしい生き方の実現につなげる

～特別活動を要としたキャリア教育～

小学校特別活動映像資料 学級活動編



H28年答申「キャリア教育の課題」

- 職場体験活動やインターンシップをすることがキャリア教育になっていないか
- 勤労観・職業観の醸成は小学校段階では尚早と考えられていないか
- 「夢を持つ」「仕事を調べる」が固定的なキャリア教育の授業になっていないか
- 「キャリア教育≒進路指導」から「進路（進学／就職）」という狭義な部分のみを捉え、従前の指導を続けているのではないか
- 学校の教育活動全体で行うとされてきたことが、逆に指導場面を曖昧にしたのではないか

「キャリア教育の要」としての役割を果たす

小（中）学校学習指導要領 第1章 総則 第4の1（3）

児童（生徒）が、**学ぶことと自己の将来とのつながり**を見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、**特別活動を要**として各教科等の特質に応じて、**キャリア教育の充実を図ること**。（その中で、**生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択すること**ができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。）

学級活動(2), (3)

年間指導計画に基づいて指導

話し合いを生かして

一人一人が**意思決定**して実践する

適切な題材設定・めあての明確化

学級活動（3） 「一人一人のキャリア形成と自己実現」

小学校

中学校

ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成

イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解

ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用

ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用

イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成

ウ 主体的な進路の選択と将来設計

4つの段階を踏まえた展開例（学級活動(3)）

問題意識をもつ

つかむ

題材を自分ごととして捉え、課題をつかむ

さぐる

これまでの自分を振り返り、**自分のよさや可能性**に気付く

見付ける

なりたい自分に近づぐための方策や解決方法を話し合いを通して考える

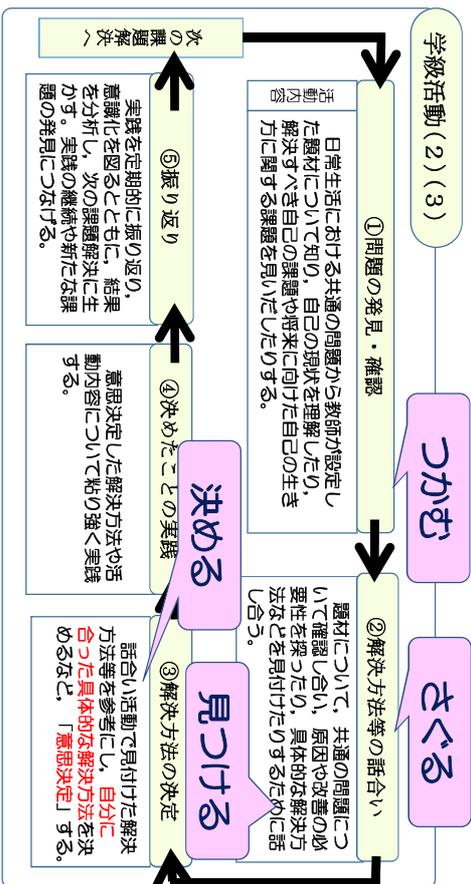
決める

自己の努力目標や実践方法を決める【**意思決定**】

決めたことの実践

現在の自己の生活上の課題解決
および将来に向けた自己実現

学級活動 (2) 「日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」、
学級活動 (3) 「一人一人のキャリア形成と自己実現」の学習過程 (例)



事前から事後までを見通し、
振り返りを次の課題解決に生かす！

多様な集団活動の経験の中で、**集団活動**
の運営や役割を果たす活動を通して

自分なりの考えを深め、集団の一員として
の役割貢献、リーダーシップの発揮
などのある方やゆめあてをもって取り
組むことができるようにする。



場や機会の充実



「学習や生活の見通しを立て、振り返る教材等の活用」

【小(中) 学校学習指導要領第1章総則第3の1(4)】

「(前略) 児童(生徒)が学習の見通しを立てた
り学習したことを振り返ったりする活動を、計画的
に取り入れるように工夫すること」

【小(中) 学校学習指導要領第6(5) 章特別活動 第2

【学級活動】 3内容の取扱い】

「2の(3)の指導に当たっては、学校、家庭及び
地域における学習や生活の見通しを立て、学んだ
ことを振り返りながら、新たな学習や生活への
意欲につながり、将来の生き方を考えたりする
活動を行うこと。その際、**児童(生徒)が活動を
記録し蓄積する教材等を活用すること。**

【小（中）学校学習指導要領解説 特別活動編】

一つ目は、小（中）学校の教育活動全体で行う**キャリア教育の要**としての特別活動の意義が明確になることである。

横をつなぐ

二つ目は、小学校から中学校、高等学校へと**系統的なキャリア教育**を進めることに資することである。

縦をつなぐ

三つ目は、児童（生徒）にとっては**自己理解**を深めるためのものとなり、教師にとっては**児童（生徒）理解**を深めるためのものとなることである。

児童生徒と教師をつなぐ

特別活動を要としたキャリア教育の充実を！

参画意識を高め、自治的能力を育む

特別活動の実践を通して「自分たちの学級・学校である」

「楽しく豊かな学級・学校生活を自分たちでつくる」という意識を高める

「何のために話し合うのか」「何のための活動か」を明確にする ⇨ 「やらされる活動」にしない！

自己有用感、自己効力感を高める

「役割を果たす」（生徒会活動、学校行事など）

⇒ 「自分もやればできる」

教科横断的な視点で、目標達成に必要な教育活動や教育内容を効果的、組織的に配列する。

- ・ 体験活動を意図的、計画的に実施。体験活動を核に、教科横断的に学年を超えて学びをつなぐ

小学校における特別活動の実践が、基礎的・汎用的能力の育成につながっていることを踏まえ、「見通しをもって生活する」「社会参画意識の醸成」など、中学校以降のキャリア教育につながっていくものを整理し、指導計画に生かす。

キャリア教育には「キャリア・パスポート」のような個別指導（カウンセリング）と学級会オリエンテーションや学校行事、各教科の授業などの全体指導（ガイダンス）の両輪が大切。

「キャリア・パスポート」を活用した自己理解、児童生徒理解

役割意識を高める⇒自己有用感の向上

「互いのよさやがんばりに気付く」

「次の課題解決に生かす」ことができるようにする

将来に向け、「自分らしい生き方の実現」

「自分のよさに気付く」⇒振り返りの工夫

「やりたい自分に向けて努力する」⇒学級活動（3）の充実、「キャリア・パスポート」の活用

学校行事の充実

「特色ある学校づくり」「学校文化をつくる」

よりよい学級・学校生活に向け、自分たちの生活上の課題に気付き、**創意工夫して自ら解決する**力や、**なりたい自分に向かって前向きにがんばる**力を育む！

2月3日（金） 午前中

京都市型キャリア教育「生き方探究教育」の取組

2月3日（金） 午前中

音羽小学校のキャリア教育

2月3日（金） 16:00～16:50

記念講演 「特別活動を要としたキャリア教育のすすめ」講師 文部科学省 安部恭子視学官



令和4年度 研究のあゆみ

研究主題

自分の思いや考えをもち、主体的に伝え合う子の育成
～キャリアの視点を大切にした全教科・領域の取組を通して～



おとわしょうがっこう

京都市立音羽小学校

令和4年度 研究方針

京都市立音羽小学校
研究委員会

1 学校教育目標

「一人一人が夢と希望にむかって輝いている学校」

～夢と希望にむかって、よりよい未来を創造しようとする子の育成～

2 めざす子ども像

自ら学び思いや考えを表現する子 自らの学びを将来のために生かす子

3 研究主題

自分の思いや考えをもち、主体的に伝え合う子の育成

～キャリアの視点を大切にした全教科・領域の取組を通して～

4 研究仮説

学校におけるすべての教育活動において、キャリア教育の視点で取組を整理し、展開する。そうすることで、どの学習でも共通する必要な力を意識し、見通しをもって活動に取り組む児童を育てることができる。そして、児童と教師が「何のために、どのような力をつけるために学ぶのか」を共有して学習することができれば、自分の思いや考えをもって、主体的に伝え合う子を育てることができるのではないか。

5 めざす子どもの姿

- *自ら課題を発見し、解決する子（主体性のある）
- *自分の思ったことを進んで表現し、友達に伝えようとする子（会話・対話ができる）
- *様々な教科で培った学びの成果を実生活につなげ、自分で考えて行動できる子（学びを生活につなぐ）

6 主題設定の理由

本校の児童は素直で優しく、友達や周りの人のために一生懸命考えたり行動したりできる子が多い。また、周りの大人から「こうしよう」と言われるとそれに応えようとする素直さも、もち合わせている。その反面、自分の思いを伝えることや積極的に自分から行動しようとする主体性には課題がある。何のためにするのかを考え、自分から進んで行動する力を身につけることが求められる。そのためには、自己肯定感を高め、互いに認め合う集団づくりが大切になってくる。安心して自分の意見を表現できる場があることで、児童

は主体的に課題に向き合い、解決しようと学び続けると考える。それこそがキャリア教育で求められる姿である。そして、すべての教育活動をキャリア教育の視点から見通しをもって整理し、展開していくことで、学んだ力を将来の夢や希望に向かってへ生かしていきけるのではないかと考えた。

また、「キャリア教育」の一番の大きな目標は、すべての教育活動を、自分たちの未来や将来のために、「つなぐ」ことである。だからこそ、「今学んでいることが、将来どのように役に立ち、実生活に生かしていくことができるのか」の視点を大切にして、児童に学ぶ価値を捉えさせたい。キャリアで育てたい4つの育成指標を、低・中・高学年に分け、育てたい力を児童と共有し、意識しながら授業に取り組むことで、生きていくうえで必要な基礎的・汎用的な力を伸ばすことができるのではないかと考える。

7 研究の重点

(1) 各教科を通して

- ・各教科でつけたい力とキャリア教育でつけたい力を明確にする。
- ・児童に課題意識を持たせるために、授業の導入を工夫する。
- ・自分の意見を持ち、主体的に学ぶために学習形態を工夫する。
- ・キャリアの視点（キャリアのめがね）を共有し、自己や仲間の変容をふり返り、言語化して伝え合うようにする。

(2) 総合的な学習の時間や学校行事を通して

- ・キャリア年間計画を校内に掲示し、児童と共有する。
- ・活動の見通しを持ち、毎時間のふり返りを通して、成長をメタ認知できるようにする。

(3) 学級活動を通して

- ・学級の問題解決能力育成のために、学級会や係活動の充実を図る。学級活動（1）
- ・一人一人のキャリア形成充実のために、ふり返りを生かした自己決定の機会を設定する。学級活動（3）

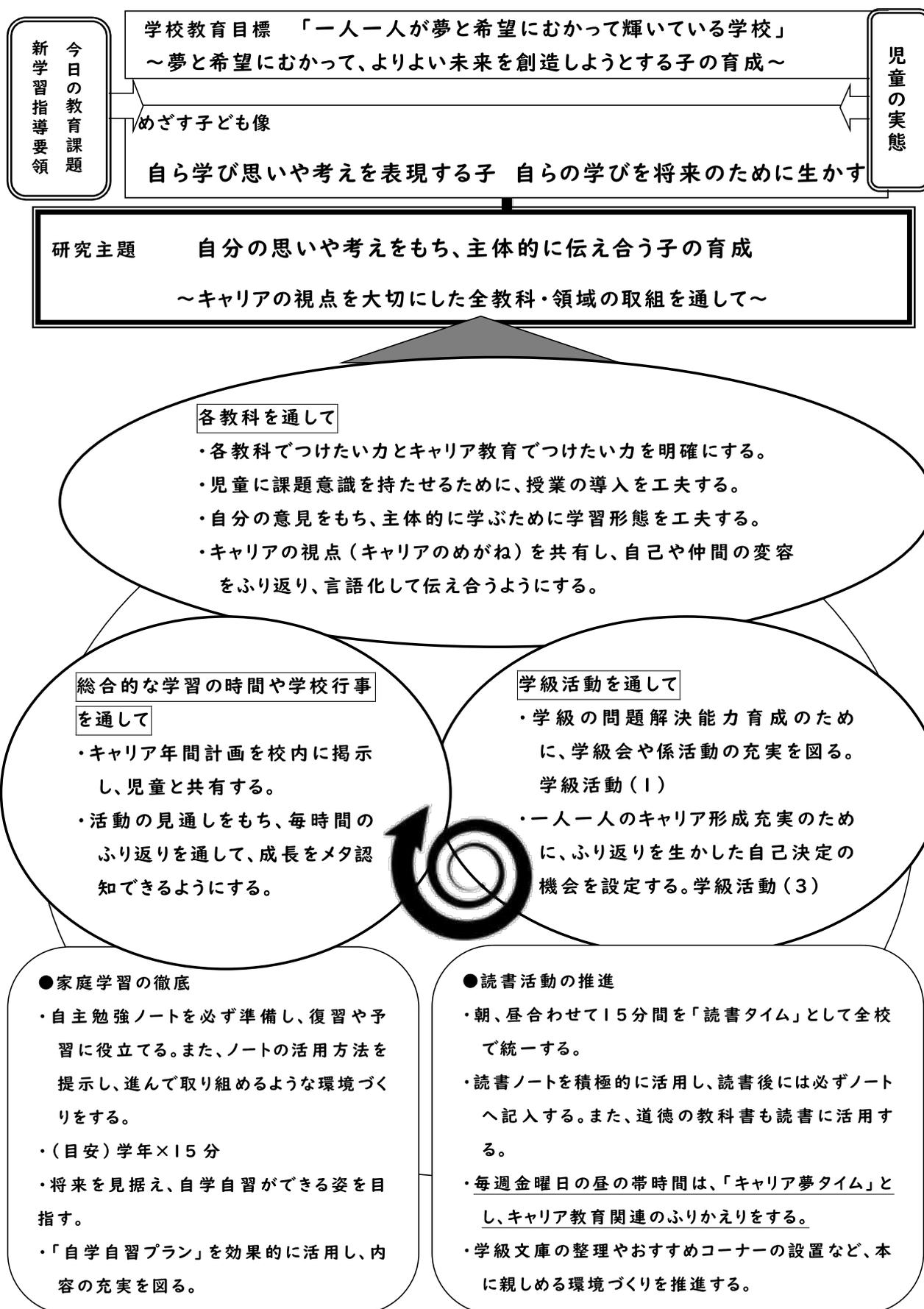
- ・キャリア夢ファイル（キャリアパスポートのポートフォリオ）を活用した授業

(4) 家庭学習の徹底

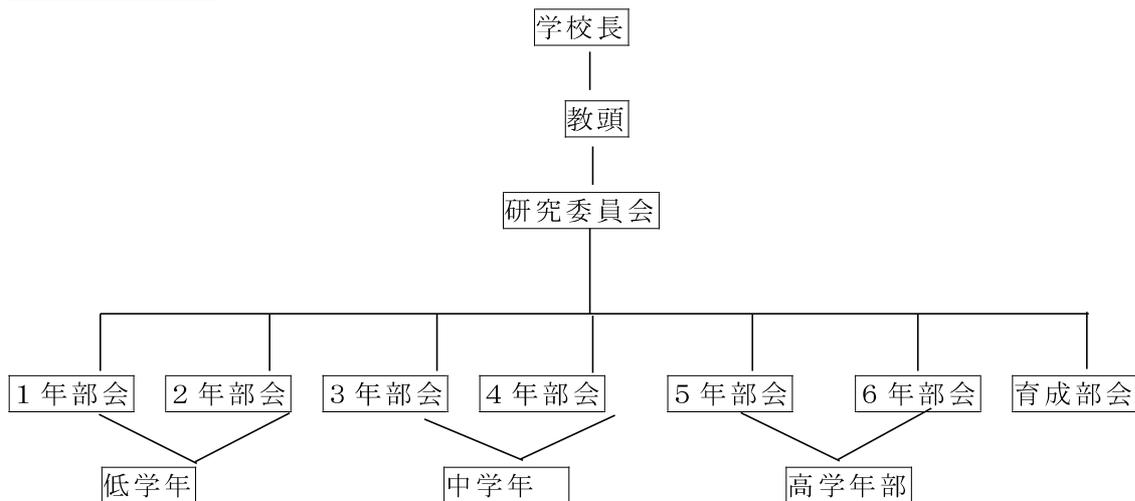
- ・自主勉強ノートを準備し、復習や予習に役立てる。また、ノートの活用方法を提示し、進んで取り組めるような環境づくりをする。
- ・（目安）学年×15分
- ・将来を見据え、自学自習ができる姿を目指す。
- ・「自学自習プラン」を効果的に活用し、内容の充実を図る

(5) 読書活動の推進

- ・朝、昼合わせて15分間を「読書タイム」として全校で統一する。
- ・読書ノートを積極的に活用し、読書後には必ずノートへ記入する。また、道徳の教科書も読書に活用する。
- ・毎週金曜日の昼の帯時間は、「キャリア夢タイム」とし、キャリア教育関連のふりかえりをする。
- ・学級文庫の整理やおすすめコーナーの設置など、本に親しめる環境づくりを推進する。



9 研究組織



※研究委員会とは、学校長・教頭・教務主任・研究主任・協力指導・各学年・さくら 1名より構成される。

10 研究の進め方

(1) 全校としての取組

- ・年度初めに「夢とつながる今の自分」を作成し、通年掲示する。
- ・キャリア年間計画表を学年の掲示板に貼り、児童の足跡をひと月単位で更新する。
- ・各学年で1年を見通す・振り返ることのできる掲示物をつくり、次年度に引き継ぐ。
(キャリア年間計画表・キャリア夢ファイル・キャリアパスポートの充実)

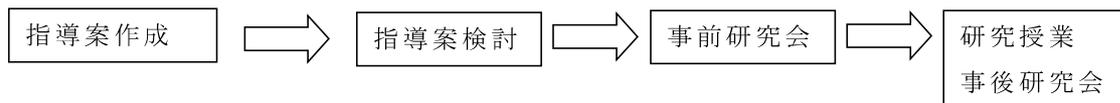
(2) 学級単位での取組

- ・友達のよい部分を積極的に見つけるよう指導する。
- ・帯時間は「読書タイム」とし、読書ノートを活用する。
- ・月1回は図書室や図書での本を活用した授業を行う。
- ・ぐんぐんタイムの時間を活用したキャリア夢ファイルの継続したふり返し
- ・毎週金曜日の帯時間は、「キャリア夢タイム」とし、キャリア夢ファイルの充実に充てる。
- ・キャリアでつきたい4つの力を共有し、可視化を図る。

(3) 校内授業研究会

①研究委員会のもち方

- ・月に1回、16時から（原則として月の第1週目の月曜日）
- ・研究委員会と別に、生活・総合的な学習の時間の会議も行う。（不定期）



②指導案検討会及び事前研究会（小）について【通称：事前研】

- ・参加者は、原則として校長・教頭・教務主任・研究主任・該当する低・中・高学年部と研究部とする。
- ・各学年1回は行う。研究授業の事前、もしくは自主的に公開することも可とする。
- ・他の教職員についても、日程を前もって知らせておくことで、少しの時間でも参観できるようにする。

③研究授業（大）について【通称：研究授業】

- ・参加者は全教職員とする。
- ・各学年部1回は行う。（行わなかった学年部は研究発表会を公開する）
- ・指導案は、研究授業当日の1週間前に、指導助言の先生に送付する。

④事後研究会について

- ・司会は研究部が行う。
- ・交流の形態は、限定せず、工夫して行う。
- ・記録は、各学年部の学年が行う。（3年の授業なら4年。さくらの場合は7年が担当する。）

⑤研究発表会について

- ・全国小学校キャリア教育研究協議会京都市大会（2月3日）において発表。（低・中・高学年部3学年公開）

（4）小中一貫教育の推進

- ・学びの約束、ルールを各学年の児童の実態に合わせて取り組んでいく。
- ・年2～3回の小中合同研究授業の開催

11 研究年間計画

月 日	校内研修会
4/5（火）	研究主題の設定と年間研究計画 キャリアパスポートについて
4月中	キャリア年間計画表の作成→階段掲示板に貼る
5/26（木）	第1回校内研究授業（5年1組 宇都木学級公開授業）
6月末頃	第2回校内研究授業（さくら学級公開授業）
7月中	学級活動（3）授業の実践（全クラス）
夏休み 7月	研究発表会に向けた教材研究・指導案検討その1（キャリア研と）
夏休み 8月	研究発表会に向けた教材研究・指導案検討その2
9月末頃	第3回校内研究会（3年1組 野間学級公開授業）
10月	全国大会に向けた指導案検討（キャリア研と）
11月初旬頃	第4回校内研究会（1年1組 中村学級公開授業）
11月～12月	研究冊子の作成
1/19（木）	研究概要の提案内容、各学年掲示物準備など
1/26（木）	リハーサル、最終確認など
2/3（金）	全国小学校キャリア教育研究協議会京都市大会
2月	研究のまとめ

4つの力アイコンについて

音羽小学校では、本年度よりキャリア教育で育てたい4つの力を色とアイコンで表現し、児童と共有することで取組を進めることとした。

4つの力のイメージを明確にし、共通理解するため、年度初めに教職員研修を行った。



チーム音ちゃんズ

アイコン・色	キャリア教育で育てたい力	共通理解した姿や言葉
仲間くん・赤 	<u>人とともに社会を生きる力</u> 人間関係形成能力 社会形成能力	おもいやり いっしょに いいところを見つけ 仲間 協力 ありがとう すごいね 手伝うよ コミュニケーション 協働 手伝うよ 尊重 など
成長くん・緑 	<u>自己を知り、律する力</u> 自己理解能力 自己管理能力	やってみよう チャレンジ 好きなことを 目標 努力 頑張り 自分らしさ 個性 積極的に 自分に正直に 長所・短所 自律 興味・関心 など
探究くん・青 	<u>課題を見つけ、解決する力</u> 課題対応能力	くじけない のりこえる 不思議 疑問 自分で調べてみる やってみる なんで どうして 教えて 分かった できた これもあるよ 探究 予想 検証 解決 など
夢ちゃん・黄 	<u>夢や希望をつくりあげる力</u> キャリアプランニング能力	成長 夢 未来 なりたい自分 希望 前向き 明るく 挑戦 想像力 憧れ 目標 出会い 出合い 計画 めあて など

4つのアイコンは、5月中に各学級で児童に示し、さらに児童の言葉で具体化した。学級に色丸シールを置いておき、様々な教育活動の中で活用している。

教職員研修で共通理解を図る



児童に示し、4つの力を具体的な言葉で表し、イメージを共有する



授業の中で活用している場面



夢とつながる今の自分



ゆめと つながる いまの じぶん

ねん くみ なまえ

○いまの じぶんについて かんがえて みましょう。

じぶんの しゃしん

とくいなこと・すきなこと・たいせつに していること・もの

じぶんの よいところ

しょうらいの ゆめ(やってみたい しごと・こんな ひとに なりたい)

○1ねんせいで がんばりたいこと、チャレンジ したいこと

こんな 1ねんせいに なりたい

そのために すること

まわりの ともだちから

① _____

② _____

③ _____

ゆめとつながる今の自分

ねん 年 くみ 組 なまえ 名前

○今の自分について考えてみましょう。

自分のしゃしん

とくい 得意なこと・す 好きなこと・たいせつ 大切にしていること・もの

じぶん 自分のよいところ

しょうらい 将来の夢(やってみたい仕事・こんな人になりたい)

○この1年間がんばりたいこと、チャレンジしたいこと

こんな ねんせい 年生に になりたい

そのために することは

まわりの人から

キャリア夢ファイル



めざそう！ キラキラ 1ねんせい

ねん くみ なまえ (_____)

☆1しゅうかんの とりくみを きろく しましょう。

なりたい じぶん

「 _____ 」

そのために がんばること

「 _____ 」

月	日(きん)	
月	日(ど)	
月	日(にち)	
月	日(げつ)	
月	日(か)	
月	日(すい)	
月	日(もく)	

月	日(きん)	
月	日(ど)	
月	日(にち)	
月	日(げつ)	
月	日(か)	
月	日(すい)	
月	日(もく)	

◎
よくできた

○
できた

△
できなかった

ふりかえり

キャリア・ゆめへのあしあと(2年生)

ねん 年 くみ 組 ばん 番 なまえ 名前 (_____)

☆2しゅうかんのとりくみをきろくしましょう。

なりたい自分

「 _____ 」

そのためにがんばること

「 _____ 」

月	日(金)	
月	日(土)	
月	日(日)	
月	日(月)	
月	日(火)	
月	日(水)	
月	日(木)	

月	日(金)	
月	日(土)	
月	日(日)	
月	日(月)	
月	日(火)	
月	日(水)	
月	日(木)	

◎…よくできた

○…できた

△…できなかった

ふりかえり

まわりの人から

キャリア・ゆめへのあしあと(3年生)

ねん　くみ　ばん　なまえ
年　組　番　名前(_____)

☆2週間のとり組みをきろくしましょう。

<p>なりたい自分</p> <p>「 _____ 」</p> <p>そのためにがんばること</p> <p>「 _____ 」</p>
--

月	日(金)	
月	日(土)	
月	日(日)	
月	日(月)	
月	日(火)	
月	日(水)	
月	日(木)	

月	日(金)	
月	日(土)	
月	日(日)	
月	日(月)	
月	日(火)	
月	日(水)	
月	日(木)	

◎…よくできた

○…できた

△…できなかった

<p>ふりかえり</p> <p>_____</p> <p>_____</p>

<p>まわりの人から</p> <p>_____</p> <p>_____</p>

キャリア・夢への足跡 (4年)

年 組 番 名前 ()

☆2週間の取り組みを記録しましょう。

頑張ること

日にち	チェック
月 日 (金)	
月 日 (土)	
月 日 (日)	
月 日 (月)	
月 日 (火)	
月 日 (水)	
月 日 (木)	

日にち	チェック
月 日 (金)	
月 日 (土)	
月 日 (日)	
月 日 (月)	
月 日 (火)	
月 日 (水)	
月 日 (木)	

◎…よく出来た
○…出来た
△…出来なかった

振り返り

まわりの人から

キャリア・夢への足跡 (高学年)

年 組 番 名前 ()

☆ 2週間の取り組みを記録しましょう。

頑張ること

日にち	印	振り返り
月 日 (金)		
月 日 (土)		
月 日 (日)		
月 日 (月)		
月 日 (火)		
月 日 (水)		
月 日 (木)		

日にち	印	振り返り
月 日 (金)		
月 日 (土)		
月 日 (日)		
月 日 (月)		
月 日 (火)		
月 日 (水)		
月 日 (木)		

◎…よく出来た

○…出来た

△…出来なかった

振り返り

まわりの人から

キャリア年間計画表

各学年の取組

1年の取組

【教科】生活科「みんなの にこにこ 大きくせん」（11月～12月実施）

キャリアの視点として、大切にしていたこと

- ① お家の人やがどんな時ににこにこするのか作戦を考え、振り返るたびにアドバイスし合えるようにした。
- ② 考えた作戦を繰り返し行う中で課題が出てきた際に、みんなで話し合うことで課題解決の力がつくようにした。
- ③ にこにこが増えていくにつれて、児童自身の成長にもつながっていることに気付かせるようにした。
- ④ PDCA サイクルを3回に増やし、工夫を重ねることでよりよくなっていくことが実感できるようにした。



【児童の変容】作戦を繰り返し、お互いにアドバイスをし合いながら改善していくことで、家族がにこにこするような活動ができるようになっていった。授業以外でもお互いに実行した作戦を話し合う姿も見られるようになり、友達の作戦に興味を持つことができた。よりよいアドバイスをし合えるようになったことで作戦がより練り上げられ、より良い活動ができるようになっていった。今回の活動を通して一人のにこにこが家族全体のにこにこに繋がるのが実感でき、これから家族のにこにこを増やしていこうとする意欲を持つことができた。

【学級活動（3）】「かがやけ！ ピカピカ 1ねんせい」（10月実施）

キャリアの視点として、大切にしていたこと

- ① お互いの頑張っている様子が分かりやすいように動画や写真を使って頑張っている姿を友達同士で見合うようにした。
- ② 「さぐる」の場面では、一人では考えることが難しいことでも友達と考え、アドバイスをし合うことで、なりたいたい自分に近づくための方法をたくさん考えられるようにした。また友達の活動を知ることで夢が広がることもねらった。
- ③ 「見つける」の場面では、グループ交流で友達からもらったアドバイスを全体で交流することで、課題を解決する方法がたくさんあることに気づき自分の課題にも生かしていけるようにした。
- ④ 「決める」の場面では、いろんな意見の中から自分で取捨選択をし、意思決定をさせるようにした。



【児童の変容】なりたいたい自分に向けて頑張ることを明確にしたことで、意欲的に取り組んだり、話し合ったりすることができる児童が増えた。またタブレットで頑張っている姿をクラスで見合うことにより、児童の頑張りたいという意欲の向上につながったことや、帯時間などでがんばっていることを話す姿が増え、子どもたちの頑張りを身近に感じることができた。これからも励ましやアドバイスの声掛けを細かに行っていくことで子どもたちの意欲の維持向上に繋げていきたい。

2年 キャリア年間計画ひょう

学校教育目標

一人一人が夢と希望におかかって輝いている学校
～夢と希望におかかって、よりよい未来を創造しようとする子の育成～

のびたい力

仲間をつくらう
自分を高めよう

問題をかいげつしよう
ゆめに近づこう

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1学期	○合言葉「は・な・ま・る ばりきる・なかよく・まなび合う・ルールをまもる」			○隔りの会「みんなのワンダーグラス」								
2学期	仲自			仲自			仲自			仲自		
3学期	仲自			仲自			仲自			仲自		

各教科	国語	算数	英語	国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語
国語	「きょうのできごと」 自	「あたいいな、こんなもの」 自問	「サラダで元氣」 仲	「そのだんにのつてくたさい」 仲	「わたしはおねえさん」 自	「楽しかったよ、二年生」 自夢	「すてきなところをつたえよう」 仲自夢	「あたいいな、こんなもの」 自問	「あたいいな、こんなもの」 自問	「あたいいな、こんなもの」 自問	「あたいいな、こんなもの」 自問	「あたいいな、こんなもの」 自問
算数	「ひょうじグラフ」 自問	「ツツ・トライクメモのとり方」 自問	「かけ算の九九」 自夢	「九九づくり」 自夢	「九九づくり」 自夢	「九九づくり」 自夢	「九九づくり」 自夢	「九九づくり」 自夢	「九九づくり」 自夢	「九九づくり」 自夢	「九九づくり」 自夢	「九九づくり」 自夢
英語			「サラダで元氣」 仲									
図工	「ストローでこんにちば」 自問											
体育			「うんどうかいれんしゅう」 自夢									
音楽			「ピラやきバクフド」 自夢									
生活	「で、あ、きょうから2年生」 自夢	「あそびたい、大はげけん」 仲夢	「あそびたい、大はげけん」 仲夢	「あそびたい、大はげけん」 仲夢	「あそびたい、大はげけん」 仲夢	「あそびたい、大はげけん」 仲夢	「あそびたい、大はげけん」 仲夢	「あそびたい、大はげけん」 仲夢	「あそびたい、大はげけん」 仲夢	「あそびたい、大はげけん」 仲夢	「あそびたい、大はげけん」 仲夢	「あそびたい、大はげけん」 仲夢
行事	「2年生のわかれ」 自夢	「1年生をむかえる会」 仲自夢	「2年生お楽しみ会」 問仲自自夢	「2年生おわかれ会」 仲自自夢	「6年生を送る会」 仲自自夢	「2年生お楽しみ会」 問仲自自夢	「2年生おわかれ会」 仲自自夢	「6年生を送る会」 仲自自夢	「2年生お楽しみ会」 問仲自自夢	「2年生おわかれ会」 仲自自夢	「6年生を送る会」 仲自自夢	「2年生お楽しみ会」 問仲自自夢
特別活動	「2年生のわかれ」 自夢	「1年生をむかえる会」 仲自夢	「2年生お楽しみ会」 問仲自自夢	「2年生おわかれ会」 仲自自夢	「6年生を送る会」 仲自自夢	「2年生お楽しみ会」 問仲自自夢	「2年生おわかれ会」 仲自自夢	「6年生を送る会」 仲自自夢	「2年生お楽しみ会」 問仲自自夢	「2年生おわかれ会」 仲自自夢	「6年生を送る会」 仲自自夢	「2年生お楽しみ会」 問仲自自夢

2年の取組

【教科】算数科「図を使って考えよう（3）」（11月実施）

キャリアの視点として、大切にしていたこと

- ① 前単元「図を使って考えよう（2）」を想起させ、テープ図の扱いについて振り返り、本時の見通しを立てやすくした。
- ② 練習問題の際、できた児童が、まだ取り組んでいる児童をフォローできるように、名前カードを使って学習の到達度を見える化した。
- ③ 単元の最後では、自分たちの力で取り組めるように段階ごとの練習問題を用意し、児童が自分の学習にあった課題を選べるようにした。また、自分で「キャリアの4つの視点」から目標を作り、自分のめあてに対しての振り返りを行った。



【児童の変容】既習事項を振り返ったうえで学習を進めていくことで、見通しをもって学習をすることができ、意欲的に取り組むことができた。特に、最後のまとめの学習の「自分でめあてをつくる」「自分で課題を選ぶ」の2つについては、自ら学習を進めることができ、その中で「友達に進んで教えること」や「自分で最後まで問題を解き抜くこと」など、自分なりのめあてをもって学習できた。こういった学習を、今後も続けていきたいと思う。

【学級活動（3）】「目ざそう！すてきな2年生」（6月実施）

キャリアの視点として、大切にしていたこと

- ① 本時のめあてを確認する前に、事前のアンケート結果から、1年生の時、特に頑張ったことをふりかえるパワーポイントをつくり、本時の学習のめあてを「つかむ」ことをしやすくした。
- ② 「さぐる」場面では、1年間を見通すことのできる「キャリア年間計画表」を掲示し、「これからどんな2年生になりたいか」を考えやすくした。
- ③ 「見つける」場面では、なりたい自分になるために「夏休みまででどんなことをがんばるか」をどうするかを見つけるために、他の児童に自由に関われる場面を設定し、アドバイスをもらえるようにした。
- ④ 「きめる」の場面では、決めたことができたかどうかを振り返るためにワークシートを準備し、帯時間などを中心にそれぞれが決めたことを振り返りやすくした。



【児童の変容】本授業を通して、「走りがはやい2年生になるために、2日に1回家の周りを走る」など、夏休みまでという期間で「なりたい自分」に向けて頑張ることを明確にしたことで、決めたことを中心に、意欲的にがんばることができる児童が増えた。また、そういった児童と、空き時間やぐんぐんタイム（帯時間）などで、共通の話題をつくるので、担任と児童との関係づくりのよいツールにもなっている。本授業を通過点として、普段の児童のがんばりを価値づけていくことが大切であるので、毎日の積み重ねを大切にしていきたい。

3年 キャリア年間計画表

学校教育目標

一人一人が夢と希望にむかって輝いている学校
 ~夢と希望にむかって、よりよい未来を創造しようとする子の育成~

伸ばしたい能力
 仲 夢

仲間をつくろう
 仲 夢

問題を解決しよう
 問 夢

学期	1学期			2学期			3学期						
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
学校行事	○朝の会「TRY(トライタイム)(対話・アンケート)」												
学年目標	○学年目標「HEROJ (Helpful...協力 Energy...全力 Rule...ルールを守る One Team...学年)」												
各教科	国語 「もっと知りたい、友だちのこと」 仲	算数 「素直な学び」 自	理科 「力と風のか」 「音のふしぎ」 問	保健 「健康な生活」 仲	体育 「リズムダンス」 「民よう」 自	外国語活動 「ALPHABET」 自	外国語 「すかたをかえろ」 問	理科 「ものの重さ」 問	理科 「おもちゃシュー」 「ひんご」 夢	国語 「もっと知りたい、友だちのこと」 仲	算数 「素直な学び」 自	理科 「力と風のか」 「音のふしぎ」 問	保健 「健康な生活」 仲
総合	音楽 「リコーダーを上手にしよう」 自	社会 「京都市の様子」 問	社会 「ローマ字」 外国語活動「Hello!」 自	社会 「商店のはたらき」 夢	社会 「工場につくられるもの」 問	社会 「京都市の様子とくらしのつながり」 問	社会 「京都市の様子とくらしのつながり」 問	社会 「京都市の様子とくらしのつながり」 問	社会 「京都市の様子とくらしのつながり」 問	社会 「京都市の様子とくらしのつながり」 問	社会 「京都市の様子とくらしのつながり」 問	社会 「京都市の様子とくらしのつながり」 問	社会 「京都市の様子とくらしのつながり」 問
保健	音羽けんこうはかせ ○自分たちの健康に関心をもち、健康についてくわしい人と関わる活動を通して、健康な生活のよさを確認し、主体的に自分たちの生活をよくしようとする。												
道徳	わたしたちのまちじまん~おとわッア~ガイドになる ○自分たちの町やそこにくらす人々の上で、この町をよりよくするためにできることを考え、今後おとわッア~ガイドになる。												
特別活動	生き方講座「アズガート」 3年生の目標を達成 夢	1年生を迎える会 仲 自 夢										生き方講座「アズガート」 3年生の目標を達成 夢	
行事	運動会 仲 自 夢												
進級	生命の尊厳 「赤ちゃんとごはんだ食べてよね」 仲	個性の伸長 「聞いてるかい オルタ」 自	自由と責任 「あこがれの人」 自	相互理解・尊重 「心をしずめて」 仲	公正・公平 「同じ仲間だから」 仲	努力と強い意志 「うまくなりたいけれど」 自	規則の尊重 「みんなのわきま」 仲	感謝 「いつもありがとう」 仲	友情・信頼 「たっ線はひんまで」 仲	生命の尊厳 「赤ちゃんとごはんだ食べてよね」 仲	個性の伸長 「聞いてるかい オルタ」 自	自由と責任 「あこがれの人」 自	相互理解・尊重 「心をしずめて」 仲

<係活動> ○自分の仕事に責任をもって取り組む。○仲間と共に取り組む。○クラスのために工夫して活動する。

3年の取組

【教科】国語科「まいごのかぎ」「ちいちゃんのかげおくり」（7・10月実施）

国語科(物語)の学習において、以下のキャリア教育の視点を意識して取り組んだ。

- ① 主人公の気持ちや行動を読み取る場面において、児童が授業を進行・板書・記録をできるように、学級活動（1）「クラス会議」も重ねて行ってきた。
- ② 十分な発言・意見交換ができるように、グループで意見を出しながら、ワークシートにまとめられるようにした。
- ③ 全員発表を目指し、司会カードを工夫し、司会者（進行役）が滞りなく進められるようにした。
- ④ 児童の発言や、意見の比べ合い（議論）を板書ではなく模造紙で進めることで、児童自身の「取り組んだ成果」を可視化できるようにした。



【児童の変容】国語科・物語の学習時間には、主人公の気持ちや行動についての読み取りにおいて、児童が司会（進行）・板書・記録を担い、主体的に学習を進められるように取り組んでいる。以前にも増して、司会・板書・記録役に立候補する児童が増えたり、発言する児童の輪が広がったりと、その時間の学習に自主的・真剣に取り組もうとする態度が見られるようになった。この取組が、他学習での積極的な発言にもつながっている。

【学級活動（3）】「目ざそう！すてきな3年生」（6月実施）

キャリアの視点として、大切にしていたこと

- ① 「つかむ」では、1・2年生までのなりたい自分・そのためにがんばってきたことを整理させることで、3年生での取組に入りやすくした。
- ② 「さぐる」では、「キャリア年間計画表」を掲示し、「これからどんな3年生になりたいか」を考えやすくした。また児童自身のキャリアファイルにも貼ることで、3年生から始まる社会・理科の学習や行事などから、どんな「すてきな3年生」を目指すかを考える時間にした。
- ③ 「見つける」では、まずはどのような自分になることで、なりたい自分（将来の夢）に近づけるのかを考えるために、今の自分を自己分析し、「〇〇さんはこんな人」と、グループ内で客観的なアドバイスをもらえるようにした。
- ④ 「きめる」では、決めたことが取り組めたかどうかを振り返るためにワークシートを用意し、帯時間などを中心にそれぞれが決めたことを振り返りやすくした。



【児童の変容】年度当初から、「学級活動（3）」を始め、各児童が、なりたい自分について、イメージ（将来の夢・将来の仕事・こんな人になりたい）をしっかりと持ち、「そのために何をがんばるか」、「これからどうしていくのか」など、「学級活動（3）」を継続してブラッシュアップできるように取り組んでいる。2週毎の「学級活動（3）」の時間をより大切に、自分のがんばることの振り返りはもちろんであるが、そのなかで効果的（非効果的）だった取組、続けられた（られなかった）取組を整理し、次週からの取組につなげられるようにしている。また、児童一人一人の取り組みを、キャリアカウンセリング（ひとりずつ聞き取り）を行うことで、今の時点で、なりたい自分のはっきりし、取組も順調な児童は、さらに上を目指し、まだ少しなりたい自分のはっきりとしていなかった児童は少しずつ明確になってきており、児童自身のなかで、キャリアプランニング能力が備わってきている。

4年 キャリア年間計画表

学校教育目標

一人一人が夢と希望にむかって輝いている学校
～夢と希望にむかって、よりよい未来を創造しようとする子の育成～

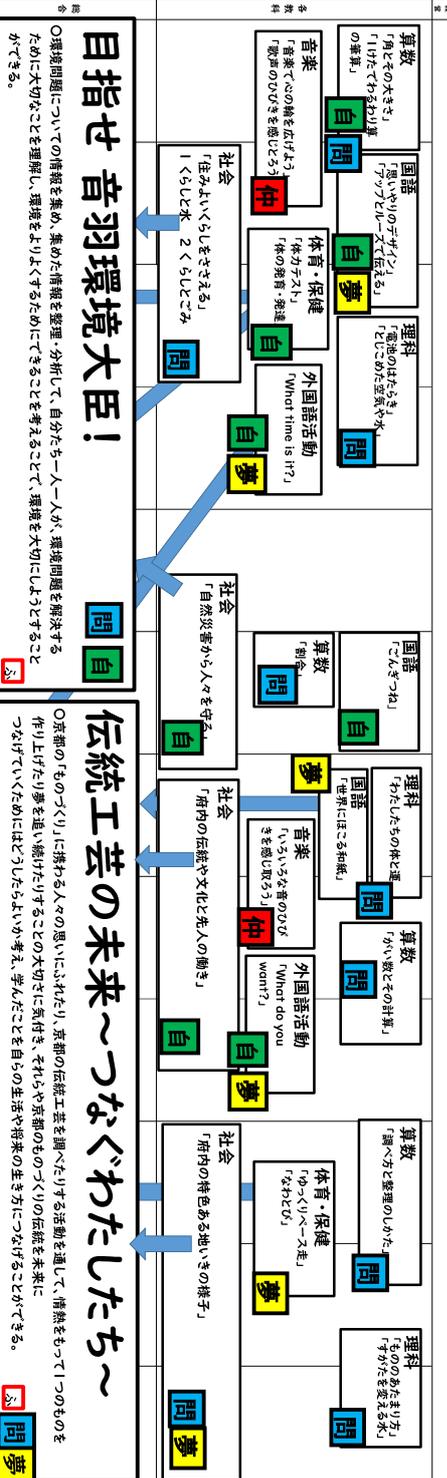
伸ばしたい能力
仲 夢

仲間をつくらう 問題を解決しよう
仲 夢
自分を高めよう 夢
夢に近づこう

1学期 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

○学年目標「4つの力」・協力・全力・創造力・行動力

○朝の会「今月の詩」



目指せ 音羽環境大臣!

○環境問題についての情報を集め、集めた情報を整理・分析して、自分たち一人一人が、環境問題を解決するために大切なことを理解し、課題をよりよくするために考えることを考えようとする活動

伝統工芸の未来～つなぐわたしたち～

○音羽の「ものづくり」に携わる人々の思いがけたり、音羽の伝統工芸を調べたりする活動を通して、情報をもって1つのものを作り上げた夢を思い描いたりすることの大切さに気づき、それらや音羽のもののづくりの伝統を未来につなげていくためにはどうしたらよいか考え、学ぶことを自らの生活や将来の生き方につなげることが出来る。

行事	国立若狭漁業少年自然の家 ○共同生活や野外活動によって、責任感や協力・協調を学ぶ。	若狭若狭少年自然の家の活動	スポーツフェスティバル 学習発表会 マラソン大会	4年生フエスタ 2分の1成人式 6年生を送る会 若狭若狭少年自然の家
特別活動	生きがいを発見!ポスター 4年生の目標を 4年生の目標を立てる	夢 仲 自 夢 問 仲 自 夢 問 仲 自 夢 問	夢 仲 自 夢 問 仲 自 夢 問 仲 自 夢 問	夢 仲 自 夢 問 仲 自 夢 問 仲 自 夢 問
道徳	前進のある生活 「自覚まじっけい」	相手のことを考えて 「ちこく」	長所をのびす 「つべればはいてしよ」	ほんとうの親切 「おののちあしゅ」

<係活動>○自分の仕事に責任をもって取り組む。○仲間と共に取り組む。○クラスのために工夫して活動する。<クラブ活動>○仲間と共に取り組む。<フレイバー活動>○他の学年の仲間と協力し、なかよく活動する。

4年の取組

【教科】図画工作科「ギコギコトントンクリエイター」（11月実施）

キャリアの視点として、大切にしていたこと

- ① のこぎりを使う際に、切りにくいときは近くの友達と協力をして木材を持つようにしたり、友達の活動を見合えるようにし、お互いに聞いたり教えたりできるようにした。
- ② つくりたい形を考える時間には、タブレットを用いて気に入った形を写真に記録するようにし、何度でもつくり変えることができるようにした。
- ③ 毎時間、活動のふり返りを取り入れ、自分はその時間でどのキャリアの力がついたのかを考えられるようにし、同じファイルにキャリアのシールを貼るようにした。友達と自然に会話をできる環境に設定し、いいところに気づいたり、教えてもらったりできるようにした。
- ④ 鑑賞のときにもタブレットを活用し、つくった物をテレビに映し発表するようにした。

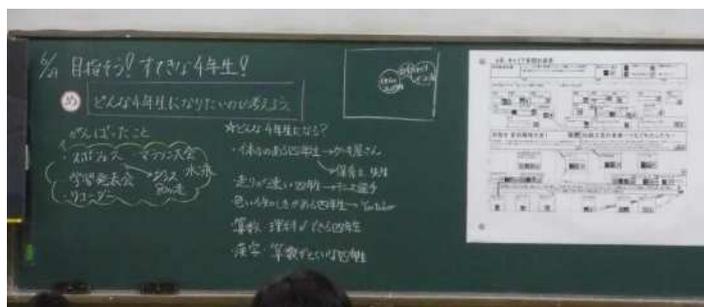


【児童の変容】キャリアの視点をもって授業を展開することで、児童がその時間のめあてに向かって、楽しく生き生きと活動する姿が見られた。また、ICTを活用したことで、いくつもアイデアを記録することができ、児童がそれぞれ考えながら自分のお気に入りの形を見つけることができた。振り返りでは、「友達にアイデアをもらって、自分では気付けない形ができた。」「何度も作り変えることで、たくさんアイデアが浮かんできた。」「同じ形だけでも、考えればおもしろい形ができた。」など形をつくるという課題に対して、解決するために一人一人が考えたり、協力して考えたりすることができた。

【学級活動（3）】「目指そう！すてきな4年生」（6月実施）

キャリアの視点として、大切にしていたこと

- ① 「つかむ」の場面では、3年生の時にどのようなことをがんばったのかを振り返るようにし、4年生ではどのようなことをがんばりたいのかを考えさせ、どんな4年生になりたいかにつなげた。
- ② 「さぐる」場面では、学年の年間計画表を提示したり、児童に配布したりし、どんな4年生になりたいのかを考えるようにした。
- ③ 「見つける」場面では、イメージマップを活用し、年間計画表とつなげながら自分のなりたい姿をイメージしながらがんばることを広げるようにした。
- ④ 「きめる」場面では、頑張ることを具体的に決めるために回数や時間帯などを明確に決めるようにした。



【児童の変容】本授業でなりたい自分に向けて、イメージマップを活用したことで、がんばることをたくさん広げたり、週を追うごとに追加をしたりする児童の姿が見られた。また、イメージマップを広げる際には、友達と話しながら考えたことで、「わたしも〇〇さんと同じようなことをがんばろう。」「なりたい自分が似ているから、～したら？」とアドバイスしたり、夢の共有をしたりすることができた。2週間に1回の振り返りでは、「～やってみたら？」「もう少し簡単にしたら？」と年間計画表や自分のイメージマップを基にアドバイスをし合う姿が見られるようになった。

5年 キャリア年間計画表

学校教育目標

一人一人が夢と希望におかた輝いている学校
 ~夢と希望におかた、よりよい未来を創造しようとする子の育成~

伸ばしたい能力

仲間をつくろう
 自分を高めよう
 夢に近づこう

仲間をつくろう

自分を高めよう
 夢に近づこう

問題を解決しよう

夢に近づこう

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1学期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2学期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3学期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
○山の家庭学習	○あいさつクイズ	○学年お楽しみ集会 I	○保健	○家族科	○理科	○理科	○理科	○国語	○算数	○保健	○音楽
「Hello, everyone」	「おはよう、みんな」	「わたしたちの生活と食料生産」	「わたしたちの生活と食料生産」	「家族科 持続可能な暮らしへ物やお金の使い方」	「理科 もののつくり方」	「理科 ふしこの動き」	「理科 ふしこの動き」	「国語 あなただけの考え」	「算数 割合のグラフ」	「保健 けがの防止」	「音楽 思いを表現に生かそう」
「仲間」	「仲間」	「仲間」	「仲間」	「仲間」	「仲間」	「仲間」	「仲間」	「仲間」	「仲間」	「仲間」	「仲間」
「仲間」	「仲間」	「仲間」	「仲間」	「仲間」	「仲間」	「仲間」	「仲間」	「仲間」	「仲間」	「仲間」	「仲間」

命をまもる 思いをつなぐ

○地域の一員として、防災についての意識を高め、地域のひとと一緒に考えたり、協力したりして、よりよい防災について考え、実践することができよう。

わくわくWORKLAND(ワークランド)

○自分なりの働き方の考えを基に、日常生活においてその一員として自分が働く場面に生かされ、実践することができよう。

山の家

「ふ」

音羽スボアエ

「ふ」

学習発表会

「ふ」

サロン大会

「ふ」

音羽まつり

「ふ」

6年生を送る会

「ふ」

生命の尊さ①

「ふ」

生命の尊さ②

「ふ」

＜学級活動＞

○自分の仕事に責任をもって取り組む。○仲間と共に取り組む。○学校のために工夫して活動する。

＜委員会活動＞

○自分の生活の問題を話し合ってお互いに解決する。○友だちと協力し、合意形成の手順や活動の方法を身に付ける。

＜特別活動＞

○ボランティア活動、5年生の目標を立てる

＜行事＞

○1年生を迎える会

＜特別活動＞

○ボランティア活動、5年生の目標を立てる

5年の取組

【教科】体育科「マット運動」(9月実施)

キャリアの視点として、大切にしていたこと



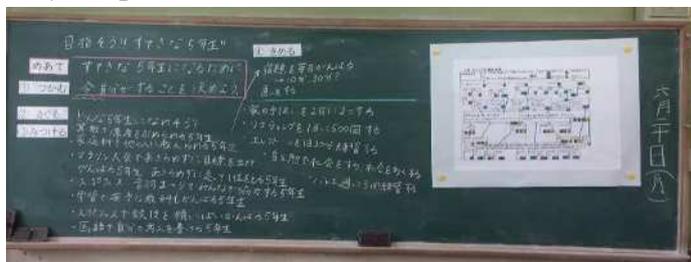
- ① 体育館の壁に技のこつカードを掲示し、付箋を用いてアドバイスし合えるようにした。
- ② タブレットを用いて、自分の演技を撮影し、客観的に自己を分析し、次のめあてに生かすようにした。
- ③ 毎時間のふり返りで、キャリアの4つの力を意識し、アイコンを用いて意見を交流するようにした。
- ④ 技を習得する場を設定する際、児童の自由なアイデアや発言を取り上げ、やってみる中で試行錯誤し、作り上げるようにした。
- ⑤ ワークシートに色○シールを貼ることで、児童自身が「身に付けた力」を可視化できるようにした。

【児童の変容】キャリアの視点をもって授業を展開することで、児童同士の活発なアドバイスやICT機器を用いた自己分析の姿を見ることができた。ワークシートの色○シールをもとに、「もっとこうしてみたい」「(技が)できる友達からアドバイスをもらいたい」など、次のめあてを立てることができた児童も多かった。マット運動の技を習得していく過程で、どうすれば習得できるのか、習得するために必要なことは何かを、児童自身で考え、解決に向かう姿勢が育ってきた。

【学級活動(3)】「目指そう!すてきな5年生」(6月実施)

キャリアの視点として、大切にしていたこと

- ① 「つかむ」場面では、すてきな5年生になるために遠い未来ではなく「今」できることを考えるということを強調した。
- ② 「さぐる」場面では、1年間を見通すことのできる「キャリア年間計画表」を黒板に掲示、児童の手元に配布することでどのような学習、行事を通してすてきな5年生を目指していくことができるのかを考えた。
- ③ 「見つける」場面では、なりたい自分になるためにどのような場面でどのような自分になりたいのかを考え、具体的な姿を見つけられるようにした。
- ④ 「きめる」場面では、頑張ることを具体化するために回数や時間帯などを明確に決めるように助言した。



【児童の変容】なりたい自分に向け、頑張ることを明確にしたことで、決めたことを中心に、学習や行事に意欲的に取り組む姿が見られた。また、スポーツフェスティバルや学習発表会で使用している「振り返りカード」や「毎月の振り返り」、「来月のめあて」でなりたい自分になるために、自分自身を細かく分析したり、具体的なめあてを設定したりすることができる児童が増えた。帯時間で行っているキャリア夢ファイルでも自分の頑張りについて毎日振り返っている。このような日々の積み重ねを大切に、児童が自分の成長を実感できるようにしていきたい。

6年 キャリア年間計画表

学校教育目標

一人一人が夢と希望にむかって輝いている学校
～夢と希望にむかって、よりよい未来を創造しようとする子の育成～

伸ばしたい能力

自 自 夢

仲間をつくらう

仲 自 夢

問題を解決しよう

問 夢 夢に近づこう

学年	1学期			2学期			3学期					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
各教科	国語 「聞いて考えを深めよう」 自	国語 「聞いて考えを深めよう」 自	国語 「聞いて考えを深めよう」 自	国語 「聞いて考えを深めよう」 自	国語 「聞いて考えを深めよう」 自	国語 「聞いて考えを深めよう」 自	国語 「聞いて考えを深めよう」 自	国語 「聞いて考えを深めよう」 自	国語 「聞いて考えを深めよう」 自	国語 「聞いて考えを深めよう」 自	国語 「聞いて考えを深めよう」 自	国語 「聞いて考えを深めよう」 自
音楽	「歌声をひかせて心をつなげよう」 仲	「歌声をひかせて心をつなげよう」 仲	「歌声をひかせて心をつなげよう」 仲	「歌声をひかせて心をつなげよう」 仲	「歌声をひかせて心をつなげよう」 仲	「歌声をひかせて心をつなげよう」 仲	「歌声をひかせて心をつなげよう」 仲	「歌声をひかせて心をつなげよう」 仲	「歌声をひかせて心をつなげよう」 仲	「歌声をひかせて心をつなげよう」 仲	「歌声をひかせて心をつなげよう」 仲	「歌声をひかせて心をつなげよう」 仲
家庭科	「見つめてみよう生活睡眠」 自	「見つめてみよう生活睡眠」 自	「見つめてみよう生活睡眠」 自	「見つめてみよう生活睡眠」 自	「見つめてみよう生活睡眠」 自	「見つめてみよう生活睡眠」 自	「見つめてみよう生活睡眠」 自	「見つめてみよう生活睡眠」 自	「見つめてみよう生活睡眠」 自	「見つめてみよう生活睡眠」 自	「見つめてみよう生活睡眠」 自	「見つめてみよう生活睡眠」 自
社会	「わたしたちの生活と政治」 問	「わたしたちの生活と政治」 問	「わたしたちの生活と政治」 問	「わたしたちの生活と政治」 問	「わたしたちの生活と政治」 問	「わたしたちの生活と政治」 問	「わたしたちの生活と政治」 問	「わたしたちの生活と政治」 問	「わたしたちの生活と政治」 問	「わたしたちの生活と政治」 問	「わたしたちの生活と政治」 問	「わたしたちの生活と政治」 問
保健	「宿食の平放」 自	「宿食の平放」 自	「宿食の平放」 自	「宿食の平放」 自	「宿食の平放」 自	「宿食の平放」 自	「宿食の平放」 自	「宿食の平放」 自	「宿食の平放」 自	「宿食の平放」 自	「宿食の平放」 自	「宿食の平放」 自
体育	「リズムダンス」 05年生と協力する 仲 自	「リズムダンス」 05年生と協力する 仲 自	「リズムダンス」 05年生と協力する 仲 自	「リズムダンス」 05年生と協力する 仲 自	「リズムダンス」 05年生と協力する 仲 自	「リズムダンス」 05年生と協力する 仲 自	「リズムダンス」 05年生と協力する 仲 自	「リズムダンス」 05年生と協力する 仲 自	「リズムダンス」 05年生と協力する 仲 自	「リズムダンス」 05年生と協力する 仲 自	「リズムダンス」 05年生と協力する 仲 自	「リズムダンス」 05年生と協力する 仲 自
算数	「比とその利用」 問	「比とその利用」 問	「比とその利用」 問	「比とその利用」 問	「比とその利用」 問	「比とその利用」 問	「比とその利用」 問	「比とその利用」 問	「比とその利用」 問	「比とその利用」 問	「比とその利用」 問	「比とその利用」 問
理科	「土地のつくりと変化」 問	「土地のつくりと変化」 問	「土地のつくりと変化」 問	「土地のつくりと変化」 問	「土地のつくりと変化」 問	「土地のつくりと変化」 問	「土地のつくりと変化」 問	「土地のつくりと変化」 問	「土地のつくりと変化」 問	「土地のつくりと変化」 問	「土地のつくりと変化」 問	「土地のつくりと変化」 問
外国語科	「My Best Memory」 仲	「My Best Memory」 仲	「My Best Memory」 仲	「My Best Memory」 仲	「My Best Memory」 仲	「My Best Memory」 仲	「My Best Memory」 仲	「My Best Memory」 仲	「My Best Memory」 仲	「My Best Memory」 仲	「My Best Memory」 仲	「My Best Memory」 仲
音楽	「曲想の変化を感じ取るう」 仲 自	「曲想の変化を感じ取るう」 仲 自	「曲想の変化を感じ取るう」 仲 自	「曲想の変化を感じ取るう」 仲 自	「曲想の変化を感じ取るう」 仲 自	「曲想の変化を感じ取るう」 仲 自	「曲想の変化を感じ取るう」 仲 自	「曲想の変化を感じ取るう」 仲 自	「曲想の変化を感じ取るう」 仲 自	「曲想の変化を感じ取るう」 仲 自	「曲想の変化を感じ取るう」 仲 自	「曲想の変化を感じ取るう」 仲 自
家庭科	「生活を变えるチャンス」 問 自	「生活を变えるチャンス」 問 自	「生活を变えるチャンス」 問 自	「生活を变えるチャンス」 問 自	「生活を变えるチャンス」 問 自	「生活を变えるチャンス」 問 自	「生活を变えるチャンス」 問 自	「生活を变えるチャンス」 問 自	「生活を变えるチャンス」 問 自	「生活を变えるチャンス」 問 自	「生活を变えるチャンス」 問 自	「生活を变えるチャンス」 問 自
図画工作科	「12年後のわたし」 自 夢	「12年後のわたし」 自 夢	「12年後のわたし」 自 夢	「12年後のわたし」 自 夢	「12年後のわたし」 自 夢	「12年後のわたし」 自 夢	「12年後のわたし」 自 夢	「12年後のわたし」 自 夢	「12年後のわたし」 自 夢	「12年後のわたし」 自 夢	「12年後のわたし」 自 夢	「12年後のわたし」 自 夢
外国語科	「What do you want to be?」 自 夢	「What do you want to be?」 自 夢	「What do you want to be?」 自 夢	「What do you want to be?」 自 夢	「What do you want to be?」 自 夢	「What do you want to be?」 自 夢	「What do you want to be?」 自 夢	「What do you want to be?」 自 夢	「What do you want to be?」 自 夢	「What do you want to be?」 自 夢	「What do you want to be?」 自 夢	「What do you want to be?」 自 夢
家庭科	「あなただけの宝物」 自 夢	「あなただけの宝物」 自 夢	「あなただけの宝物」 自 夢	「あなただけの宝物」 自 夢	「あなただけの宝物」 自 夢	「あなただけの宝物」 自 夢	「あなただけの宝物」 自 夢	「あなただけの宝物」 自 夢	「あなただけの宝物」 自 夢	「あなただけの宝物」 自 夢	「あなただけの宝物」 自 夢	「あなただけの宝物」 自 夢
社会	「世界中の日本」 問 自	「世界中の日本」 問 自	「世界中の日本」 問 自	「世界中の日本」 問 自	「世界中の日本」 問 自	「世界中の日本」 問 自	「世界中の日本」 問 自	「世界中の日本」 問 自	「世界中の日本」 問 自	「世界中の日本」 問 自	「世界中の日本」 問 自	「世界中の日本」 問 自
総合	<h3>共に生きるこころ</h3> <p>○当事者体験やインタビュー、町の調査や意見交換等を通して、障害のある人の思いや願いに気づき、障害のある人と共に生きる町としてあるべき町の姿や必要なことを考え、学びを生かしてよりよい町をつくるためにできることをしていこうとする。</p> <p>自 夢</p>											
総合	<h3>わたしのすてきな生き方宣言</h3> <p>○様々な職業に携わる人々との関わりや「働く」ことについて考える活動を通して、職業に対する視野を広げ、働く人の思いや願いを理解し、これからの生活に生かすことができる。また、これまでの自分を振り返ること</p> <p>自 夢</p>											
学習	<h3>修学旅行</h3> <p>1年生を迎える会</p> <p>仲 自 夢</p> <p>＜係活動＞○自分の仕事に責任をもって取り組む。○仲間と共に取り組む。○クラスのために工夫して活動する。</p> <p>＜コンドリー活動＞オリゲータとしてグループをまとめ、なかよく活動する。</p>											
特別活動	<h3>6年生お楽しみ会</h3> <p>仲 問 自 夢</p> <p>6年生を送る会</p> <p>自 夢</p>											
進級	<h3>よりよく生きる生き生きの力</h3> <p>自 夢</p> <p>期待、思いやり「心をつなぐ思いやり」</p> <p>仲間 自 夢</p> <p>異種の垣及「地球を一周歩いた男」</p> <p>仲間 自 夢</p> <p>希望と勇氣「上村さんの挑戦」</p> <p>自 夢</p> <p>自立と責任「自由行動」</p> <p>仲間 自 夢</p> <p>異国生活の充実「二十五人でつないだ星ダリ」</p> <p>仲間 自 夢</p> <p>希望と勇氣「15歳からの夢」</p> <p>自 夢</p> <p>生命の尊厳「命をくんで子牛」</p> <p>自 夢</p>											

6年の取組

【教科】体育科「とび箱運動」(11月実施)

キャリアの視点として、大切にしていたこと

- ① タブレットに見本の動画やとび方のコツカードを掲示し、お互いのポイントを確認められるようにした。
- ② タブレットを用いて、自分の演技を撮影し、客観的に自己を分析し、次のめあてに生かすようにした。
- ③ 毎時間のふり返りで、キャリアの4つの力を意識し、学習カードに書いたことを交流するようにした。
- ④ 体育委員会の児童が主になって、めあての確認や振り返りを行うようにした。
- ⑤ ワークシートに色○シールを貼ることで、児童自身が身に付いた「キャリアの4つの力」を可視化できるようにした。



【児童の変容】キャリアの視点を用いて授業を展開することによって、以前と比べて児童同士の対話が確実に増えた。「もっとこうすればいいよ」「できてるできてる」など友達からアドバイスをもらい、授業の振り返りでアドバイスをもらって嬉しかったことを発表したり、そのことを学習カードに書いたりする児童の姿が見えた。とび箱運動という個人種目でありながらも、技を習得していく過程で友達と関わり、習得するために必要なことなどを児童自身たちで考える姿勢が育っていた。

【学級活動(3)】「目指そう！すてきな6年生」(6月実施)

キャリアの視点として、大切にしていたこと

- ① 「つかむ」場面では、どんな6年生が、すてきな6年生かを出し合って話し合った。
- ② 「さぐる」場面では、自分に合ったなりたい自分を考え、班で共有した。
- ③ 「見つける」場面では、1年間を見通すことのできる「キャリア年間計画表」を黒板に掲示、児童の手元に配布し、1年間の中で、自分のなりたい姿に近づけそうな授業や行事と関連付けて考えた。
- ④ 「きめる」場面では、頑張ることを具体的に決めるために回数や時間帯などを明確に決めるようにした。



【児童の変容】6年生になり、なりたい自分が明確に表れている児童が多かった。学習の振り返りや行事の振り返りカードで、自分のこれまでの取り組みを分析し、友だちの取り組みに刺激を受けて、より細かく具体的な、なりたい自分やそのために頑張ることが設定されるようになった。今後もなりたい自分を大切にしながら学校生活を送り、自分の努力や成長を感じ取るために継続して行っていく。

さくら キャリア年間計画表

学校教育目標

一人一人が夢と希望におかかって輝いている学校
～夢と希望におかかって、よりよい未来を創造しようとする子の育成～

伸ばしたい能力

仲間
夢

仲間をつくらう

自分
夢

問題を解決しよう

夢に近づこう

学期	1学期	2学期	3学期
4月	5月	6月	7月
8月	9月	10月	11月
12月	1月	2月	3月
O学級目標 「やさしいことばを使おう」「最後までやりとげよう」「友達の良いところをみつけよう」			

教科	1学期	2学期	3学期
算数	「たし算、ひき算」 問	「くらしきとさえる食料生活」 自問	「大きいかず、1,000とこえるかず」 問自
国語	「楽しいお弁当作り」 問自	「相手の思いやって親切」 仲	「まかせてね 今日の食事」 仲
家庭	「家族から帰るな 1日の生活」 自夢	「家族へてんね ご褒美をあげ」 自夢	「国語「割合」
生活	「お宿さんが注文しやすいようにメニュー表を考えよう。O品物の合算を計算して正しく伝えよう。」 仲自夢	「8月25日に楽しい数値発表をもちますように、ていねいな言葉遣いを心がけよう。」 自仲夢	「ていねいな言葉「敬語について」

お店屋さんの準備をしよう

さくらショップを開店しよう

行事	1学期	2学期	3学期
生活	「お宿さんが注文しやすいようにメニュー表を考えよう。O品物の合算を計算して正しく伝えよう。」 仲自夢	「8月25日に楽しい数値発表をもちますように、ていねいな言葉遣いを心がけよう。」 自仲夢	
特別活動	「育成なかよし会」 問仲自夢	「学習発表会」 仲自夢	「マラソン大会」 仲自夢
その他	「生きがいを発見しよう」 夢	「さくらお楽しみ会」 問仲自夢	「音楽まつり」 仲自夢

道徳	1学期	2学期	3学期
生命の尊さ	「あなたの時間」 仲	「努力と強い意」 自夢	「感謝」 仲自
個性の伸長	「つくればいい」 自夢	「頑固の尊重」 仲自	「友情・信頼」 仲問
自由と責任	「家族の一員として」 自夢	「公正・社会正義」 仲問	
相互理解・寛容	「心をしずめて」 仲自	「努力と強い意」 自夢	

<係活動>O自分の仕事に責任をもって取り組む。O仲間と共に取り組む。Oクラスのために工夫して活動する。
<コンドリー活動>O他の学年の仲間と協力し、なかよく活動する。

さくら学級の取組

【教科】生活単元「協力してお弁当屋さんをひらこう」（7月実施）

キャリアの視点として、大切にしていたこと。

- ① 事前に、お客さん役になる教師に様々な注文の仕方を頼み、子どもたちがその場で、自分で考えて対応できるように計画した。
- ② 「出会う」では、学習の課題提示の時に、本時のめあて「友達同士で協力しあう事(赤=協力)」を確かめた。そして、活動に入る前に、自分の役割分担をふまえ、お互い手伝いあえることも確認した。
- ③ 「追究する・表現する」では、会計時に、計算を正確にできるように、価格別のメニュー表や計算をマグネットで動かして計算できる「計算らくらくボード」を用意した。
- ④ 「生かす」では、活動後に、自分や友達が頑張ったことを発表することで、協力し合った達成感を味わえるようにした。



【児童の変容】本授業を通して、「お客さんに喜んでもらう」という共通認識のもと、一つの活動を友達と協力してやり遂げる達成感を味わうことができた。最後の振り返りの時に、自分が忙しかったときに、友達に手伝ってもらったり、友達が頑張っていた姿を見たりして、お互いが助け合えた場面を振り返ることもできた。これからも、様々な活動で、色々な人々と関わっていく中で、助け合って活動していけるような環境設定をしていきたい。

【学級活動（3）】「発見！すてきな自分」（6月実施）

キャリアの視点として、大切にしていたこと

- ① 「つかむ」では、昨年の取り組みの中で印象的だったものを数枚の写真にまとめた。子どもたちは昨年の活動を思い出し、個々のなりたい自分を考えるヒントになった。
- ② 「さぐる」では、学級活動をするときに、キャリア年間計画表を見ながら、現在の学習は「このあたり」であることを知らせながら授業をすすめた。子どもたちが今の学習の内容を確認し、これから先の学習への見通しがしやすいようにした。
- ③ 「見つける」では、昨年度どんなことを頑張ったかを可視化するために、様々な教科の活動の写真を見せて、思い出せるようにした。それをもとに、これからどんなことをがんばるかを考えるようにした。
- ④ 「きめる」では、自分で決めたことが達成できたかを振り返るワークシートを用意し、一週間ごとに記入した。



【児童の変容】本授業を通して、子どもたちは、自分の得意なものや、やりたいうことを上達させるために、どうすればよいかを考えることができた。子どもの世話をする仕事をしたいので、「困っている人を見たらお手伝いできないかたずねる」、好きなことをもっと研究するために「パソコンのローマ字打ちを正しく速くできるようにする。」などと考えていた。今後も身近なことから少しずつ夢に向かって近づいていけるように支援していきたい。

これまでの取組

指導案



1年1組 学級活動（3）指導案

指導者 京都市立音羽小学校 中村 直也

1 日 時 令和4年11月2日（水） 第5校時

2 学年・組 第1学年1組（26名）

3 題材 「かがやけ！ ピカピカ 1ねんせい」
学級活動（3）「一人一人のキャリア形成と自己実現」
ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成

4 目標 「なりたい自分（1年生の終わり）」に向かって希望や目標をもち、成長した自分の姿を想像しながらめあてをつくり、これからの学校生活を送ることができるようにする。

5 題材について

（1）児童の実態

本学級の児童は、何事にも一生懸命真面目に取り組むことができる。きまりや約束を守ろうとする意欲も強く、指示されたことは素直に行動することができる。しかし、1年生であるため自分で考えて行動することはまだまだ難しい。そのため、全てのことを教師が指示するのではなく、時間をかけて静かに見守ることで、児童自身で気付いて行動できるようにしてきた。その結果少しずつではあるが、考えて行動したり児童同士で声掛けをしたりすることができるようになってきた。

（2）題材設定の理由

1年生では2学期から本格的にキャリア教育を始めた。「なりたい自分」を設定し、1年生なりに目標に向けて今の自分にできることを考えて取り組んできた。そして、毎週自分の取組を振り返り、さらに良くしていこうと考える活動を続けている。その中で、振り返りとこれからの取組の再設定を自分一人だけで行うことは1年生の児童にとって難しいのではないかと感じたため、本題材を設定した。

友達同士で目標とこれからの取組を共有することで、様々な視点からのアドバイスを得ることができるのではないかと考えた。友達からたくさんのアドバイスを得ることで、その中から自分自身で意思決定ができるようになってほしい。また、取組を共有することで児童同士が切磋琢磨し、共に目標に向けて努力をし続ける原動力としていってほしい。

（3）キャリアの視点について

本単元「かがやけ！ピカピカ 1ねんせい」は、年度末まで続けて実施し続けていく。その中で意識したい「キャリア教育で育てたい力」は、大きく2つある。

1つ目は、「人間関係形成能力・社会形成能力」である。本校では、「仲間くん（赤）」としている。自分の目標に向かって長期間努力を続けていくことは、児童にとって容易なことではない。しかし、それぞれの目標や取組内容は違っていても、夢に向かって同じように努力を続けている友達と頑張りや困りを共有することは、やる気や意欲の継続・向上につながると考えられる。友達同士で励ましあったりアドバイスをしあったりしながら毎日の取組を続けることで、よりよい取組にしていってほしい。そうした活動を積み重ねることは、より親密な友達関係の

構築につながり、充実した学校生活が送れるようになるのではないだろうか。本単元の取組を通して、クラスの雰囲気がより良いものになることを期待している。

2つ目は、「キャリア・プランニング能力」である。本校では、「夢ちゃん(黄)」としている。本単元の活動は、キャリア・プランニングそのものである。PDCA サイクルを続けながらスモールステップで自分の目標に近づいていくことで、達成感を非常に多く感じ取ることができ、次の活動への意欲向上へとつなげることができる。「なりたい自分」に向けて努力を続けていくことでキャリア・プランニング能力の育成につながるだけでなく、「学ぶ楽しさ」「できたときの喜び」を繰り返し経験することで生涯学習の基礎も培ってほしい。

6 評価規準 (1・2学年)

観 点	よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団の一員としての話し合い活動や実践活動を通じた思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評 価 規 準	働くことや学んだことのよさを感じるとともに、自己のよさを生かしながらめあてや目標をもち、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身につけている。	自己の生活や学習への課題について考え、よりよく生きるための課題を見だし、解決のために話合って意思決定し、自己のよさを生かしたり、他者と協力したりして、主体的に活動している。	現在および将来にわたってよりよく生きるために、自分に合っためあてを立て、自己のよさを生かし、他者とかかわりながら目標の達成を目指し、主体的に行動しようとしている。

7 事前の活動

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿
・「なりたい自分」について考える。	・自分の将来の夢や目標に近づくためにはどんな資質・能力が必要かを考え、それをもとに「なりたい自分」を設定するように助言する。	・自分の将来の夢や目標をもとにして、「なりたい自分」について考えることができる。
・毎日の取組を考える。	・「なりたい自分」に近づくためには、具体的にどんな取組が効果的かをよく考えて決めるように助言する。	・「なりたい自分」に近づくための毎日の取組を考えることができる。
・取組を実行する。	・毎日の取組を意欲的に進められるように、日常会話の話題に取り上げたり頑張っている姿を認めたりするように心がける。	・「なりたい自分」に向けて、毎日の取組を続けて実行することができる。
・取組を振り返る。	・毎日の取組をもとに、うまくいったこと・うまくいかなかったことを振り返る。	・自分の取組を振り返り、自分の頑張りを認め、次の課題を見つけようとしている。

8 本時の目標

これまでに取り組んできた活動を振り返り、「なりたい自分」にさらに近づくための目標を決める。

9 本時の展開

	学習活動	○児童の活動	指導上の支援・留意点 (●支援、○留意点、 ⓪キャリアの視点)	本時の評価
導入 ①つかむ 「5分」	1 学習への導入を図り、本時のめあてを確認する。	○「なりたい自分」に向けてがんばってきたこれまでの活動を想起する。	○これまでの取組を前向きに捉えられるように、一人ひとりの努力してきた姿を取り上げ、声かけする。	
【めあて】 かつどうを ふりかえり、 これから がんばることを かんがえよう				
展開 ②さぐる ③見つける 「25分」	2 これまでの活動について、友達と交流する。 3 グループで交流したことを、全体で交流する。	○これまでの活動について、友達と話し合う。 ○グループ交流で友達からもらったアドバイスを、全体で交流する。	●教師がモデルとなり、話し合い活動の見本を提示する。 ⓪自分が実践した活動の中で成果が見られなかったものを友達に伝え、他の方法についてアドバイスをもらう活動を行う。 (人間関係形成能力=赤) ●「相談したこと」と「友達からのアドバイス」を明確にした発言を促す。 ○机間指導の中でそれぞれのグループの話し合いを見守り、「決める」活動につなぐようにする。	(発言内容・ワークシート)
④決める 「10分」	4 これから頑張ることを決める。	○友達からのアドバイスをもとに、これから頑張ることを決める。	●アドバイスの中から自分にとって役立つヒントを見つけられるように声かけする。	(ワークシート)
「5分」	5 学習のまとめをする。	○意思決定したことを友達と交流し、これからの活動に意欲を持つ。	○決めたことを実行できるように意欲を高める声かけをする。	

10 板書計画

かがやけ! ピカピカ 1ねんせい めあて これまでの かつどうを ふりかえろう			そうだんないよう ・あしが はやく になりたい。→ ・雨の 日に サッカーの れんしゅうが できない。 ・さんすうが とくいに になりたい。 ・リフティングが うまく できない。	アドバイス → ダッシュを する。 ・ランニングを する。 ・スクワットを する。 → サッカーの 本を よむ。 ・パソコンで しらべる。 ・ふうせんを ける。 → けいさんカードを ・たくさん れんしゅうる。 ・いえのひともんだいを つくってもらおう。 → うまい人におしえてもらう ・ユーチューブでこつを見る ・かいすうを ふやす。
サッカーがうまくなりたい なかむら なおや				

11 事後の取組

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿
・毎日の取組の実施→振り返り→目標の再設定を繰り返す。	・毎日の取組を意欲的に進められるように、日常会話の話題に取り上げたり、頑張っている姿を認めたりするように心がける。	・「になりたい自分」に向けて、毎日の取組を続けて実行することができている。

事後記録

1年校内研 学級活動 「かがやけ！ピカピカ1ねんせい」

研究協議

- ・導入でロイロノートを活用して、動画などで友達が頑張っている様子が見られたのはとてもよく、キャリアの視点からも友達の夢に対して興味を持つことができていた。
- ・1年生の発達段階では、言葉だけで想像できないことがあったため、ロイロノートの動画を話し合いでも活用できたらよかった。
- ・話し合いの15分をどのように使うのかが子どもにとっては難しく、1人何分など知らせておくとうわかりやすい。



- ・誰かが話すと子どもたちみんな反応していたので、日頃から友達同士で話し合っている様子がわかった。
- ・グループ人数が多いため人数を減らしたほうがよい。
- ・メモを取りながら話を聞くことは難しいと感じた。
- ・友達の夢を共有するという時間はとてもよかった。

・「相談」という言葉が難しかったので、「友達にどんなことを教えてもらった？」と先にアドバイスを子どもたちに聞いていったほうが、子どもも理解できたと思う。

指導助言

- ・子どもたちの様子を見て、それぞれの活動を振り返る時間をしっかりとることが重要。
- ・はじめにどんな自分になりたいのかを決めておき、どんなことができるのかを話し合う。
- ・興味のあることにどんどん挑戦できるようにしてあげてほしい。
- ・話し合いをもっと活発に行ってから次に頑張ることを決めたほうが子どもの意欲向上につながる。
- ・板書では他の子どもでも見えそうなものに線を引いていたので、項目を分けて書いてもよかった。
- ・毎週の取組は、○などではなく一言コメントで書いていく方法もある。
- ・グループではなくペアで話し合わせ、どんどん話し合う人を変えるとよい。

成果と課題

- ◎タブレットで頑張っているところを見合ったことで子どもの意欲につながった。
- △意欲的に取り組めていない児童に対しての手立ての充実。

第3学年 総合的な学習の時間指導案

指導者 京都市立音羽小学校 野間 大輔

- 1 日 時 令和4年9月27日(火) 第5校時(14:20~15:05)
- 2 学年・組 第3学年1組(30名)
- 3 単元名 わたしたちのまちじまん～音羽ツアーガイドになろう～
- 4 単元の目標

自分たちの町や、そこに暮らす人々のよさについて調べる活動を通して、この町の魅力を作りだしているのは人であることに気付き、その町や人の魅力を伝えるためにできることを考え、今後も愛着をもって地域を大切にしながら、さらによりよい町にしようと思えることができる。

- 5 内容と単元の評価規準

【探究課題】 自分たちの町に暮らす地域の人々の魅力とそれぞれの関わり(町づくり)				
力 て 育 成 を 目 指 す 資 質 ・ 能 力	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
	地域に暮らす人それぞれがもつ町に対する思いや人々の魅力を理解し、地域の人と関わり、それらの人々と一緒に地域に関わっていく楽しさや大切さが分かる。	聞き取り調査や体験を通して得た思い、集めた資料などから課題を設定し、得た情報から課題を解決するために適した手段や方法を考え、町の魅力や地域に暮らす人の魅力を伝えることができる。	地域に対する自分のイメージを捉えなおし、そこに暮らす他者との関わりについて考え、友達や地域の人々と協働しながら学びを生かして粘り強くよりよい町にしていこうとする。	
単 元 の 評 価 規 準	観点 過程	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	発見過程 ／ 追究過程	①自分たちの町ならではの様々な魅力や魅力的な人がたくさんいるということに気付いている。 ②地域に暮らす人々はそれぞれの立場で町のために活動していることが分かる。 ③地域に暮らす人々の町に対する思いや願いを理解している。	①町のよさを調査して得た情報から課題を設定し、見通しをもっている。 ②出会った人の話から情報を収集し、それらを整理・分析して地域の魅力を考えている。 ③調査した結果や地域の魅力をマップなど適切な方法で表している。	①積極的に友だちと交流し、気付きや考えの違いを生かして地域に対する今までの認識を見つめなおし、自分の考えを作ろうとしている。 ②地域に暮らす人々がどんな思いをもち、どんな活動をしているのかについて友達と協力して調べようとしている。
	提案過程 ／ 熟成過程 ／ 表現過程	④地域に暮らす人々と自分との関わりについて理解している。 ⑤地域の人の思いや願いを大切にしながら、地域や人とよりよく関わるよさや関わり方を理解している。 ⑥インタビューやガイドなど、目的や相手に応じて相手との関わり方を考え、対応している。 ⑦普段何気なく過ごしている地域の魅力について知ることができたのは、地域について探究的に学習したことの成果であることに気付いている。	④自分たちの考える「わたしたちの町のすてき」について多くの人に伝わりやすい内容や最適な方法を考えている。 ⑤よりよく伝わるように専門家や友達からアドバイスを受たり、実際に試したりするなど、適切な方法で情報を集めている。 ⑥課題について集めた情報を整理し必要な視点で解決方法を考えている。 ⑦自分たちの考える「わたしたちの町のすてき」について分かりやすく伝える方法を工夫して表現している。	③自分たちの考える町や人の魅力について、友達と協働して内容を吟味しながら粘り強くよりよい方法を探り、より思いが伝わるツアーを考えようとしている。 ④地域への思いや学びをこれからの生活に生かし、よりよい地域にしていこうとしている。

6 単元について

【探究課題について】

子どもたちは、普段、自分たちの町についてどれほど関心をもって暮らしているだろうか。昨今、地域行事への参加率の低下など、子どもたちと地域との関係の希薄さが懸念されている。音羽地域は京都市中心部から離れていることもあり、子どもたちにとって地域の魅力が、京都市の魅力として挙げられるような事柄と結び付きにくい。そのような背景もあり地域の魅力について語れる子どもは少ない。特に、本学年の児童は入学時から新型コロナウイルス感染症の真っ只中に在り、地域のお祭り（四ノ宮まつり）や、交流行事などに参加する機会すら与えられずにいる。

一方で、子どもたちはこれまでに、第1学年の生活科では地域の自然について、第2学年では地域のお店の様子などについて学び、第3学年になり、社会科で地域の地理や施設などについて方角や地図記号などを通じて学んだ。それらの経験を経て、子どもたちは自分の暮らす町の地理的な側面について充分理解している。本単元では、前述の課題に対して、子どもたちがこれまでの学習の中ではあまり触れてこなかったこの町に暮らす「人」の良さを再発見できるようにしたい。そして、その魅力を伝えるにはどうすればよいかを考え、実践していく中で、地域に対する愛着を深め、自身の地域への関わり方を考えることができるようになってほしいと願っている。

【キャリア教育の視点について】

本単元で特に意識したい「キャリア教育で育てたい力」は大きく2つある。

1つ目は「人間関係形成能力・社会形成能力」である。本校では、仲間くん（赤）で象徴している。単元を通して子どもたち同士の話し合いを大切にする。お互いの考えを比べあったり、違いが発見できたり、自分の考えがはっきりしてくるだろう。考えを交流する際には整理・分析ができるように思考ツールを活用する。また、子ども同士だけでなく、ゲストティーチャーや保護者、さまざまな人と話し合う時間・交流も大切にしたい。最終的に、多くの人たちに自分の考えを伝え、反応をもらうことは、3年生の子どもたちにとって、学びの多い体験になるだろう。

2つ目は、「キャリア・プランニング能力」である。本校では、夢ちゃん（黄）で象徴している。子どもたちは前期の総合的な学習の時間「音羽けんこうはかせ」で、健康について学習している。その中で、「自分や自分の周りの人たちの健康を維持・増進していくための未来をつくりたい」という課題をもち学習を進めた。子どもたちの中に学びを生かして自分たちの周囲を良くしたいという思いは既に醸成されている。本単元でも、音羽の町や地域の人々に対する思いや考えを深め発信することで、地域を支える人々の役割や活躍に気づき、自らの生活への展望を持ってほしい。子どもたち自身が将来、地域や社会を支える一員となり、活躍する姿を具体的に想起できるようにしたい。

○他教科との関連について

教科名	単元名・教材名	内容（つけたい力）とのつながり	学習の時期
社会	・わたしたちのくらしと はたらく人々 ・京都市の様子とくらし のうつりかわり	・消費者の願いや働く人々の思いについて、学習問題を立て、解決しようとする。 ・地域の土地利用などの変遷について、地域の人への聞き取りや地図資料等の読み取りを通して追究する。	6月
国語	・仕事のくふう、見つけたよ	・伝える相手や目的を意識して、情報を収集したり、資料を比較整理したりして文章にまとめる。	9月

わたしたちのまちじまん～音羽ツアーガイドになろう～

探究の過程	学習と思考の流れ	協働的な学び
<p>発見課題の設定</p> <p>音羽の町の「すてき」を伝える方法を練り上げる</p> <p>情報の収集</p> <p>整理・分析</p> <p>まとめ・表現</p>	<p>音羽の町は、どんな町なんだろう（8H）</p> <p>音羽のイメージや町のよさについて話し合おう 琵琶湖疎水 コロッケ屋さん 地蔵や神社</p> <p>地域にくわしい方と一緒に町探検をしよう 昔のものがたくさんある。 昔の四ノ宮は山科の中心だったんだ</p> <p>町探検をして見つけた「音羽のまち」について交流しよう 【本時】 昔からのものがたくさんあるんだな。</p> <p>すてきな人 いろいろなお店 古くからあるお寺や神社 昔からある疎水 祭り</p> <p>この町は、いろいろなお店があったり、古くから続くものがたくさんあったりする町なんだな。もっと詳しく調べると、まだまだ、私たちが知らない音羽のまちの「すてき」が見つかりそうだ。</p>	<p>☆学びどころ</p> <p>○町探検で見つけたことをKJ法的に整理することで多くの視点に気づくことができるようになる。</p> <p>☆学びどころ</p> <p>○ゲストティーチャーにどうやって「この町のすてき」を教えてもらい、子どもたちが出会ったことのない、町の魅力的な人とも出会うことができるようになる。</p>
<p>追跡課題の設定</p> <p>情報の収集</p> <p>情報の収集</p> <p>整理・分析</p> <p>情報の収集</p> <p>整理・分析</p> <p>まとめ・表現</p>	<p>音羽の町の「すてき」を探ろう（10H）</p> <p>音羽すてきマップ大作戦 ～キーワードをもとに体験したり聞いたりしよう～</p> <p>すてきな人 いろいろなお店 古くからあるお寺や神社 昔からある疎水 祭り</p> <p>地域ボランティア 三条通商店街 琵琶湖疎水・音羽川 さくら広場・ゆめ広場</p> <p>若宮神社・諸羽神社 若宮祭り 四ノ宮地蔵 十禅寺・山科本願寺 洛東用水</p> <p>お客さんや地域のための工夫や努力 昔の人が大切にしてきたもの 昔の人が大切にしてきたもの</p> <p>学校や子どものために 新しいことに挑戦する取り組み 災害にそなえたまち</p> <p>すてきな場所やものを作ったり守ったりしている人がたくさんいることも、音羽の町の「すてき」だな。ほかの人にも伝えたいな。実際にその場所まで町の人に会い、思いや願いを聞くと、音羽の町のすてきがより深く伝わるツアーにできそうだね。</p>	<p>☆学びどころ</p> <p>○これまでの学習で見つけたすてきの写真を白地図に貼ったり、コメントを書き込んたりして、この町にはすてきな人がたくさんいること実感できるようにする。</p>
<p>提案課題の設定</p> <p>情報の収集</p> <p>情報の収集</p> <p>整理・分析</p> <p>まとめ・表現</p> <p>情報の収集</p> <p>整理・分析</p> <p>まとめ・表現</p>	<p>音羽の町の「すてき」をたずねるツアーを提案しよう（10H）</p> <p>ツアーの計画を立てよう ルート 内容 必要な時間</p> <p>旅行会社の方からアドバイスをもらおう 練り上げ方 ツアー内容</p> <p>お客さんの気持ちになって、気になることを質問してみるといいよ。</p> <p>ツアー内容を考えよう。 どんなツアーにしたいかがはっきりとするようにコンセプトを決めよう。</p> <p>美味しいお店 歴史・お祭り 琵琶湖疎水・公園 地域ボランティア</p> <p>アイデア交流会をしよう 実際に会えるようにお願いしよう ガイドブックがあるといいね</p> <p>おためしツアーをしよう どんなすてきな人なのか伝わったよ。 もっといいものにできそうだね。</p> <p>おためしツアーをしてみると喜んでくれたけど、もう少し改善できそうなのところもあるね。もっとツアーに参加してくれる人にとって魅力あるツアーにするには、どうすればいいのだろう。</p>	<p>☆学びどころ</p> <p>○地域の人や専門家との協働場面を取り入れ、より多角的に捉えられるようになる。</p> <p>○チーム内やチーム間での協働場面を設ける。</p> <p>○おためしツアーの参加者にアンケートを取り、リーダーチャートを用いて可視化できるようにする。</p> <p>○リーダーチャートの結果をもとに話し合い、ツアー改善の視点が明確になるようにする。</p> <p>○チーム内やチーム間での協働場面を設ける。</p>
<p>学習課題</p>	<p>活動</p> <p>キーワード</p> <p>子どもの言葉</p> <p>次の課題につながる子どもの考え</p> <p>専門家などの言葉</p>	<p>☆学びどころ</p> <p>○地域の人との協働場面を取り入れ、より実態的な視点をもって取組を進められるようになる。</p> <p>○学習を通して考えたことや感じたことをもとに地域と自分のつながりに誇りをもつことができ、地域を大切にしようとする態度につなげる。</p>

	学習活動 <small>基礎的・汎用的能力</small>	知	思	主	・支援 <small>評価方法</small>	
発見課題 (8時間)	<ul style="list-style-type: none"> 「音羽の町」についての知識やイメージなどに違いを出し合い、町に対する自分の印象に気付く。【自】 1回目の「町探検」で自分たちが行きたい場所へ行き「町の情報」を見つける。【問】 地域に詳しい方に「音羽の町」について話を聞く。【問】 2回目の「町探検」で、地域の方から教えてもらった場所へ行き「音羽の町」の情報を見つける。【問】 「町探検」やインタビューなどの活動を通して見つけた「町の情報」について交流し、もっと知りたい・調べたいという意欲を持つ。【問】 【本時】 				<ul style="list-style-type: none"> ① ① ① ② 	<ul style="list-style-type: none"> ・直感的に感じる「音羽の町」のイメージについてウェビングマップで整理し、自分のイメージから課題が立てられるようにする。 ・大きなマップに行きたい場所を整理することで、「町のよさ」を視覚的に見やすく興味を持続できるようにする。 ・「音羽の町」の特徴を、歴史や自然など児童にとって新しい視点に気付けるような話をしてもらう。 ・「音羽の町は、○○な町」についてマップをもとに考えを交流することを通して、自分の見方を広げ、新たな視点に気付けるようにする。 <p>【知識・技能】 行動・発言 ワークシート</p> <p>【思考・判断・表現】 行動・発言 ワークシート</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 行動・発言 ワークシート</p>
追究課題 (10時間)	<ul style="list-style-type: none"> 音羽の町の「すてき」マップを作る計画を立て、どの視点のグループで調査活動を行うのかを決める。【夢】 「すてき」調査を行い、町の人たちの思いや考え方にふれ、「町のすてき」について探る。(1・2回目)【問】 中間交流を行い、調査から気づいたことやわかったことを整理し、学習課題に対する現時点の考えをまとめる。【仲】 「すてき」調査を行い、町の人たちの思いや考え方にふれ、「町のすてき」について探る。(3回目)【問】 これまでの調査活動から共通点を見出し、「町のすてき」についての自分の考えをさらに深める。【自】 児童や保護者のアンケート結果から「町のすてき」について、多くの人に伝えたいという学習課題を立てる。【問】 				<ul style="list-style-type: none"> ② ② ③ ③ ② 	<ul style="list-style-type: none"> ・視点ごとのグループに分かれて調査することで、「町のすてき」について多角的に調査できるようにする。 ・GIGA 端末のカメラやビデオ機能を活用することで、場所やインタビュー内容を記録しておくようにする。 ・毎時間の学習課題についてふり返ったり、キーワードを可視化したりすることができるワークシートを活用することで、自分の考えの変容に気付けるようにする。 ・中間交流では、同じグループの児童で「すてき」について交流することで、新たな調査の視点に気付けるようにする。 ・一人一人が体験を通して考えてきた「音羽の町のすてき」について、KJ法を活用して分類し、共通点や関連性を見て、考えを深めたり広げたりする。 ・アンケート結果を活用することで、「町のすてき」についての認知度に注目し次の課題を設定できるようにする。 <p>【知識・技能】 行動・発言 ワークシート</p> <p>【思考・判断・表現】 行動・発言 ワークシート</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 行動・発言 ワークシート</p>
提案課題 (10時間)	<ul style="list-style-type: none"> 音羽の町「すてき」ツアーの活動計画を立てる。【夢】 旅行会社の方からツアー内容やルートなどについてアドバイスをもらう。【問】 グループで、ツアーを考えて、説明する準備をする。【仲】 アイデア交流会をして、各グループのツアー内容について学級全体で協議し、アドバイスし合うようにする。【仲】 おためしツアーをして、自分たちの考えたツアーを確かめる。【自】 おためしツアーの感想を交流し、次の課題を設定する。【問】 	⑤	④		<ul style="list-style-type: none"> ③ ③ ⑤ ⑤ 	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社の方に、ツアーの企画を立てる上で、気を付けるポイントを教えてもらうことで、活動に生かせるようにする。 ・「すてき」のキーワードが類似する児童同士でグループを編成することで、常に目的を確認して取り組むようにする。 ・アイデア交流会では、レーダーチャートを活用することで、実現性や必要性について多角的に考えられるようにする。 ・おためしツアーの動画を作成し、自分たちでやってみることで問題点を見出す。 <p>【知識・技能】 行動・発言 ワークシート</p> <p>【思考・判断・表現】 行動・発言 ワークシート</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 行動・発言 ワークシート</p>
熟成課題 (6時間)	<ul style="list-style-type: none"> アンケートをもとに、おためしツアーを振り返り、自分たちのツアーの課題を分析する。【問】 地域に詳しい先生に来てもらい、自分たちのツアー内容の課題についてアドバイスをもらう。【仲】 アドバイスをもち、グループでツアー内容を練り直す。【問】 「音羽の町すてきツアー」に向けてグループで準備をする。【仲】 				<ul style="list-style-type: none"> ⑥ ⑤ ③ ⑥ 	<ul style="list-style-type: none"> ・おためしツアーの評価をレーダーチャートに整理し、複数の視点で、ツアーの問題点を分析する。 ・発見課題で、「音羽の町」について紹介いただいた先生や自治連合会長、校長先生など地域に詳しい方にアドバイスをしてもらうことで、モチベーションをあげるようにする。 <p>【知識・技能】 行動・発言 ワークシート</p> <p>【思考・判断・表現】 行動・発言 ワークシート</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 行動・発言 ワークシート</p>
表現課題 (6時間)	<ul style="list-style-type: none"> 2年生へ町じまんをめぐるツアーの案内をして、「町のすてき」を伝える。【仲】 全校児童や保護者に向けて、ツアーを紹介する動画を見てもらい学習報告会をすることで「町のすてき」をさらに広める。【仲】 単元を通して練り上げてきた「音羽の町のすてき」について、自分の考えをまとめる。【自】 学習全体を振り返り、自分に身に付いた力を確かめる。【夢】 				<ul style="list-style-type: none"> ④ ⑦ ⑦ ④ 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで追究してきた「音羽の町のすてき」について、自分たちの考えを効果的な方法で伝えられるようにする。 ・全校児童や保護者に向けて、「音羽のすてき」を発信する報告会を行うことで、より多くの人から、自分たちの活動について意見や感想をもらえるようにする。 ・単元のはじめと終わりの自分の考えを比較してふり返ることで、自己の変容に気付くことができるようにする。 <p>【知識・技能】 行動・発言 ワークシート</p> <p>【思考・判断・表現】 行動・発言 ワークシート</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 行動・発言 ワークシート</p>

8 本時について（8／40時間目）

（1）目標

町探検やインタビューなどの活動を通して見つけた「音羽のまち」の情報から、「音羽のまちはどんなまち？」を交流し、これからもっと知りたい・調べたいという意欲を持つことができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

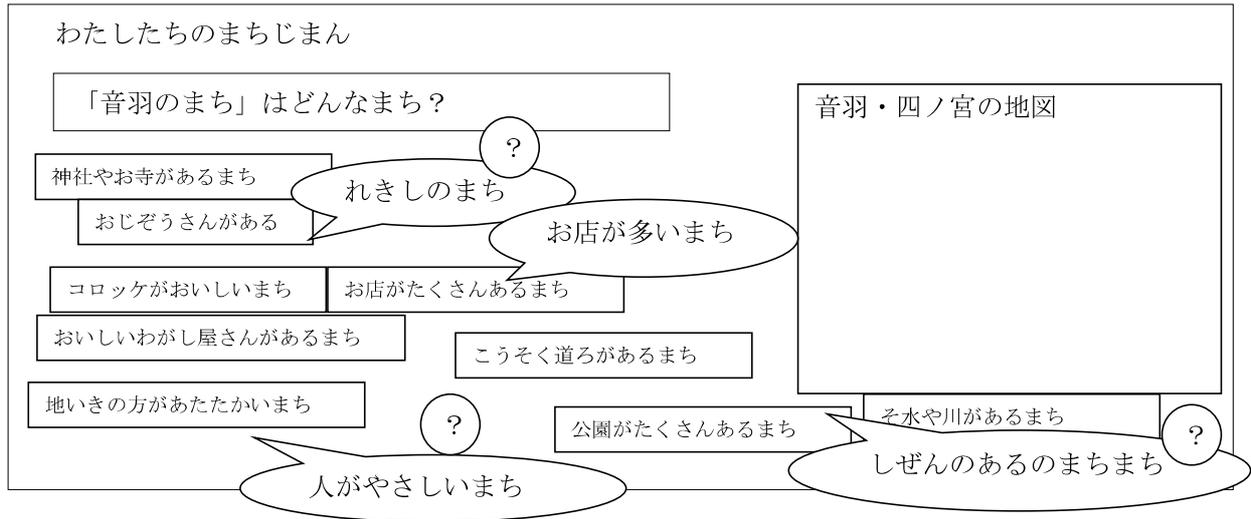
（2）展開

○学習活動 ◆発問 ・児童の反応	◇支援 ＊留意点 ㊦ キャリアの視点
<p>① 本時の学習のめあてと活動内容を確認する。</p>	<p>◇マップを常時教室に掲示しておくことで、「音羽のまち」のイメージを持たせるようにする。</p>
<p>「音羽のまちはどんなまち？」について話し合おう</p>	
<p>② グループで「音羽のまちはどんなまち？」を交流する。</p> <p>◆自分が記入した「音羽のまちはどんなまち？」をグループで伝え合って、「いいね」と言ってもらったり、アドバイスをもらったりしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は「音羽のまちはお店がたくさんある町」にしました。2年生の時のお店めぐりや、先週の町探検で、本当にたくさんのお店があると思ったからです。 ・僕は「音羽のまちは歴史のあるまち」だと思います。なぜかと言うと、浅井先生と行った町探検で、神社やお地蔵さんがたくさんあったからです。 <p>③ 「音羽のまちはどんなまち？」を決定し、ワークシート・短冊に書く。</p> <p>◆自分が決めた「音羽のまちはどんなまち？」をワークシートに書いてから、短冊に書きましょう。</p> <p>④ 黒板に掲示された「音羽のまちはどんなまち？」を全体交流する。（教師の問いかけに答える。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「音羽のまち」は歴史のあるまちだと思ったのは、古くからある神社やお寺があったからです。 <p>◆その神社やお寺のことは全部知れた？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まだわからないこともたくさんあるので、これからもっと調べてみたいです。 <p>⑤ 振り返りをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流をして、音羽の町はたくさんの歴史がある町だとわかってきたので、もっと調べて、いろいろなことを知りたい。 ・たくさんのやさしい人に出会っていろいろな話を聞いてみたい。 	<p>◇自分の興味のある「どんなまち？」を、3つ挙げることで、自分の調べたいことを焦点化できるようにしておく。</p> <p>◇児童の書いたワークシートをあらかじめ目を通しておき、把握しておく。</p> <p>㊦自分が考えた「どんなまち？」や、友達の考えた「どんなまち」を交流することで、同じ考えや、違う考えに出会い、自分の考えを深められるようにする。</p> <p>◇グループ・全体交流を通して得た「音羽のまちはどんなまち？」を、ワークシートに記入することで、再確認できるようにする。</p> <p>◇短冊をカテゴリーごとに整理しながら、児童が交流・発言しやすいようにする。</p> <p>㊦これからもっと知りたい・調べたいという意欲につながるような発問をすることで、児童から追究課題につながるようにする。</p> <p>◇ワークシートに振り返りを記入する際、次につながる言葉やキーワードが書けるようにワークシートを提示する。</p> <p>*自分の考えだけでなく、友達の意見も取り入れて書くよう促す。</p>

(3) 評価

【態】	これまでの町探検や、GTのお話などから、「音羽の町」はどんな町の考えを持ち、その動機や思いを表現することで、これからの学習でもっと知りたい・調べたいという意欲につなげている。
「おおむね満足できる」状況と判断できる「発言・記述」	
町探検や浅井先生のお話を聞いて、「音羽のまち」は歴史があるまちだとわかった。これからもっと「音羽のまち」の歴史を知りたいので、たくさんのことを調べていきたい。	

(4) 板書計画



事後記録

3年校内研 総合的な学習の時間 「わたしたちのまちじまん～音羽ツアーガイドになろう～」

研究協議

A グループ

- ・最初の先生の例が良かった。
- ・ワークシートの活用がしっかりとされていた。
- ・ランキングの意図は色々な意見を集約するためなのか意見を1つにまとめるためなのか。
- ・キャリアの視点をどのように授業に入れていくのか。最初に提示するのか終わりに児童に聞くのか。普段の授業ではどのようにしているのか。

B グループ

- ・児童が振り返りで「行ってみたい」「気になった」と書いていて、次の追究課題につながる気持ちで授業が終わったのではないか。
- ・板書の整理があるともっと分かりやすいものになるのではないか。

C グループ

- ・これまでの授業の取組がしっかりとされていて、苦手な児童もワークシートに記入をしっかりと、意見交流に臨むことができた。
- ・目指す姿、例を提示して目指す方向性を示してあげると良かった。



指導助言 京都市総合教育センター 中村指導主事 (オンラインにて)

- ・本時での児童の変容はどうだったのか。
- ・これまでの学習、町探検、浅井先生のお話がしっかりと児童に残っていた。
- ・2の交流では、目標に対し、話し合いはどのような意図で行っているのか。本時では自分の考えを深めることができていたのか。
- ・伝えることはできていたが、思いのやり取りはできていなかったのではないか。自然な問いかけが児童から出るような話合いができればいい。
- ・追究課題につながるような手立てになっていた。「どんな町?」「楽しいってどんなこと?」と児童の思いを指導者が引き出していく中で思いや考えを共有していくことで知らないことや疑問も新たに生まれていくのではないだろうか。
- ・①質問②繰り返す③感想を言う④共感するなど自然な話し合いができるといい。
- ・振り返りの意見をまとめて意見を膨らませてから自分の意見を考えられるようにする。

第5学年 国語科学習指導案

指導者 京都市立音羽小学校 宇都木 史

- 1 日時 令和4年6月2日(木) 14:20~15:05
- 2 学年・組 5年1組
- 3 単元名 言葉をよりすぐって俳句を作ろう
(教材名)「日常を十七音で」

4 単元の目標

- 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができるようにする。(知・技(1)オ)
- 比喻や反復などの表現の工夫に気付くことができるようにする。(知・技(1)ク)
- ◎俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えることができるようにする。(思・判・表 B(1)オ)
- 俳句に対する感想を伝え合い、自分の句のよいところを見付けることができるようにする。(思・判・表 B(1)カ)
- 粘り強く、構成や書き表し方に着目して、文言を整え、学習課題に沿って俳句を作ろうとすることができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度)

5 単元の評価規準

知識・技能	① 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ) ② 比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。((1)ク)
思考・判断・表現	① 「書くこと」において、俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えている。(B(1)オ) ② 「書くこと」において、俳句に対する感想を伝え合い、自分の句のよいところを見付けている。(B(1)カ)
主体的に学習に取り組む態度	① 粘り強く、構成や書き表し方に着目して、文言を整え、学習課題に沿って俳句を作ろうとしている。

6 単元について

【育成を目指す資質・能力】

本単元の内容は、学習指導要領において次のように示されている。

〔思考力、判断力、表現力等〕 B 書くこと (1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 カ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること (2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする イ 短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。
--

□ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合う
 とは、互いの書いた文章を読み合い、目的や意図に応じた文章の構成や展開になっているかなどについて、具体的に感想や意見を述べ合うことである。このことを通して、自分の文章のよいところを見付けることとなる。また、互いの文章のよいところを見つけて伝え合うことを通して、それらを自分の表現に生かそうとすることが大切である

【単元を通した言語活動】

「生活の中で気づいたことや驚いたことなどを俳句にして伝えよう」と設定し、表現を工夫して俳句を推敲し交流する。

【言語活動の具体例（俳句の推敲）】

アメノナカ あじさいたちが ゆれている	(どの文字で書き表すか考える) ←	おどりだす あじさいたちが 雨の中	(言葉の順序を工夫する) ←	雨シャワー あじさいたちが おどりだす	(言葉を選ぶ) ←	雨の中 あじさいたちが おどりだす	(たとえを使って) ←	もと 雨の中 あじさいたちが ゆれている	例
---------------------------	-------------------	-------------------------	----------------	---------------------------	-----------	-------------------------	-------------	-------------------------------	---

【単元構想】

出会う

- ・生活の中で気づいたことや驚いたことを伝えた経験を話し合う。
 - ・既習の俳句について想起し、十七音で自分の思いを伝え合うことを学習課題に設定する。
 - ・教科書の2つの例を見て、表現のよさについて話し合い、俳句作りの意欲を高める。
- ㊦ 「言葉をよりすぐって俳句を作ろう」という単元名について、「言葉をよりすぐる」ことで、自分の生き方や将来にどのような良さがあるのかを話し合うようにする。(キャリアプランニング能力：黄)
- ㊦ 学習計画を決めたり、情報の収集の方法について話し合ったりして、学習の見通しを持つことができるようにする。(課題対応能力：青)

追究・表現する

- ・生活の中で気づいたことや驚いたことを自由に俳句に表すことを楽しめるようにする。
 - ・表現の工夫について具体例を挙げて紹介し、自分の俳句の推敲に生かせるようにする。
- ㊦ 自分の思いがより伝わる俳句にするために、どんな表現の工夫をすればよいかを、様々な俳句をもとにして見つけられるようにする。(課題対応能力：青)
- ㊦ 友達の見解やアドバイスを聞くことで、新しい考えに触れることができることに気付くようにする。(人間関係形成・社会形成能力：赤)

生かす

- ・完成した俳句を短冊に書き、教室内に掲示して交流する。
- ・言葉や表現を工夫したところを話したり、友達の表現のよい点を伝えたりすることで、考えを広げることができるようにする。

⑤最初に作った俳句と見比べたり、友達からの評価を受けたりすることで自分の成長に気付くことができるようにする。(自己理解・自己管理能力：緑)

7 キャリア教育の視点について

本校では昨年まで、キャリア教育の「基礎的・汎用的能力」を構成する「4つの能力」を、キャリア年間計画表やキャリア夢ファイル、教室掲示物などで、児童と共有しながら取組を進めてきている。キャリア教育の研究を2年間進めてきていることもあり、児童や教職員にも理解が進み、一定の成果を上げてきた。



令和4年度は、「4つの能力」をさらに子どもたちにとって分かりやすく、日常の教育活動の中で活用できるものにするため、4月からの取組を進めてきた。まず、教職員でイメージを共有し、4つの能力を具体化するため、職員研修において、ワークショップを行い、具体的な場面や姿を思い描き、短い言葉(キーワード：協力、仲間、夢、わくわく、知りたい、なぜ、探究など…)

を出し合った。さらに、体育の模擬授業を通して、授業の中で4つの能力を子どもたちにどう価値づけ、伝えていくのかを話し合った。また、音羽小学校オリジナルキャラクター「音羽ちゃんズ」を作製し、教室や校内の掲示などに活用することにした。「4つの能力」を児童と教職員が共有し、キャリアの視点で物事を見ることを『キャリアのめがねを通してみる』として、今年度の研究のスタートを切った。



5年1組の児童とは、昨年度までの取組を振り返ったり、キャリア年間計画表と一緒に見直したりする中で、『キャリアのめがね』を共有している段階にある。帰りの会で行う「きりり賞の発表」の中で、「〇〇さんの行動は成長くん(緑)だね。」「今日のみんなの姿は仲間くん(赤)だった。」など、担任の言葉で価値づけるようにしている。そうすることで、児童の中にも『キャリアのめがねを通してみる』姿が見られるようになり、「今日は、夢ちゃん(黄)の力がついたと思う。」という声も聞かれるようになってきた。



本時の授業では、普段の教科指導の中で、児童と『キャリアのめがね』を共有し、指導者がキャリアの視点を意識した発問や展開を行うことで、国語科のねらいとキャリア教育のねらいを共に達成することができるようにしていきたい。



8 指導計画【指導のポイント】

☞手立て ! 配慮事項 他教科との関連 ㊦個別支援 ㊦キャリア教育

時	○学習活動 ◆主な発問 子どもの反応	指導のポイント	評価観点
1	<p>○学習の見通しをもつ。</p> <p>◆教科書の二つの例を見てどのようなことを感じるか。</p> <p>・しずくが楽しそうに虹で遊んでいる様子が想像できて、楽しい気持ちになりました。</p> <p>・きっと試合には負けてしまったのだろうけれど次は勝ちたいという強い思いが伝わってくるし、僕もサッカーの試合で負けたときには同じような気持ちになることがあります。</p> <p>【学習課題】言葉をよりすぐって俳句を作ろう。</p> <p>○学習計画を立てる。</p> <p>◆言葉をよりすぐって俳句を作るためにはどのようなことをすればよいのだろう。</p> <p>・俳句の作り方を知りたいな。</p> <p>・友達が作った俳句も読んでみたい。</p>	<p>㊦学習の進め方を確認することで、学習の見通しをもてるようにする。</p> <p>㊦「言葉をよりすぐって俳句を作ろう」という単元名について、「言葉をよりすぐる」ことで、自分の生き方や将来にどのような良さがあるのかを話し合うようにする。(キャリアプランニング能力：黄)</p> <p>㊦学習計画を決めたり、情報の収集の方法について話し合ったりして、学習の見通しを持つことができるようにする。(課題対応能力：青)</p>	態①
2	<p>○俳句を作る材料を集める。</p> <p>◆生活の中で驚いたことや気付いたことなどはありますか。短い文章で書いてみよう。</p> <p>・最近雨がよく降るので梅雨に入ったのかなと思います。</p> <p>・登校してくるときにアジサイがきれいに咲いているのを見</p> <p>○俳句を作る。</p> <p>◆五・七・五の十七音で俳句を作ろう。</p> <p>「雨の中あじさいたちがゆれている」</p> <p>・これではあまり感動が伝わらないからどうすればよいのか</p> <p>○作った俳句の表現を工夫し直す。</p> <p>◆さらによい俳句にするためにどのような工夫ができるだろう。</p> <p>・たとえを使ってみよう。</p> <p>・どの文字で書き表すかで印象が変わるのだね。</p> <p>「雨の歌あじさいたちがおどりだす」</p>	<p>㊦気付きや驚きを見付けられない児童には、季節や場面を具体的に設定し、教科書の季語の例や「季節の言葉」の写真などを参考にして一緒に考えるようにする。</p> <p>㊦自分の思いがより伝わる俳句にするために、どんな表現の工夫をすればよいかを、様々な俳句をもとにして見つけられるようにする。(課題対応能力：青)</p> <p>㊦友達の見方やアドバイスを聞くことで、新しい考えに触れることができ、新しい考えに気付くようにする。(人間関係形成・社会形成能力：赤)</p>	<p>知①</p> <p>知② 思① 態①</p>

出会う

追究・表現する

生 か す	<p>3 ○作った俳句を友達と読み合い、言葉や表現を工夫したところを説明したり、友達の俳句についての感想を伝えたりする。</p> <p>◆友達と俳句を読み合って感想を伝え合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あじさいがおどりだす」という表現が面白くて好きだな。 ・ここはどのような様子を想像したのか教えてほしいな。 ・漢字を片仮名に変えるだけでずいぶん印象が違うのだね。 <p>○学習を振り返る。</p> <p>◆これからどのようなことに生かせそうだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな表現を工夫することで相手に与える印象が全然違うことが分かったので、短い言葉で伝える工夫を使っていきたいです。 	<p>㊦「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身に付けた力を押さえる。</p> <p>㊧最初に作った俳句と見比べたり、友達からの評価を受けたりすることで自分の成長に気付くことができるようにする。(自己理解・自己管理能力: 緑)</p>	思②
-------------	--	---	----

9 本時について (2 / 3)

(1) 目標

作った俳句を、語感や言葉の使い方を意識して表現を工夫し、整えることができる。

【思①】

(2) 展開

○学習活動 ◆発問 ・児童の反応	◇支援 *留意点 ㊦個別支援 ㊧キャリアの視点
<p>○学習のめあてと流れを確かめる。</p> <p>◆生活の中の感動や驚きを伝える俳句を作りましたね。今日はその俳句を見直して完成させましょう。</p> <p>○自分の作った俳句の音数や季語を確認する。</p> <p>◆自分の作った俳句を並べて見直してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五七五に気を付けて作ったけど、当たり前のことを言っただけの俳句になっているな。 ・感動を伝えるためにはどうしたらいいのかな。 	<p>◇教科書の俳句から読み取れる思いを共有したものを掲示することで、推敲の際に意識できるようにする。</p> <p>*現時点での児童の俳句を認め、さらに良いものにしたたり、複数の俳句の中から選んだりする活動につなげるようにする。</p> <p>*俳句のきまりを確認し、自分の作った俳句を客観的に見直せるようにする。</p> <p>㊦音数が分からない児童には手をたたいたり、指を折ったりして一緒に確認するようにする。</p> <p>◇教科書の例を挙げ、より思いが伝わる言葉をみんなで集めることで、推敲のイメージがもてるようにする。</p>
<p>より思いが伝わる俳句にするために、どのような工夫をするといいのだろう。</p>	
<p>○俳句の表現を工夫する。</p> <p>◆自分の思いがより伝わるように表現を工夫してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉を言い換えてみよう。 	<p>㊦俳句をいくつか提示し、どんな工夫があり、どんな効果があるのかを話し合う中で、表現の工夫を見つけていくようにする。</p> <p>*どのような驚きや感動を伝えたいのかに立ち</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・たとえを使ってみよう。 ・言葉の順序を入れ替えてみよう。 ・どの文字で表すのがいいか、試してみよう。 <p>○交流して表現を見直し、俳句を完成させる。</p> <p>◆作った俳句をグループで読んで助言し合いましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順序を入れ替えた方が、最初の俳句より生き生きしている感じがするね。 ・カタカナで書いた部分が強調されているように感じるよ。 ・こんな表現の工夫を使ったらどうかな。 <p>○振り返りをする。</p> <p>◆今日の学習を振り返りましょう。友達の表現の工夫やアドバイスでいいなと思ったことはどんなことですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に考えることで、俳句がもっとよくなった。(人間関係形成・社会形成能力) ・この時間で、はじめの俳句よりもいいものにすることができた。(自己理解・自己管理能力) ・表現の工夫は難しいと思ったけど、いろいろ試したら、いい表現が見つかった。(課題対応能力) ・一度作ったものを、見直して、話し合ったら、いいものができていくんだと分かった。他の場面でも使っていきたい。(キャリアプランニング能力) 	<p>返って、俳句を見直すように助言する。</p> <p>*活動をすぐに終えた児童には、いくつかの工夫を試してみるように助言する。</p> <p>✂手が止まっている児童には、黒板の工夫の中から選んで取り組むように助言する。</p> <p>*複数の俳句の中からよいものを選んだり、推敲前の俳句と見比べて良さを見つけたりするように助言する。</p> <p>⊕友達の伝えたい思いをくみ取ったアドバイスをしている場面があれば全体に広める。</p> <p>⊕友達からのアドバイスで表現を変えた児童や交流することで複数の俳句の中から決めた児童を見取り、記録しておく。</p> <p>⊕振り返りの視点を示し、国語科のめあてに加え、キャリアの視点でも振り返りができるようにする。</p> <p>*季節感や日常の気付きを共有したり、楽しんだりすることが、生活を豊かにすることに触れるようにする。</p>
---	--

(3) 評価

【思①】	「書くこと」において、俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えている。(ワークシート・活動の様子)
「おおむね満足できる」状況と判断できる姿	
自分で作った俳句を、教科書に示されている「表現の工夫」を参考にして整えている。	

(4) 板書計画

言葉をよりすぐって俳句を作ろう

日常を十七音で

めあて

より思いが伝わる俳句にするために、
どのような工夫をするか、
どのようないい感じの
工夫をするか、
どのようないい感じの
工夫をするか、

〈表現の工夫のポイント〉

①言葉を選ぶ。

- ・たとえ（擬人法）を使う
- ・音や様子を表す言葉を使う

②言葉の順序を工夫する。

- ・言葉の入れかえ（倒置法）をする
- ・はじめと終わりの五音を入れ替える

③どの文字で書き表すのかを考える。

- ・漢字↓強い感じ
- ・平仮名↓やわらかい・やさしい感じ
- ・片仮名↓かたい・現代的な感じ

事後記録

5年校内研 国語 「日常を十七音で」

研究協議

A グループ

- ・よりいい俳句にしようとする力がついていた。
- ・すっきりという言葉を用いて、解決の力がスムーズにできていた。
- ・楽しい・うれしい→イメージを膨らませることが大切だから、感想を書くのではない。



B グループ

- ・場づくり・雰囲気づくりがとても上手。
- ・選りすぐる楽しさや友達にアドバイスする瞬間が良かった。
- ・キャリアのめがねの視点を押さえられているので、振り返りがとても有意義だった。

C グループ

- ・アドバイスの仕方が良く、交流のしかたがよかった。



- ・導入の工夫探しもイメージしながら、できていた。
- ・工夫をすることでどんな効果があるのかを考えたほうが良かった。

D グループ

- ・学級経営が良くできていて、子どもが安心して挙手できていた。
- ・細かな声掛けもよかった。

指導助言

京都市学びの街生き方探究館 葉山みどり指導主事

- ・学習に向かう意欲が高く、授業を終わった後もうかがえる。
- ・学ぶことと将来の夢が、つながるような声掛け
- ・子どもが話すことを認めるのが良い。
- ・子どもの実態を把握し、どのようにそだてたいのかを考える。
- ・板書の構成力がとてもいいね。
- ・子どもが困っていたら国語辞典を渡すのが良かった。
- ・4つの力のおかげで、上手に振り返りができていた。
- ・グループ交流の時間があまりなかった。グループの人数をへらすのがいい。
- ・めあての意識、自分の想いを伝えるためにどう表現するべきか弱かった。
- ・いっぱい材料がある中で、1番すっきり自己決定させる。

成果と課題

- ◎児童が友達と交流することで、さらに良い表現に気付き、俳句を作ることができた。
- ◎児童がキャリアの4つの力を意識して、ふり返ることができていた。
- △キャリアの視点で振り返る児童が多く、国語科のめあてに対しての振り返りが少なかった。

生活単元学習指導案

指導者 梅村 万里子 (T1)
西川 美智子 (T2)

1 日時 令和4年7月5日(火) 第6校時(14:20~15:05)

2 学年 さくら学級 第5学年1名 第6学年1名

3 単元名 協力してお弁当屋さんをひらこう

4 単元の目標

【生活への関心・意欲・態度】

クラスの友達と協力して、お店屋さんの活動を楽しみ、様々な人と接して、気持ちのよいあいさつをすることができる。

【活動や体験についての思考・表現・判断】

自分の役割が分かり、見通しをもって最後まで活動することができる。

【身近な環境や自分についての気付き】

代金やおつりなどの金銭の扱いに慣れ、金銭の知識や技能を身につける。

5 単元の評価基準

	生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現・判断	身近な環境や自分についての気付き
児童 A (5年男子)	友達と話し合ってお店の準備をしたり、役割分担をしたりして協力し、お客さんに応じた挨拶をしてやり取りを楽しんでいる。	自分の役割を、責任をもって最後まで果たそうとしている。	代金を正確に計算して、おつりを間違えないように渡している。
児童 B (6年女子)	友達の話も聞きつつ、お店の準備をしたり、役割分担をしたりして協力し、お客さんに応じた挨拶をしてやり取りを楽しんでいる。	自分の役割を、責任をもって進んで果たそうとしている。	支援グッズを活用しながら代金の計算をして、おつりを間違えないように渡している。

6 単元について

【育成を目指す資質・能力】

本単元の内容は、学習指導要領において次のように示されている。

「特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」の第1節小学部の中の第1 各教科の目標及び内容 生活単元 第3段階

オ 人との関わり

身近なことを教師や友達と話すことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に着けることができるよう指導する。

(ア) 身近な人と自分との関わりが分かり、一人で簡単な応対などをしようとする事。

(イ) 身近な人との簡単な応対などをするための知識や技能を身に着けること。

ク 金銭の扱い 価格の応じて必要な貨幣を組み合わせるなどの金銭に関わる学習活動を通じて、次の事項を身に着けることができるよう指導する。

(ア) 日常生活の中で、金銭の価値が分かり扱いに慣れること

(イ) 金銭の扱い方などの知識や技能を身につけること

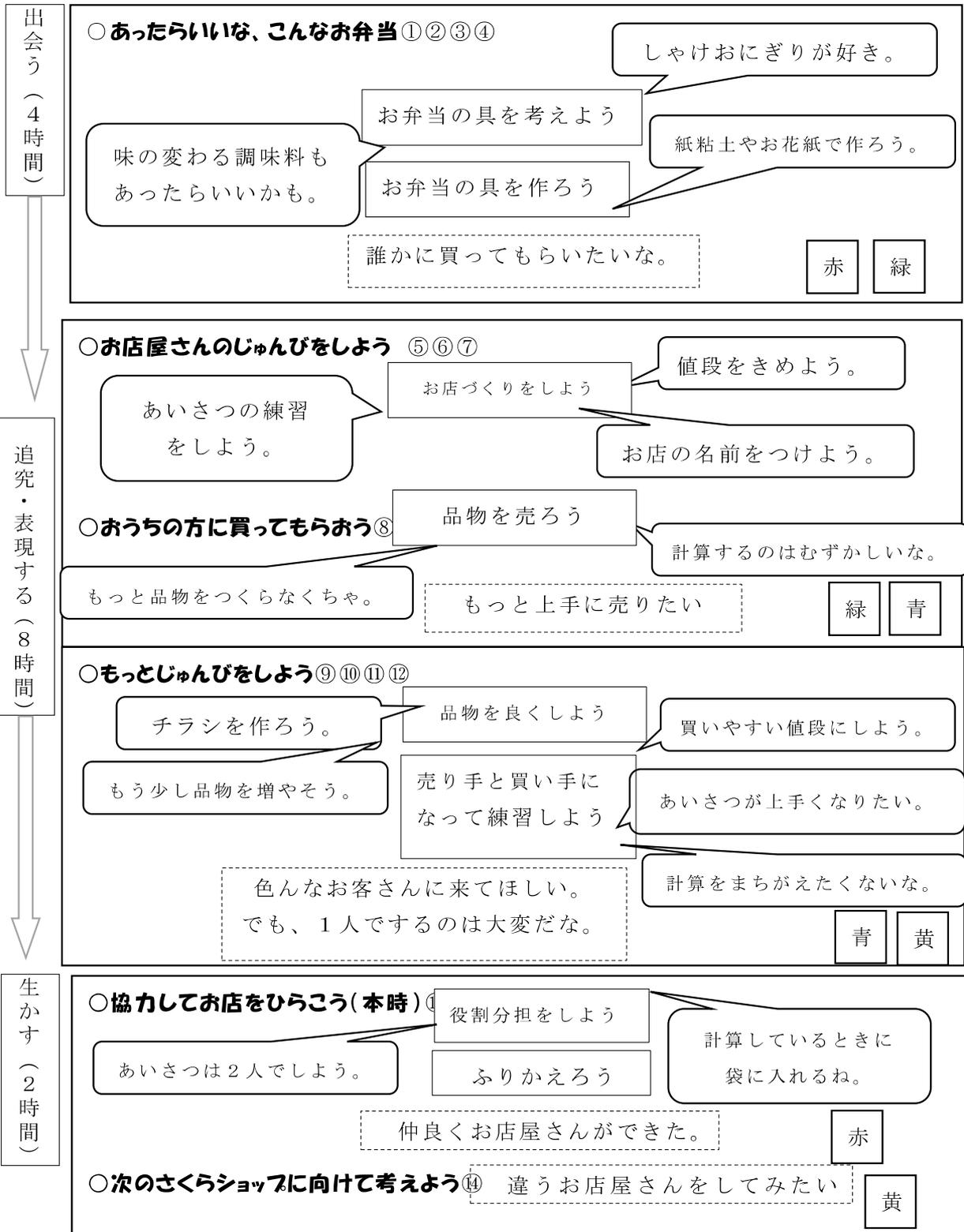
7 キャリア教育の視点について

さくら学級では、昨年まで国語科の学習でキャリア教育を進めてきた。国語科での言語活動が他の教科の学習や、これから自分の希望する進路を進めていくのに不可欠な学習だからと考えられる。他にも、キャリア夢ファイルでなりたい自分を定期的に見つめ、短期的・長期的な目標を立ててきた。また、友達のよかった行動や言動を、桜の花びらカードに担任が書いて価値づけし、木の台紙に貼って児童たちに可視化して、児童の自己肯定感を促してきた。

令和4年度には、「4つの能力」が、昨年度までの言葉がイラスト化され、さらに児童にわかりやすくなった。普段の授業の中でも、「今日は、たくさん調べることができたから、探究くん(の力)だね。」と、学習のめあての終わりにイラストを黒板に貼って児童と確かめをしている。最近では、学習の課題提示時に「今日は、仲間ちゃんでしょ？」と児童から提案する姿も見られる。

本時では、友達同士で協力しあう＝仲間ちゃん(赤)の力を育むことをねらいとしている。お客さんをおもてなしするという目標に向かって、友達と力を合わせて努力することは、将来における社会生活にも役立ち、よりよく暮らしていくことにつながる。生活単元学習とキャリア教育のねらいを、児童の実態に合わせた形で達成できるようにしていきたいと考える。

協力してお弁当屋さんをひらこう (14時間)



○小単元 吹き出し (児童の言葉) □学習活動 点線□次の活動につながる児童の思い

9 単元設定の理由

○児童観

本学級は、第5学年1名、第6学年1名の合計2名の児童が在籍する。算数や図画工作など各教科等の一部を合わせた指導形態として生活単元学習を行っている。児童は、学習の見通しがもて、自分のすることがはっきりわかると意欲的に活動することができる。特に、写真（画像）やイラストなど視覚的支援を行うと、意欲的に活動することができる。

個々の児童の実態は、次の通りである。

○児童 A（5年男子）

- ・昨年度は、1桁+1桁の繰り上がりのある足し算の計算が難しかったが、今では2桁×1桁の掛け算や1桁÷1桁のあまりなしの割り算の計算ができるようになった。分数や1000を超える数の計算は、まだ混乱してしまう。よって、本単元では、1000円をこえない計算の仕方で行う。
- ・人と関わることが好きで、お店屋さんのやり取りも大好きである。
- ・交流学习では、学習方法など友達に教わりつつ、集団になじんで学習している。
- ・一人でファーストフード店におつかいに行ったり、生協など宅配業者から品物を受け取ったりするやり取りも経験している。

○児童 B（6年女子）

- ・足し算のひっ算は、ゆっくり確かめながらできる。引き算は苦手である。かけ算の九九は1～5の段までなら空で覚えて言える。また、電卓機能を使って平均値を出すこともできる。ただし、計算を間違えるのに抵抗を感じやすかったり、学習のめあての理解が不十分だったりするとき、学習意欲が失せてしまう。よって、本時のめあてを明確に伝えられるようにしたいと考える。
- ・目と手の協応動作ができていて、お弁当の具を意欲的に制作している。
- ・交流学习は、自ら進んで参加して、特に家庭科の手芸などのスキルは高く、友達に作り方などを教えるほどである。
- ・修学旅行で引率の教師に見守られながら、お土産の買い物の経験をしている。

○教材観

本単元は、年間を通じて3回実施する「お店屋さんシリーズ」の第2弾である。第1弾は、4月に「バーガー屋さんをひらこう」という単元に取り組んだ。児童が食べたい物を考え、品物を自分たちで作ったので、意欲的に取り組むことができた。その際、「注文をする」「注文を受ける」「品物を用意する」「代金を払う」「代金を受け取る」という店員とお客の立場の両方を経験した。児童は、注文をする・受けるという一連の活動を、責任をもって行い、達成感を味わうことができた。

児童は、意欲関心をもって活動をしているときは、二人で一つの活動を楽しく行うことができるが、よくささいな理由でもめてしまうことがある。本単元では、お互いが協力し合って活動をしていく楽しさを実感できるように、共同制作や、役割分担をして助け合える場面設定も取り入れたい。本時では、「お楽しみの具」として、二人で袋を開ける品物を用意する。協力していこうとする心を促すものになればよいと考える。

○指導観

指導にあたっては、次の2点について力を入れていきたい。

一つ目は、「目的意識や学習の見通しをもって、学習を進めていくこと」である。本時のめあてと学習の流れを分けて可視化して確かめるが、何をすればよいかは明確にできるように支援したい。

そして、本時は、学校長・それぞれの交流学級の担任をお客さんとして迎える。児童たちにとって、身近な存在がお客さんとして来ることは、学習意欲・関心を高めることと考えられる。そこで、二つ目として、「個の能力に応じた役割をもたせ、その役割を責任をもってやりきること」が必要になる。どのお客さんが来ても、気持ちのよい対応ができるように、個の実態に合わせた支援を工夫したい。

10 指導計画

【指導のポイント ・手だて (他) 他教科との関連 (キ) キャリア教育】

	時	○学習活動◆主な発問 ・児童の反応	指導のポイント	評価基準
出 会 う	1 2 3 4	○学習の見通しをもつ。 ◆どんなお弁当の具の品物を 売りたいか。 ・おにぎりが作りたい。 ・自分のナポリタンが入って いるから、売ってみたい。 ○お弁当の具を制作する。 ・お花紙で卵焼きをまける よ。 ・紙粘土でミートボールを丸 めよう。	・iPadで、品物の画像 検索をできるように する。 (キ) お店や買い物の 場面を想起し、どん なお店にしたいかの イメージをふくらま せる。 (他) 図画工作 「楽しいお弁当 箱」	(A 児) 友達と話し合 ってお店の準備をし たり、役割分担をし たりして協力し、お 客さんに応じた挨拶 をしてやり取りを楽 しんでいる。 (B 児) 友達の話も聞 きつつ、お店の準備 をしたり、役割分担 をしたりして協力し 、お客さんに応じた 挨拶をしてやり取り を楽しんでいる。 【生活への関心・意 欲・態度】
追 究 ・ 表 現 す る	5 6 7 8 9 10 11	○お店屋さんの準備をする。 ・値札をつけよう。 ・あいさつの練習をしよう。 ・エプロンつけたらやる気が 出るなあ。 ○おうちの方に買ってもら う。	・会計時に計算しやす いように、レジ近く にメニュー表(値段 別・品目別)を2通 り用意する。 ・緊張しないように、あ いさつの話型を用意	(A 児) 代金を正確に 計算して、おつりを 間違えないように渡 している。 (B 児) 支援グッズを 活用しながら代金の 計算をして、おつり を間違

	12	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょっと緊張したなあ。 ・もっと上手に売りたい。 	<p>する。</p> <p>(他) 国語「丁寧に話そう」算数「お金を使って計算しよう」</p>	<p>違えないように渡している。【身近な環境や自分についての気付き】</p>
生 か す	13 14	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と役割分担して、協力しあう店員になる。 ・お客さんに喜んでもらいたい。 ・ちゃんとあいさつしよう。 ・間違えないように計算するよ。 ・きれいにお弁当につめよう。 ○次回のお店屋さんに向けて自分の思いをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お客さんに満足してもらうために、一人ひとりが気を付けることをカードや板書で表し、明確化する。 (キ) 協力することで活動を成功させることができた達成感を味わい、次のお店屋さんに向けて、思いをふくらませるようになる。 	<p>(A 児) 自分の役割を責任をもって最後まで果たしている。</p> <p>(B 児) 自分の役割を責任をもって進んで果たしている</p> <p>【活動や体験についての思考・表現・判断】</p>

11 本時について

(1) 本時の目標 (13/14 時間目)

A 児 自分の役割に取り組み、友達と役割分担して協力することができる。

【活動や体験についての思考・表現・判断】

B 児 自分の役割に取り組み、友達を手伝いながら役割分担して協力することができる。

【活動や体験についての思考・表現・判断】

(2) 本時の展開 (13/14 時間目)

○学習内容 ◆発問	・児童の反応や活動		◇支援*留意点(キ) キャリアの視点 (T2) T2の支援
○学習のめあてを確かめる。	A 児 (5 年)	B 児 (6 年)	
	友だちと協力しあって、お店屋さんを成功させよう。		
◆お客さんに喜んで買い物をしてもらうために、どんなことに気を付けてお店屋さんをしたらよいですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習への見通しを持つ。 ・代金やおつりを間違え 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習への見通しを持つ。 ・ちゃんとあいさつす 	(T2) カードを黒板に貼ったり、前時までの様子を画面に映したりして、めあてを明確にできるようにする。

<p>○学習の流れを確かめる。 ◆会計するまでのお客さんと自分たちの動きを確かめましょう。</p> <p>○お店屋さんをひらく準備をする。 ◆手伝ってもらいたいときは友達に「ここ手伝って。」と言えはいよ。</p> <p>○お店屋さんを開店する。 ◆さあ、お客さんが来られますよ。がんばりましょう。</p> <p>○本時の活動を振り返る。 ◆今日、お店屋さんをひらいて、がんばったな、よかったなと思ったことは何ですか。</p> <p>○次回の活動に向けて、自分の思いをもつ。</p>	<p>ない。 ・お弁当の具をきれいに 入れる。</p> <p>・会計時の自分の役割を 確かめる。</p> <p>・自分の役割を再確認する。</p> <p>・自分の役割を友達と一緒に果たす。</p> <p>・計算をがんばっていた。 ・大変だけど楽しかった。</p> <p>・今度は誰が来てくれるかな。</p>	<p>る。 ・お客さんを待たせすぎない。</p> <p>・会計時の自分の役割を確かめる。</p> <p>・自分の役割を再確認する。</p> <p>・自分の役割を友達と協力して果たす。</p> <p>・お弁当の具を上手につめていた。 ・協力してお店屋さんができてよかった。</p>	<p>(キ)仲間ちゃんのイラストを貼ることで、本時のめあてを意識づけるようにする。</p> <p>◇カード等で学習の流れが分かるようにする。 *自分の役割で特に何をがんばるか、確かめるようにする。</p> <p>*開店前に自分の役割と友達との連携の仕方を確認できるようにする。</p> <p>(T2) 計算しづらそうなときに、ひっ算の順番を考えられる支援グッズの使い方を示唆する。</p> <p>*まず二人の児童の活躍をほめ、お互いのよかったところを見つけられるようにする。 (キ)仲間ちゃんのイラストを再度意識づけることで、本時のめあてを達成できたことを実感できるようにする。</p>
--	---	---	---

(3) 評価

- A 児 お客さんのことを考えて、自分の役割を果たし、友達と役割分担できたか。
- B 児 お客さんのことを考えて、自分の役割を果たし、友達と協力できたか。

(4) 板書計画

生活単元「協力してお店屋さんをひらこう」

めあて お客さんによろこんでもらえるように、友だちと協力しよう。

仲間
ちゃん

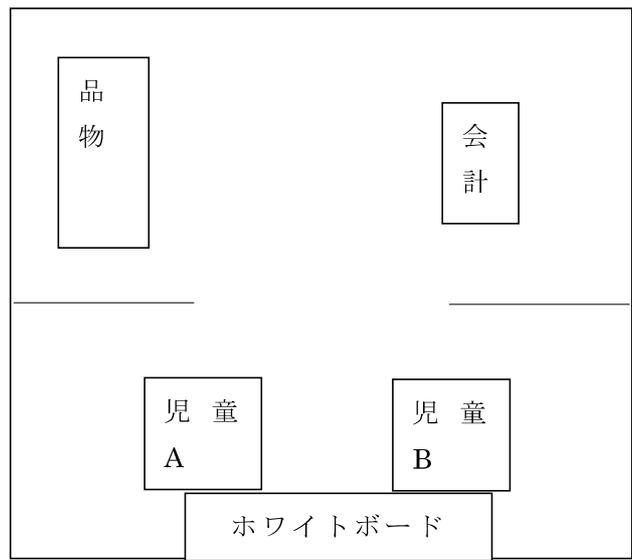
お客さん（先生） <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・品物をえらぶ ・おかねをはらう 	店員さん（〇〇さん・◇◇さん） <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・代金を計算する ・品物をつめてふくろに入れる ・おつりをわたす ・レシートと品物をわたす
---	---

ふりかえろう

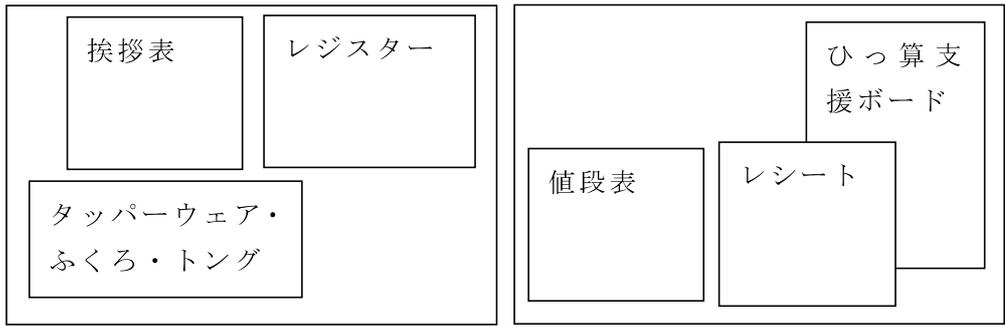
- ・もっと笑顔で言えばいい。
- ・計算をもっと早くしたい。
- ・一人より二人のほうがよかった。

協力できた！

(5) 場の設定



会計コーナーの机上



事後記録

さくら学級校内研 学級活動

「協力してお弁当屋さんをひらこう」

研究協議



- ・一つ一つの支援が普通学級でも見習うものばかりで、教材研究や個々の支援の大切さを感じた。
 - ・具体物がたくさんあり、子どもたちの意欲もあがり、実生活にもいかせることだったので、キャリアの力がついたと思った。
 - ・学習の始めにめあてと共にキャリアの視点を提示していたので、子どもたちもその視点に向かってがんばることができたのでよかった。
- ・計算の仕方の支援がとても分かりやすく、教師の支援をすごくよかったので、子どもたちも頭を整理しながら計算することができたと思う。
- ・子どもたちへの「待つ」ことの大切さを感じ取れた。計算に時間がかかっているけど、お互いが声かけを行い、待ち合いながら協力して活動することができた。

指導助言

- ・育成学級の児童は、学習で身につけた（知識・技能）が断片的で実際の生活の生かすことが難しい。生きた力として身につけさせるためには、実際の生活場面に近づけて活動を行い、「くりかえし」の学習を行っていくことが必要である。（継続的に・段階的に）
- ・どんな単元にするのか、どんな教材を扱うのかを考えることが大切になってくる。今回は、お弁当屋さんということで、2人も大切な思い出が詰まっている単元にしていたので、それぞれ思いを持ちながら意欲的に取り組めたのでよかった。
- ・単元の力はとても重要になってくる。単元をしっかりと考えることで、子どもたちの力に変わっていくので、子どものことを考えながら、どのような力を付けたいのかをなど思いを持って個々の指導計画・単元計画をつくっていくことが大切。
- ・個に応じた支援→できる状況づくり（環境設定・机の配置・準備物）、授業が始まるまでできる支援、手立て（発問の内容など）、授業中での手立て の二つを考えて、子どもたちがめあてに向かって活動できるようにしていく。
- ・支援が必要な子に対しては、単元がおわったあとに、自分にどんな力ついたので、どんなところが良かったのかを考えるようにすると良い。



成果と課題

- ◎環境設定がとても良くて、見ているこちらもお店に来ているみたいだった。
- △計算を電卓で行うなど、現代の実生活にもつなげていくなど、様々な場面設定で活動していくともっといいものになると感じた。

岩倉北小学校のキャリアパスポート

3年生の取組紹介



キャリアパスポートに取り組み始めて、「いつ書かせたらいいですか?」「何を書かせたらいいですか?」との質問をよくお受けします。答えはいたってシンプルで、児童が「書きたいときに」「書きたいこと」を書けばいいとお答えしています。

では、3年生のA児のキャリアパスポートとポートフォリオを見ていきましょう。

- ① 2年生「あゆみ」です。なりたい3年生の姿は、ここからスタートしています。前年度の取組が大切なことがよくわかります。

2年生 あゆみ	書いた日 3年 7月	名前
○今までの自分をふり返りましょう。		
わすれられない!のこしておきたい!『出会った人・もの・できごと・本』		
<p>あいつをしらあいつが大きなこえでかえしてくれてか うともうれしかったです。 うれいわ!! あゆみの人から 書かしたかたわ!!</p>		
<p>きんちょうしたけどみんなも同じことをしていた からあんしんしてよしゅうちゅうしてやる力が つきました。</p>		
<p>『いちばんしあわせなおくりもの』という 本がとってものこしておきたいです</p>		
なりたい自分に近づいていますか?	ステップアップ 色をぬりましょう。★★★★★	
なりたい自分にむけて、どんな力(思い・行どう)をしてきたか書きましょう。		
<p>しゃべらないでじかんをむだにしない という自分にむけたきました。さいしょのど きからとちがってさいしょはしゃべっていてじか んをむだにしていたけど今になるととって じかんをむだにしないでよかったです。 かんじをいっしょにおぼえ!新しいことかできる</p>		
まわりの大人から		

② 3年生「わたし」です。将来の夢を描きつつ、「こんな3年生になるぞ」と「なりたい3年生」を見つめます。

3年生 わたし	書いた日 4年 4月	名前
○今の自分について考えてみましょう。		
とくいなこと・好きなこと・今、大切にしていること・もの おりがみ 家スズク ジェンボー 		
自分のよいところ 友だちをたいせつにしている		
しょう来の夢(やってみたいこと・やってみたい仕事・こんな人になりたい) びようしさんになりたいです。 やさしい人スズクに助けられる人えがおの人		
○この1年間でがんばりたいこと、チャレンジしたいこと		
こんな 3年生に なるぞ! なんでもチャレンジする 3年生!!	そのために することは さいしょはすこしずつやる すこしずつふやしていく ★	
友だちをたいせつに 3年生!!	友だちにやさしくする	
えがおな3年生!	明るくすこす	
やさしい3年生	べんきょうをたすけてあげる	
きょうりよくの3年生	自分のこともしながら 友だちときょうりよく	
がんばりやな 3年生	さいしょはすこしずつやる すこしずつふやしていく	
あきらめな 3年生		
まわりの大人から いろいろなことにチャレンジしていいからね。そしてしっかりと成長してほしいです。 たのしみをしています!		

③ ここからは、ポートフォリオです。係活動でパワーアップする姿を記録しています。
学級活動（3）イと組み合わせて実践をしています。

係活動パワーアップシート（名前）

自分ががんばりたいこと

かざりをきれいに作る

日付	がんばること	評価	ふりかえり
5/24	かざりをきれいに作る	◎●△ レンジャーシート ● ● ●	かざりをきれいに作りました。かざりをきれいに作ることでおねいなおりがみがつくれました。つかうのっているおりがみをつかてかざりを作りました。
5/27	あたらしいことをする かざりをきれいに作った	◎●△ レンジャーシート ● ● ●	あたらしいことをしました。かざりがかりでアンケートを作りました。みんなにつけてほしいかざりのアンケートにしました。かざりをきれいに作れて上手なかざりがつくれました。
6/7	みんなからのアンケートのものをみた	◎●△ レンジャーシート ● ● ●	アンケートはみんなもいいこといいことでした。うれしいです。かざりがいいかざりもたくさんあります。でもきょうかしてつくることもうれしいです。できたのでできました。
6/8	かざりをいっぱいかざった	●○△ レンジャーシート ● ● ●	かざりをいっぱいかざりました。かざりをかざると教室が明るくなるのでいっぱいかざりました。かざりを友だちに「かざり」として
6/14	アンケートのさいごの作りもの	◎●△ レンジャーシート ● ● ●	さいごのアンケートかとてもおもしろかった。あんなにかざりがおもしろいので、きょうよくしました。かざりきれいに

1週間パワーアップチャレンジしてみて（ふりかえろう）
 すごく、自分のためにがんばってきれいにかざりを作りました。
 きょうよく、えがおの力がつきました。★★★★★

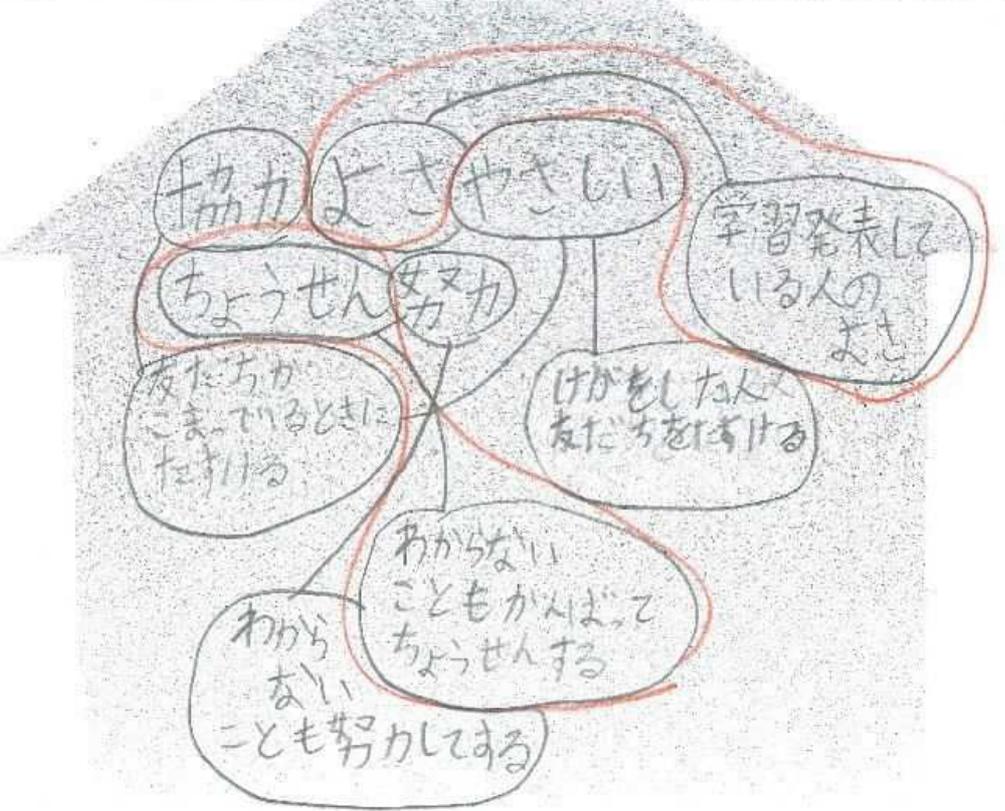
⑥ すごくいろんな力がついたので
すばらしい！

④ 学級活動（3）ウの実践と組み合わせて、主体的な学習態度の形成をすすめています。学びを広げるイメージを可視化しています。

「広がれ！！わたしたちの学び」（名前： _____）

めあて 次の一步をどうするかを決めよう

なりたい自分
なんでもチャレンジやさしい協力がよさをする



今の自分

⑤ 事後の取組の記録です。しっかりと振り返りをすることで次の学びが広がります。



「広がれ！！わたしたちの学び」(名前)

～1週間パワーアップシート～

日付	したこと	パワーアップ (シール)	振り返り
7/11	友だちのよさを見つけた	● 😊	わたしは友だちのよさを見つめました。見つけてそのよさを自分もまねしたいと思いました。
7/13	社会見学	●	いろいろなスーパーマーケットのくふうをいろいろみつけました。
7/14	友だちのよさを見つけた	● ●	プールのじゅぎょうでたけさあさんのひらおよぎがよかったです。
7/19	外国語で友だちがいろいろないろをいっていた	●	友だちがむずかしい色をいってすごかったです。わたしはいえな、いけど、いえ、いしました。

1週間やってみて

⑦ 1学期の自分の成長を可視化できるシートです。さまざまな価値が色分けされており、4月からの自分の歩みがよくわかります。

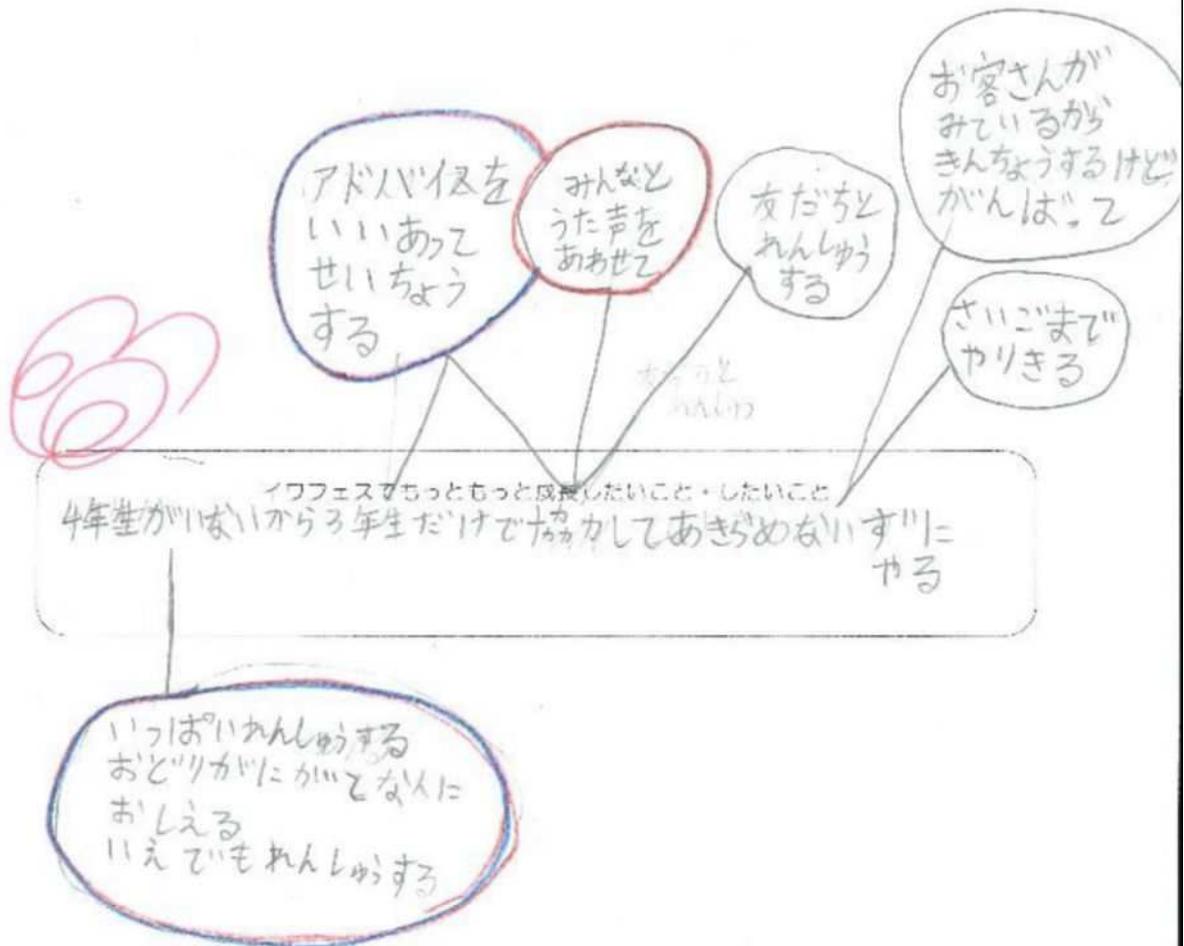
令和4年度 第3学年 『かつこいいい3年2組』 (名前)			
<p>●かつこいいい ●挑戦 ●努力 ●笑顔 ●やさしい ●協力 なんででもチャレンジする3年生 やさしい協力する3年生</p>			
4	5	6	7
<p>教科</p> <p>体育「リレー」● 国語「ついでに」● 社会「ついでに」● 国工「ついでに」● 算数「ついでに」● 音楽「ついでに」●</p> <p>かきこり かきこり</p>	<p>国語「ついでに」● 体育「ついでに」● 書写「ついでに」● 音楽「ついでに」● 算数「ついでに」● 国語「ついでに」● 社会「ついでに」● 国工「ついでに」● 算数「ついでに」● 音楽「ついでに」●</p> <p>かきこり かきこり</p>	<p>体育「水泳」● 体育「ネットボール」● 音楽「リコーダー」● 国工「ついでに」● 算数「ついでに」● 国語「ついでに」● 社会「ついでに」● 国工「ついでに」● 算数「ついでに」● 音楽「ついでに」●</p> <p>かきこり かきこり</p>	<p>国語「ついでに」● 社会「ついでに」● 国工「ついでに」● 算数「ついでに」● 音楽「ついでに」● 国語「ついでに」● 社会「ついでに」● 国工「ついでに」● 算数「ついでに」● 音楽「ついでに」●</p> <p>かきこり かきこり</p>
<p>総名</p> <p>こころ</p>	<p>こころ</p>	<p>こころ</p>	<p>こころ</p>
<p>特別活動</p> <p>かきこり</p>	<p>かきこり</p>	<p>かきこり</p>	<p>かきこり</p>
<p>道徳</p> <p>こころ</p>	<p>こころ</p>	<p>こころ</p>	<p>こころ</p>
<p>一言</p> <p>かきこり</p>	<p>かきこり</p>	<p>かきこり</p>	<p>かきこり</p>

⑨ 運動会を終えて成長し、次は学習発表会に向かいます。

イワフェスもっともっと成長！！（名まえ）

めあて

もっともっと成長するためにしたいことを決めよう



⑫ キャリアパスポートの「あゆみ」は、3学期の終わりに記録をするものではありません。2学期から振り返りをはじめ、3学期のスタートをきることも活用の1つになります。

3年生 あゆみ	書いた日 2022年 12月	名前
---------	-------------------	----

○今までの自分をふり返りましょう。

ねえねえ聞いて！3年生成長エピソード！『出会った人・もの・できごと・本』

- ・うんどう会でちょうせんするかがついたし4年生ともなかよくなった
- ・学習発表でどりくのかがついたし岩倉はうぶようもおどおれるようになった
- ・ハロウィンパーティーで考えるかがついたし1年生ともなかよくなった
- ・ハンドベースボールで声かけをいっぱいしてやるまえより協力するかがついた
- ・ははとびでもととびたいけどとべなくてくやしからたし何回もやりたい気もちになった
- ・リコーダーできれいな音がだせなくてあきらめえうになったけど休み日時間にも練習してきれいな音がだせるようになった

なりたい自分に近づいていますか？

ステップアップ ★★★★★★

色をぬりましょう。

な力が成長をしてきたか書きましょう。

- なか → 算数のもんだい学習発表会の声の練習
- ちょうせん → はとびをくりかえしちょうせん
- たかか → 理科のじけんでグループの人と協力
- よさ → 国語でいいことをまねる
- 生かす → 書習でいっぱいしてもそれを生かしてかんばる
- えがお → ハロウィンパーティーで1年生も3年生もえがおいなった

まわりの大人から

これらのキャリアパスポートや行事ノート、ポートフォリオを「いつ書くのか」「どのように書かせるのか」と考えると、あまりに量も多く、内容も難しく感じます。しかしながら、これは児童自身が書きたい・残したい・見つめたいと思って書いているものであり、書きたいこと、記録したいことを書いているものです。ポートフォリオは、「させよう」とすると、その途端、指示されたと感じてしまい「自分のもの」にはなりません。

キャリアパスポートは、児童自身の成長の記録です。児童自身が自分の成長を見つめる機会とシステムをつくることが一番大切です。ポートフォリオの用紙があるだけでは、意欲のわかないワークシートになってしまいます。

岩倉北の実践例を見て、興味をもたれた方は、ぜひ、岩倉北小学校にきて児童の姿、教員の姿を見てください。いつでもお待ちしております。



全国小学校キャリア教育研究協議会 沿革

年度	おもな出来事	会長・副会長
2017年 (平成29年)	全国小学校キャリア教育研究協議会発足 2017年12月1日 於 京都市立錦林小学校	林 久徳(京都) 海藤美鈴(東京)
2018年 (平成30年)	第1回全国小学校キャリア教育研究協議会 京都大会 2018年12月6日7日 於 京都まなびの街生き方探究館 於 京都市立岩倉北小学校	林 久徳(京都) 海藤美鈴(東京)
2019年 (平成31年) (令和元年)	第2回全国小学校キャリア教育研究協議会 東京大会 2019年11月15日16日 於 東京都板橋区立中台小学校 於 東京都港区立豊洲西小学校	林 久徳(京都) 海藤美鈴(東京)
2020年 (令和2年)	第3回全国小学校キャリア教育研究協議会 京都大会 2021年2月5日 於 京都市立新町小学校 ※新型コロナウイルス感染防止のため紙面発表	三浦清孝(京都) 海藤美鈴(東京)
2021年 (令和3年)	第4回全国小学校キャリア教育研究協議会(東日本大会) 秋田大会 2021年10月29日30日 於 秋田県大館市立城西小学校・釈迦内小学校・長木小学校 北陽中学校・下川沿中学校 第4回全国小学校キャリア教育研究協議会(西日本大会) 滋賀大会 2021年11月5日 於 滋賀県大津市立瀬田北小学校	三浦清孝(京都) 小原弘樹(東京)
2022年 (令和4年)	第5回全国小学校キャリア教育研究協議会 京都大会 2023年2月3日 於 京都市立音羽小学校	三浦清孝(京都) 山本佳子(東京)

結びのごあいさつ



全国小学校キャリア教育研究協議会
京都市小学校生き方探究・キャリア教育研究会
副会長 鍛治 真知子
(京都市立音羽小学校 校長)

本日は、本大会にご参会くださり誠にありがとうございます。

一日の大半の時間を過ごし、さまざまな経験を積み重ね、知識の獲得、人間形成を行う学校という場。音羽小学校では、学校のすべての教育活動を通して、これからの社会を生きぬく力を育むためにキャリア教育を中心に研究を進め、今年で3年目となりました。

「なりたい自分になるために」を児童、教職員、保護者が共有するために、カリキュラムマネジメント表を校内掲示板に掲示することに加え、キャリア教育でつけたい4つの力を、だれでもがすぐわかるように、キャラクターにして教育活動の中で活用しています。

自分の夢にむかって努力を重ねること、続けることは、これまでも、そしてこれからも変わることではなく、生きていくために欠くことのできない目標になるのだと考えます。

自分が置かれている立場や役割、そして責任は、その時その場の環境や状況、年齢に応じて変わっていくものです。しかし自分の人生の中で変わらずにどんな時も、いくつになっても持ち続けられるものが夢なのではないでしょうか？

夢にむかってがんばっている人は、何かキラキラと輝いているように見えます。輝いている人は、周りの人達に元気の源となるパワーやエネルギーを与えてくれています。見ているうちに「がんばれ！」と応援したくなったり、話した後に心があたたかくなり「また次も話したいな。」と思わせてくれたりするそんな人が、あなたの近くにもいらっしゃるのではないのでしょうか。もしかすると相手にとっては、自分が大切な存在になっているかもしれません。

心豊かに、思いやりの気持ちを大切に、子どもたちとともに未来へむかって、なりたい自分になるために、そしてそんな自分に会うために、人生を丁寧に生きることこそが大切だと感じています。

最後になりましたが、本大会を開催するにあたりまして、文部科学省初等中等教育局 視学官 安部 恭子様、京都市教育委員会生涯学習部 統括首席社会教育主事 稲葉弘和様、日本体育大学教授 橋谷由紀様、京都市まなびの街生き方探究館 指導主事 葉山みどり様、指導主事 吉岡健志様、各関係諸先生方、変わることはない温かいご指導、ご助言並びにご支援を賜りましたことに心より感謝の気持ちを込めてお礼申し上げます。

本日もご参会くださいました皆さま、それぞれの出会いが、お一人お一人の夢や将来に繋がっていますように…と願いを込めまして、私の結びのごあいさつとさせていただきます。